HONDA

N-BOX
N-BOX Custom

OWNER'S GUIDE

オーナーズガイド

はじめに
ビジュアル目次
目次
安全なドライブ 1
計器の見かた 2
各部の操作 3
オーディオ 4
運転 5
メンテナンス 6
万一の場合には 7
こんなときは 8
資料 9
索引

このオーナーズガイドは基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要となる情報が掲載された簡易取扱説明書です。詳しい取扱情報は詳細取扱説明書に掲載されていますので、車両にお乗りになる際には、詳細取扱説明書もお読みください。

■詳細取扱説明書のご案内

Honda ホームページにて、詳細取扱説明書を電子データ形式（HTML 版/PDF 版）で、ご提供しています。
取扱説明書の提供ページで、モデル名と年式を選択し、閲覧をしてください。

取扱説明書の提供ページ
https://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/

なお、Honda ホームページからは、検索ボックスに『取説』と入力することで、この提供ページを検索できます。

QR コード読み取り機能付のスマートフォンやタブレット PC をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちのスマートフォンやタブレット PC 取扱説明書をご確認ください。

また、紙書籍版の詳細取扱説明書は、Honda 販売店にて、ご購入いただけます。
ご購入を希望される方は、Honda販売店にご相談ください。

検索のしかた

本書に記載の内容を探すにあたって、下記の検索方法を設けています。

1 **ビジュアル目次**
車両のイメージイラストに装備名称とその装備の説明ページ番号を記載しています。名称が分からない装備を調べるときや、装備の取付位置から内容を調べたいときにご利用ください。

2 **目次**
本書の各章と記載内容をページ番号順に記載しています。
本書の記載内容から調べたいときにご利用ください。

3 **索引**
装備名称や本書の記載内容を数字・アルファベット・五十音順に記載しています。
装備名称や記載内容から調べたいときにご利用ください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

車両データの記録

■車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します（車内の映像や音声は記録しません。）。

- 車両の状態（車速など）
- 運転状態（アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況）
- SRS エアバックシステムの作動状況
- 車両の故障診断情報

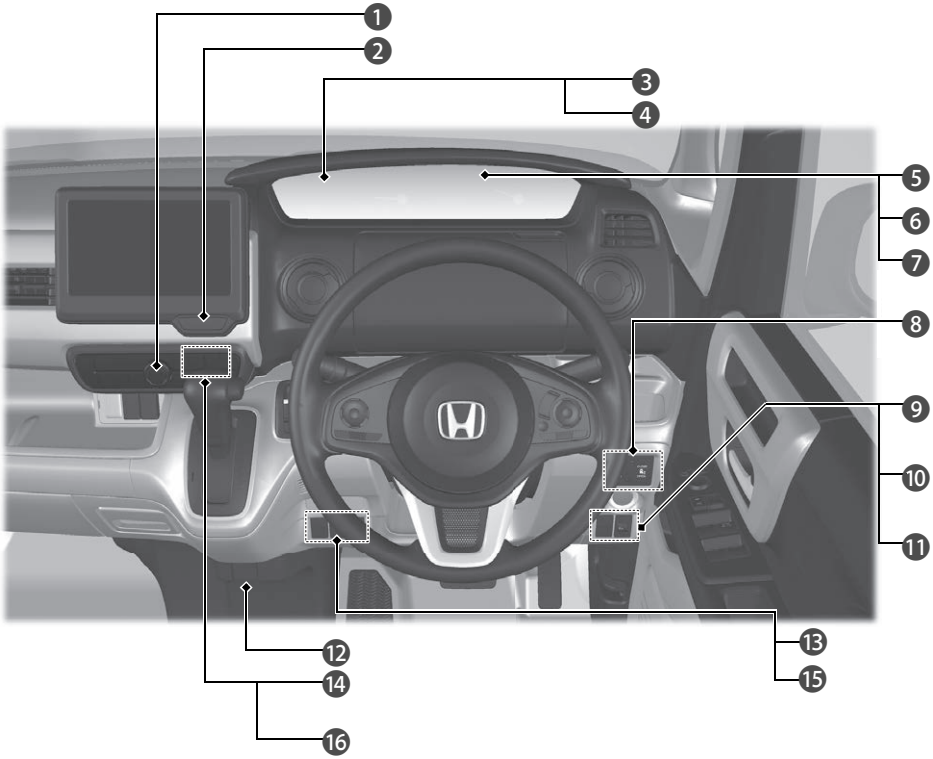
■ データの取り扱いについて

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Hondaの車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。

Hondaは、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車、レンタカーの場合は借主の同意）がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

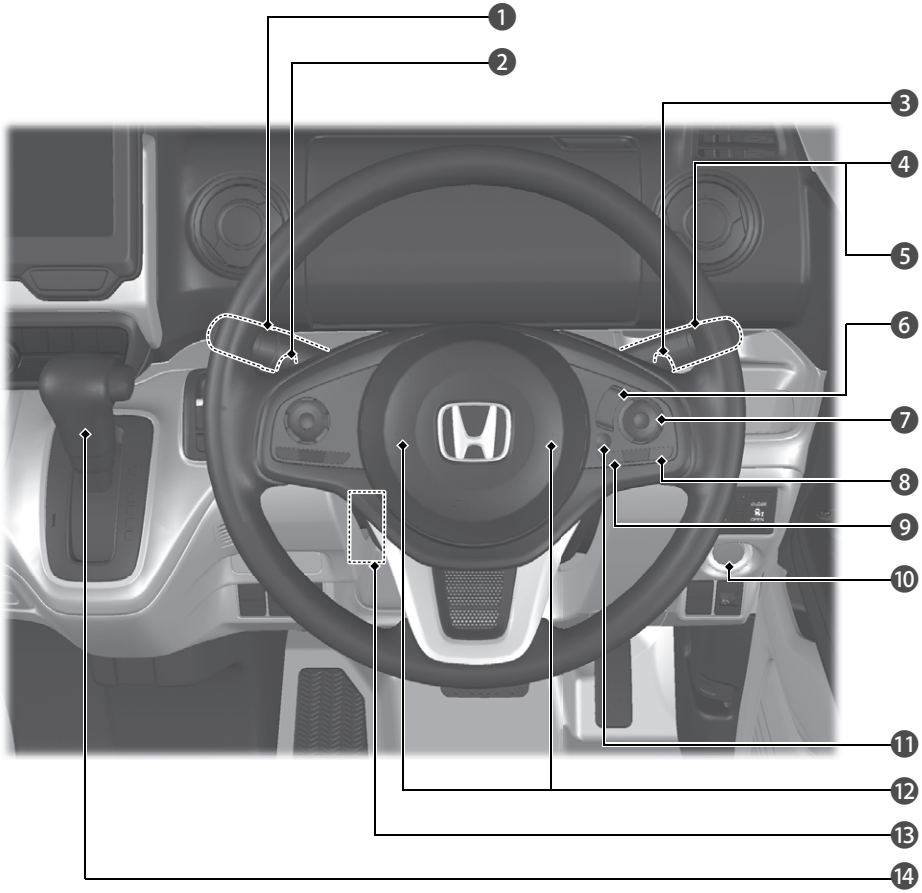
ビジュアル目次



1. オートエアコン（P. 149）
2. 非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）
3. マルチインフォメーション ディスプレイ（P. 81）
4. 時計 / 日付（P. 84）
5. メーター
6. 警告灯（P. 53）
7. 表示灯（P. 62）
8. パワースライドドアスイッチ*
9. (路外逸脱抑制) スイッチ（P. 200）
10. (CMBS OFF) スイッチ（P. 168）
11. ヘッドライトレベリングダイヤル（P. 104）
12. アクセサリーソケット（P. 131）
13. (VSA OFF)スイッチ（P. 161）
14. リヤデフロスタースイッチ / ヒーテッドドアミラー* スイッチ（P. 110）
15. パーキングセンサーシステムスイッチ（P. 221）
16. デフロスタースイッチ

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。

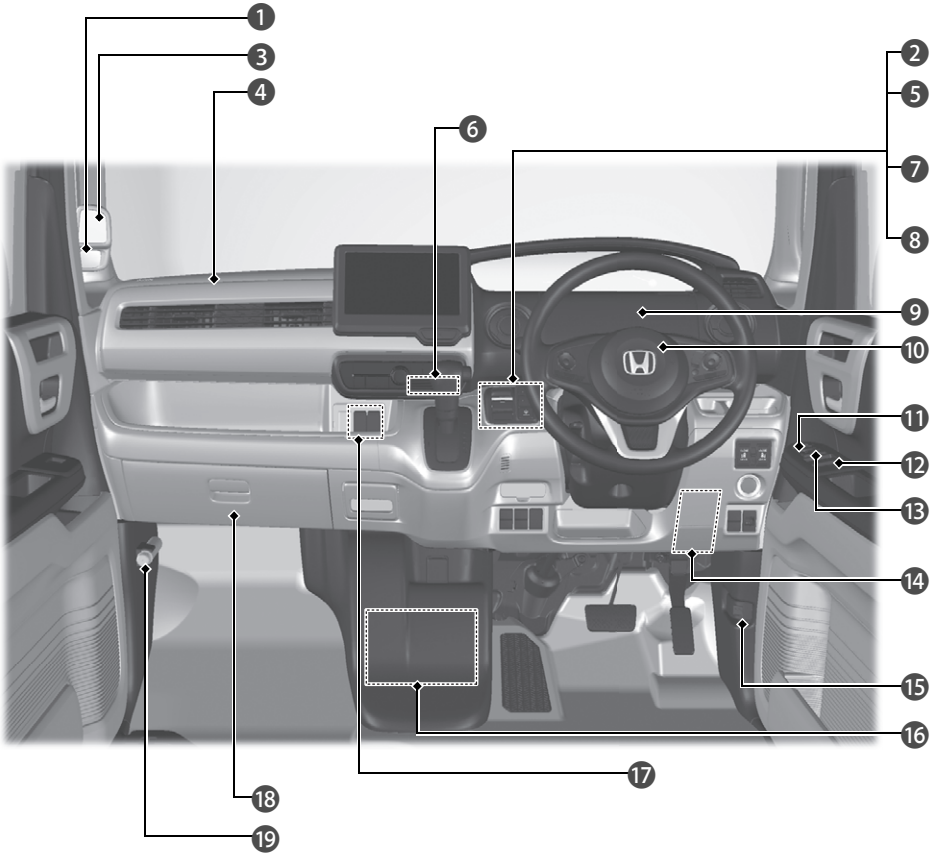
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



1. ワイパー/ ウォッシャースイッチ (P. 108)
2. シフトスイッチ(シフトダウン)* (P. 158)
3. シフトスイッチ(シフトアップ)* (P. 158)
4. ライト / 方向指示器(ウィンカー)スイッチ (P. 103)
5. フォグライトスイッチ*
6. インフォメーション(i)スイッチ (▲/▼) (P. 81)
7. ディスタンススイッチ (P. 187)
8. (LKAS)スイッチ (P. 194)
9. MAIN スイッチ (P. 181)
10. ENGINE START/STOP スイッチ (P. 102)
11. TRIP スイッチ (P. 82)
12. ホーンスイッチ (周辺)
13. ハンドル位置調節レバー (P. 111)
14. シフトレバー (P. 156)

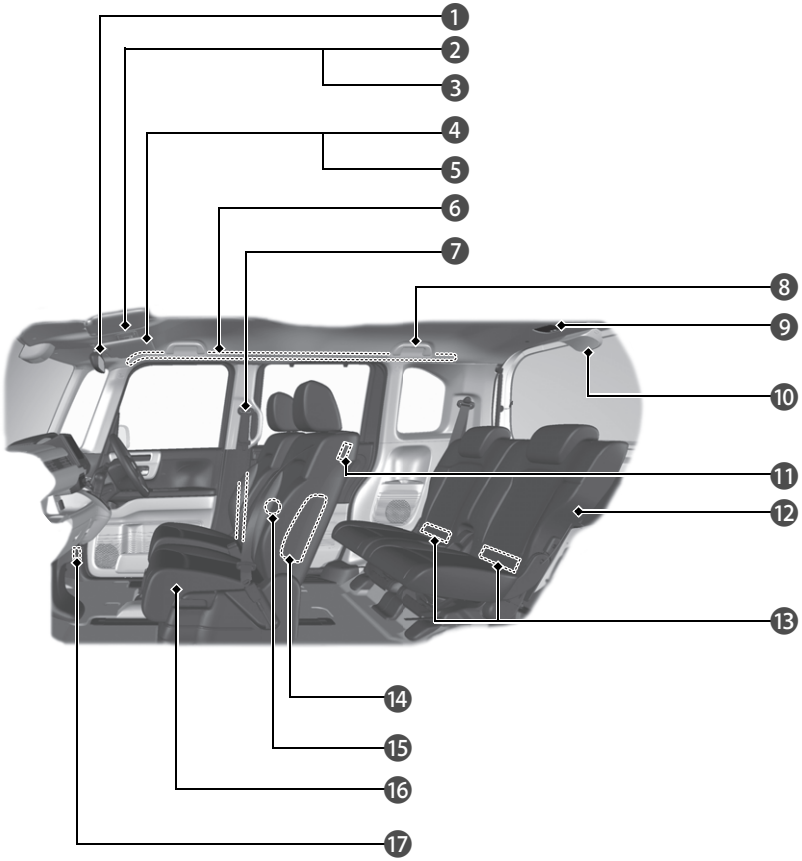
参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



1. サイドアンダーミラー (P. 114)
2. ECON スイッチ (P. 159)
3. サイドビューサポートミラー (P. 113)
4. SRS エアバッグシステム(助手席用) (P. 23)
5. イルミネーションコントロールスイッチ (P. 110)
6. シートヒータースイッチ* (P. 132)
7. パーキングブレーキスイッチ (P. 212)
8. オートマチックブレーキホールドスイッチ(P. 215)
9. 運転席アッパーボックス (P. 128)
10. SRS エアバッグシステム(運転席用) (P. 23)
11. ドアミラー調節スイッチ (P. 112)
12. パワーウィンドースイッチ (P. 100)
13. マスタードアロックスイッチ (P. 92)
14. 室内のヒューズボックス (P. 280)
15. ボンネット解除ノブ (P. 232)
16. センターボックス* (P. 128)
17. USB ジャック(充電専用)* (P. 131)
18. グローブボックス (P. 128)
19. 発炎筒 (P. 250)

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

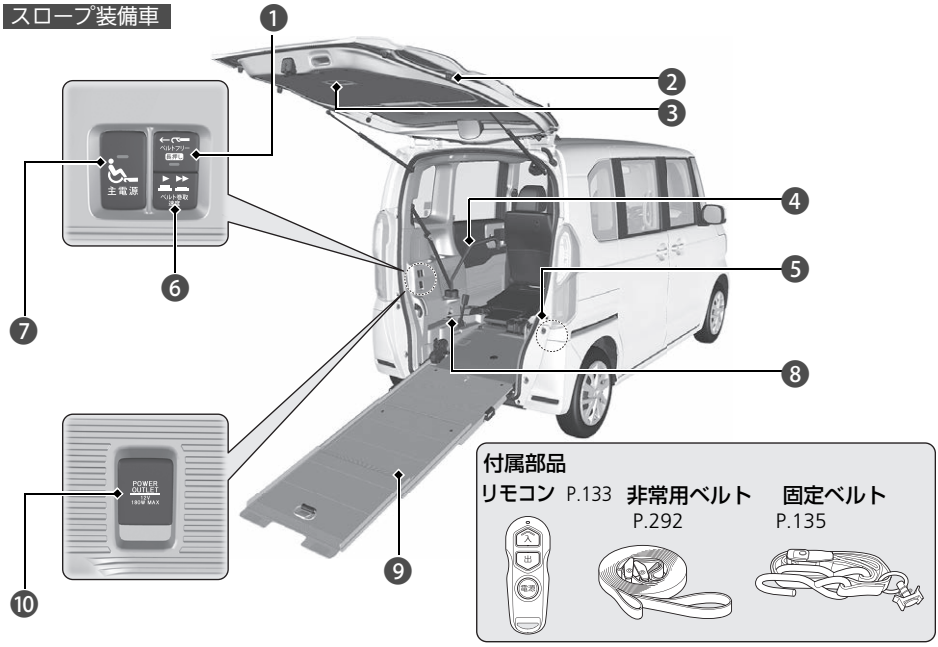


1. ルームミラー（P. 112）
2. 室内灯（P. 128）
3. マップランプ
4. サンバイザー
5. バニティミラー
6. サイドカーテンエアバッグシステム*（P. 27）
7. シートベルト（P. 15）
8. グラブレール
9. カーゴスペース照明灯
10. 後方視角支援ミラー（P. 115）
11. コンビニフック*（P. 130）
12. リヤシート（P. 119）
13. ISOFIX/i-Size 取付装置（P. 41）
14. サイドエアバッグシステム*（P. 25）
15. コンビニフック*（P. 130）
16. フロントシート（P. 116）
17. コンビニフック*（P. 130）

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。

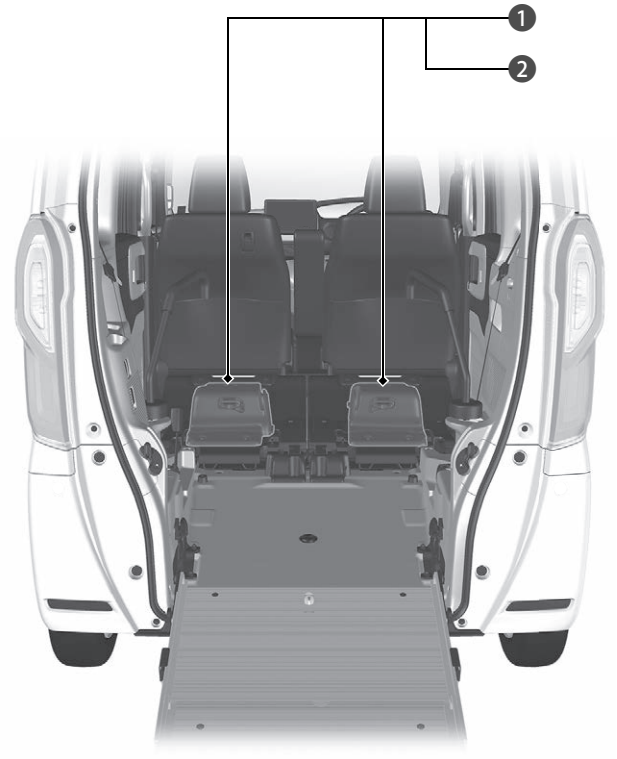
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

スロープ装備車

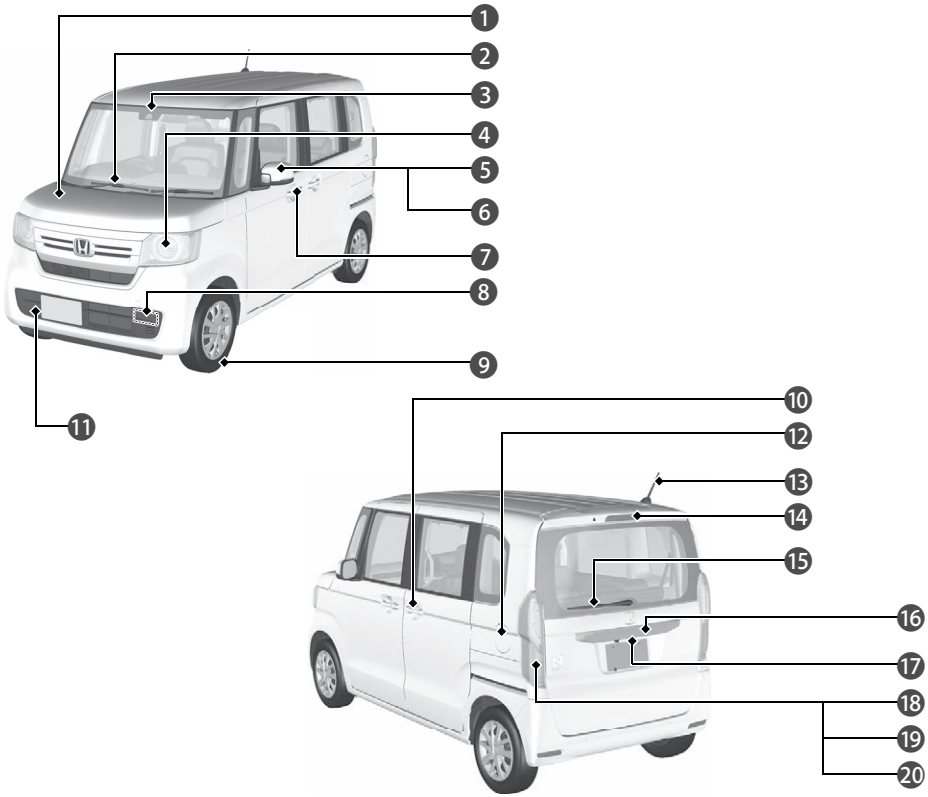


❶ ベルトフリー スイッチ (P. 141)
❷ バックドア(テールゲート)
❸ スロープライト
❹ ハンドレール (P. 140)
❺ 三点式シートベルト(腰部のベルト) (P. 48)
❻ ベルト巻取速度 スイッチ (P. 142)
❼ 主電源 スイッチ (P. 141)
❽ 三点式シートベルト(肩部のベルト) (P. 50)
❾ スロープ (P. 135)
❿ アクセサリーソケット (P. 131)

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。



1 電動ウインチユニット (P. 141)
2 ウインチベルト (P. 141)



1. エンジンルーム内のメンテナンス (P. 231)
2. ワイパー (P. 108, P. 237)
3. フロントセンサーカメラ (P. 208)
4. ヘッドライト (P. 103, P. 234)
5. ドアミラー (P. 112)
6. ドアミラーウィンカー (P. 234)
7. ドアの施錠 / 解錠 (P. 86)
8. フォグライト* (P. 234)
9. タイヤ (P. 241, P. 251, P. 259)
10. スライドドアの開閉 (P. 94)
11. レーダーセンサー (P. 209)
12. 給油のしかた (P. 224)
13. アンテナ (P. 150)
14. ハイマウントストップランプ (P. 236)
15. リヤワイパー (P. 109, P. 239)
16. テールゲートの開閉 (P. 93)
17. 番号灯 (P. 236)
18. 制動灯 / 尾灯 (P. 234)
19. ウィンカー (P. 235)
20. 後退灯 (P. 235)

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

目次

■はじめに …… 1
検索のしかた …… 1
安全に関する表示 …… 2
その他の表示 …… 2
車両データの記録 …… 2
■安全なドライブ …… 14
安全なドライブのために …… 14
安全のための確認事項 …… 14
シートベルト …… 15
シートベルトについて …… 15
シートベルトの着用 …… 17
シートベルトの点検 …… 20
シートベルトのアンカーポイント …… 21
エアバッグ …… 23
エアバッグの種類 …… 23
SRS エアバッグ …… 23
サイドエアバッグ* …… 25
サイドカーテンエアバッグ* … 27
エアバッグシステム警告灯 …… 28
エアバッグのお手入れ …… 29
お子さまの安全 …… 30
お子さまの安全を守るために … 30
乳幼児の安全 …… 31
大きなお子さまの安全 …… 45
排気ガスの危険性 …… 47
一酸化炭素について …… 47
三点式シートベルトの着用 …… 48
■計器の見かた …… 52
警告灯と表示灯 …… 53
警告灯 …… 53
表示灯 …… 62
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ … 67
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ …… 80
マルチインフォメーションディスプレイ …… 81
エコアシストシステム …… 83
■各部の操作 …… 84
時刻 / 日付の設定 …… 84
時計の日付を合わせる …… 84
時計の時刻を合わせる …… 85
ドアの施錠と解錠 …… 86
キー …… 86
Honda スマートキーの微弱電波 …… 87
車外でのドアの施錠 / 解錠 …… 88
車内での施錠 / 解錠 …… 91
チャイルドプルーフ …… 92
オートドアロック / オートドアアンロック …… 92
テールゲート …… 93
テールゲート開閉時の注意 …… 93
スライドドア …… 94
スライドドア開閉時の注意 …… 94
スライドドアの開閉操作 …… 95
パワースライドドアの開閉操作* …… 95
イージードアクローザー* …… 97
セキュリティシステム …… 98
イモビライザーシステム …… 98
セキュリティアラームシステム …… 98
ウィンドーの開閉 …… 100
パワーウィンドーの開閉 …… 100
ハンドルまわりのスイッチ操作 …… 102
ENGINE START/STOP スイッチ …… 102
ライトの使いかた …… 103
ヘッドライトレベリングダイヤル …… 104
オートハイビーム …… 105
ワイパー / ウォッシャー …… 108
リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー* スイッチ …… 110
イルミネーションコントロール …… 110
ハンドルの調節 …… 111

ミラー類の調節 …… 112
ルームミラー …… 112
ドアミラー …… 112
サイドビューサポート ミラー …… 113
サイドアンダーミラー …… 114
後方視角支援ミラー …… 115
シートの調節 …… 116
フロントシート …… 116
リヤシート …… 119
リフレッシュモード …… 124
ヘッドレスト …… 125
アームレスト* …… 127
室内装備品 …… 128
室内灯 …… 128
収納装備 …… 128
その他の室内装備品 …… 131
車いすの乗せかた、降ろしかた …… 139
エアコン …… 148
エアコンの吹き出し口 …… 148
オートエアコンの使いかた … 149
オートエアコンのセンサー … 149
■オーディオ …… 150
オーディオ装置 …… 150
アンテナ …… 150
■運転 …… 151
運転の前に …… 151
運転の準備 …… 151
運転操作 …… 153
エンジンの始動 …… 153
走行時の注意点 …… 155
無段変速オートマチックについて …… 155
シフト操作 …… 156
ECON スイッチ …… 159
アイドリングストップシステム …… 159
VSA（ビークルスタビリティアシスト）…… 160
アジャイルハンドリングアシスト …… 161
4WD（四輪駆動機構）* …… 162
ホンダセンシング …… 163
各機能を作動させるためのスイッチと表示 …… 164
衝突軽減ブレーキ（CMBS）… 165
誤発進抑制機能 …… 171
後方誤発進抑制機能 …… 173
歩行者事故低減ステアリング …… 175
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) …… 180
車線維持支援システム (LKAS) …… 192
路外逸脱抑制機能 …… 198
先行車発進お知らせ機能 …… 202
標識認識機能 …… 204
フロントセンサーカメラ …… 208
レーダーセンサー …… 209
ソナーセンサー …… 210
ブレーキ操作 …… 212
ブレーキシステム …… 212
ABS（アンチロックブレーキシステム）…… 218
電子制御ブレーキアシスト … 218
エマージェンシーストップシグナル …… 219
駐停車操作 …… 220
駐車する …… 220
パーキングセンサーシステム …… 221
給油 …… 224
給油のしかた …… 224
ターボ車* について …… 226
取り扱い …… 226
■メンテナンス …… 227
メンテナンスの前に …… 227
点検整備について …… 227
メンテナンスを安全に行うために …… 228
オイルメンテナンス表示* …… 229
オイルメンテナンス情報の表示 …… 229

エンジンルーム内のメンテナンス …… 231
エンジンルーム内のメンテナンス項目 …… 231
ボンネットを開ける …… 232
推奨エンジンオイル …… 233
ウィンドウォッシャー液の補給 …… 233
電球の交換 …… 234
ヘッドライト電球 …… 234
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球 …… 234
車幅灯電球 …… 234
フォグライト電球* …… 234
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球 …… 234
制動灯 / 尾灯電球 …… 234
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球 … 235
ハイマウントストップランプ電球 …… 236
番号灯電球 …… 236
ワイパーブレードラバーの点検と整備 …… 237
ワイパーブレードラバーの点検 …… 237
フロントワイパーブレードラバーの交換 …… 237
リヤワイパーブレードラバーの交換 …… 239
タイヤの点検と整備 …… 241
タイヤの点検 …… 241
タイヤとホイールの交換 …… 242
タイヤのローテーション …… 243
冬期のタイヤ …… 244
Honda スマートキー …… 245
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 …… 245
清掃 …… 246
アクセサリーと改造 …… 247
アクセサリー …… 247
改造や部品交換について …… 247
車いす固定装置の点検 …… 248
■万一の場合には …… 250
発炎筒 …… 250
パンクしたとき …… 251
パンクしたタイヤの応急修理…… 251, 259
ジャッキの取り扱い …… 268
ジャッキのかけかた …… 268
エンジンが始動しない …… 271
エンジンの状態の確認 …… 271
Honda スマートキーの電池が切れたとき…… 272
緊急時のエンジン停止方法 … 272
バッテリーがあがったとき …… 273
ジャンプスタートの方法 …… 273
シフトレバーが動かない …… 276
オーバーヒート …… 277
オーバーヒートしたときの対処方法…… 277
ヒューズ …… 278
ヒューズの設置場所 …… 278
ヒューズの点検と交換 …… 282
けん引 …… 283
非常時のけん引 …… 283
フューエルリッドが解錠できないとき …… 287
テールゲートが開かないとき … 288
ウインチベルトが作動しないとき …… 290
■こんなときは …… 295
■資料 …… 298
仕様：N-BOX …… 298
仕様：N-BOX Custom …… 300
■索引 …… 302

1 安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P.17
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P.30
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

⚠警告

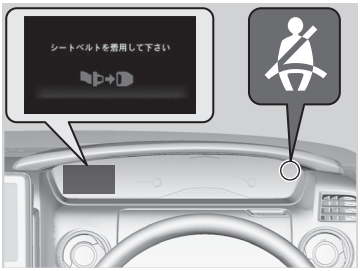
シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

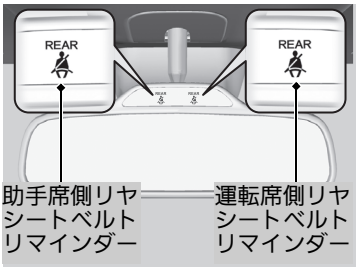
シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■ シートベルトリマインダー



■フロントシート

パワーモードを ON モードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。



リヤシートベルトリマインダー装備車

■リヤシート

パワーモードをONモードにしたときや、パワーモードがONモードのときに後席ドアを開閉したり、リヤシートベルトを着脱すると、警告灯がルームミラーに点灯します。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面*からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

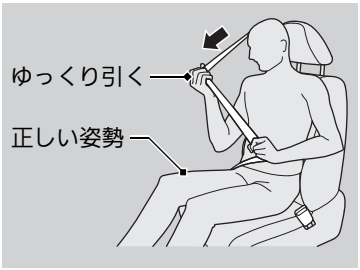
⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

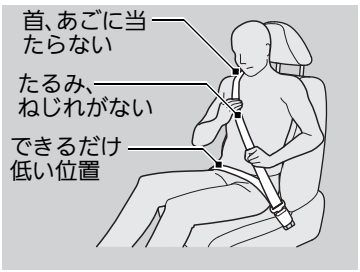
シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
   ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
   ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
   ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

アームレスト装備車

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。
シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

➔ **シートベルトについて** P.15
➔ **シートベルトの点検** P.20

ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

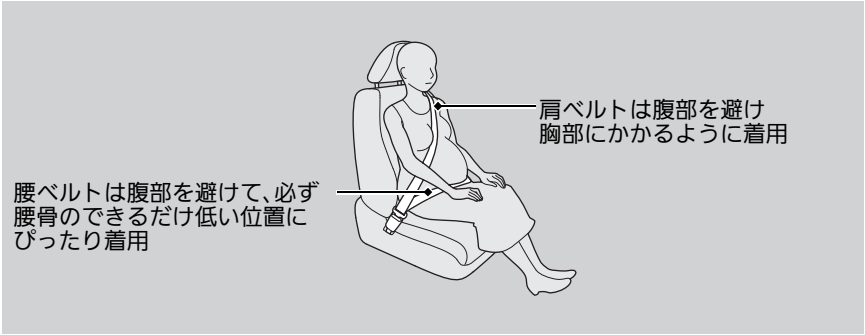
シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

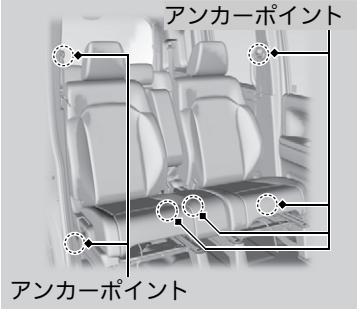
- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

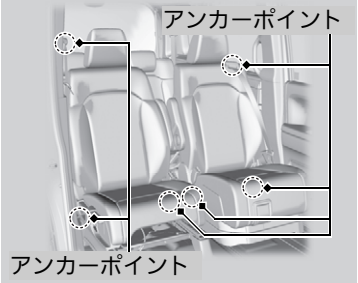
シートベルトのアンカーポイント

フロントシート
ベンチシート装備車

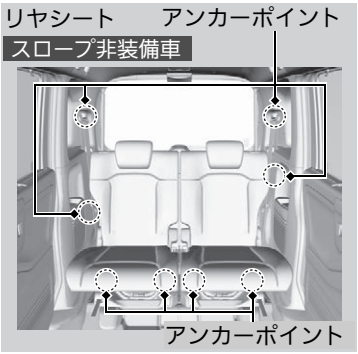


シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。

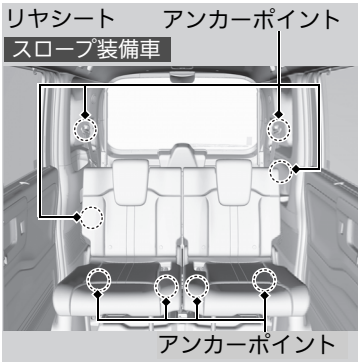
フロントシート
助手席スーパースライドシート装備車

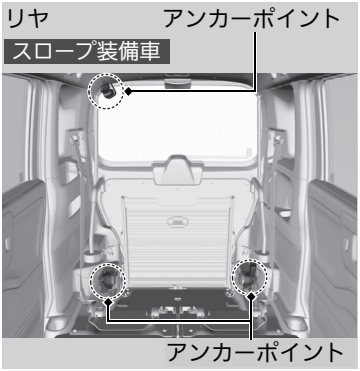


リヤシート　アンカーポイント
スロープ非装備車



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。


リヤシート
アンカーポイント
スロープ装備車
アンカーポイント


リヤ
アンカーポイント
スロープ装備車
アンカーポイント

エアバッグ

エアバッグの種類

- **SRS エアバッグ:** フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ*:** フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ*:** 窓側の天井部両側についたエアバッグ

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS: サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■ 格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 作動のしくみ

SRSエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

■SRS エアバッグの作動

前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

⚠注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ*

側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

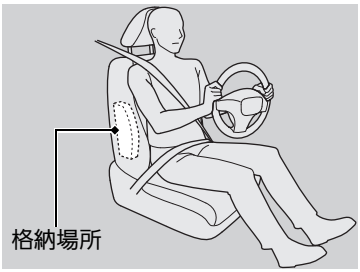
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

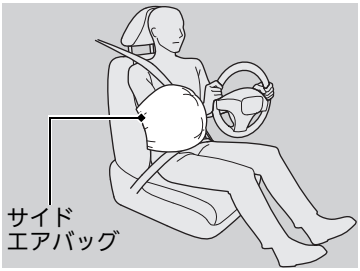
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

■ 格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドカーテンエアバッグ*

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。
- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

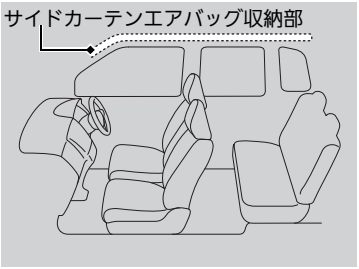
⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。
収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

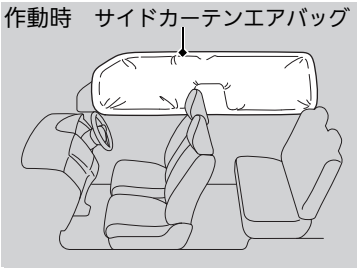
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■ 作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➔ **作動条件** P.26

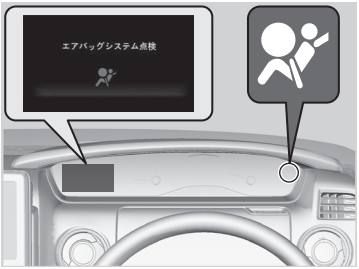
■ 前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRSエアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■ エアバッグシステム警告灯



■ パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードをONモードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

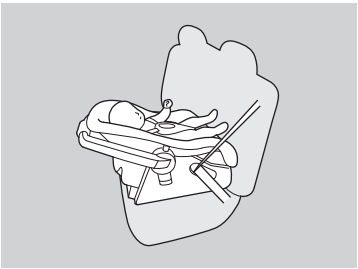
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- サイドエアバッグシステム装備車は、お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

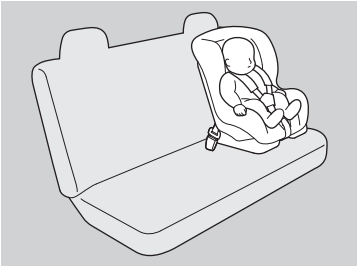
⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。
助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■ チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシートに付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

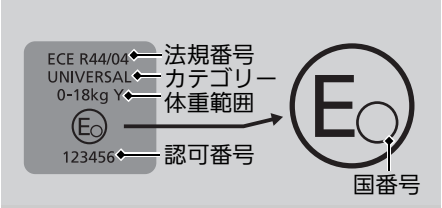
- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

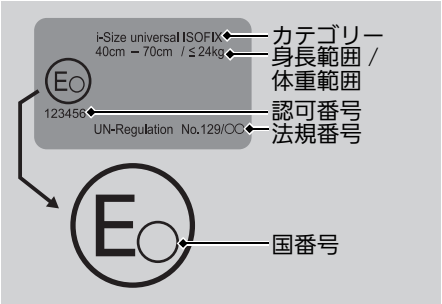
UN基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたはISOFIX/i-Sizeチャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

Honda純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

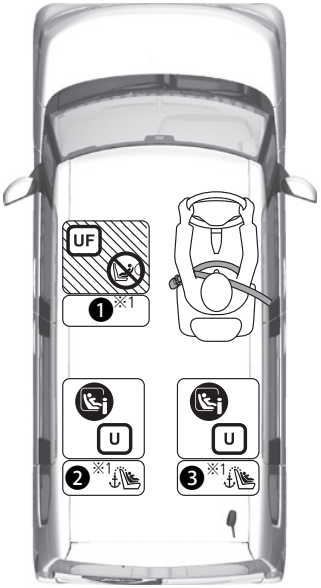
UN R44 認可表示(例)



UN R129 認可表示(例)



■ シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size　チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
- ブースターチャイルドシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調整してください。

その時、チャイルドシートがシートベルトの肩アンカーより前方にあることを確認してください。
ショルダーアンカーが前すぎてチャイルドシートが安定しない場合、シートバック角度やシートスライドを調整してください。

	サイズグループ 重量 身長		シートの位置及びシート位置番号 ❶ 助手席 ※1、※2	 ❷ 後席 (左側)※1	 ❸ 後席 (右側)※1
ベルト固定の汎用 (ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有 / 無)	Group 0	Up to 10kg	無	有	有
	Group 0+	Up to 13kg			
	Group I	9 − 18kg	有	有	有
	Group II	15 − 25kg			
	Group III	22 − 36kg			
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有 / 無)	≦ 150cm		無	有	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有 / 無)※3	Honda 純正チャイルドシートリスト参照		有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具(L1/L2)	—		無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具(R1/R2X/R2/R3)	Group 0	Up to 10kg	無	R3	R3
	Group 0+	Up to 13kg			
	Group I	9 − 18kg			
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具(F2X/F2/F3)	Group I	9 − 18kg	無	F3	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具(B2/B3)	≦ 150cm		B3	B3	B3

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

※2: 前向き取り付けのみ。

※3: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。
Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります。チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Sizeチャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

- ブースターチャイルドシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調整してください。

その時、チャイルドシートがシートベルトの肩アンカーより前方にあることを確認してください。
ショルダーアンカーが前すぎてチャイルドシートが安定しない場合、シートバック角度やシートスライドを調整してください。

⚠警告

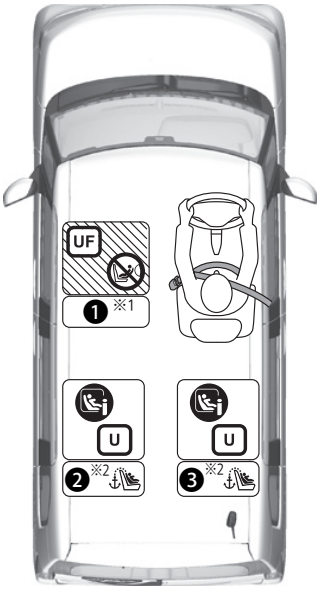
シートベルトは必ず正しく着用する
シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

スロープ装備車

■ シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
i-Size	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

※2: R3 サイズの ISOFIX チャイルドシートを取り付けた時に前席の背面と干渉する場合、前席のシートバック位置を最前ロック位置にし、シートスライドを最前端位置から 7 段目に調整してください。

- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size　チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
- ブースターチャイルドシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調整してください。

その時、チャイルドシートがシートベルトの肩アンカーより前方にあることを確認してください。
ショルダーアンカーが前すぎてチャイルドシートが安定しない場合、シートバック角度やシートスライドを調整してください。

	サイズグループ 重量 身長		シートの位置及びシート位置番号 ❶ 助手席 ※1、※2	❷ 後席 （左側）	❸ 後席 （右側）
ベルト固定の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	Group 0	Up to 10kg	無	有	有
	Group 0+	Up to 13kg			
	Group I	9 － 18kg	有	有	有
	Group II	15 － 25kg			
	Group III	22 － 36kg			
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	≦ 150cm		無	有	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）※3	Honda 純正チャイルドシートリスト参照		有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	―		無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	Group 0	Up to 10kg	無	R3※4	R3※4
	Group 0+	Up to 13kg			
	Group I	9 － 18kg			
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	Group I	9 － 18kg	無	F3	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	≦ 150cm		B3	B3	B3

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

※2: 前向き取り付けのみ。

※3: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります。チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

※4: R3 サイズの ISOFIX チャイルドシートを取り付けた時に前席の背面と干渉する場合、前席のシートバック位置を最前ロック位置にし、シートスライドを最前端位置から 7 段目に調整してください。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Sizeチャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

- ブースターチャイルドシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調整してください。

その時、チャイルドシートがシートベルトの肩アンカーより前方にあることを確認してください。
ショルダーアンカーが前すぎてチャイルドシートが安定しない場合、シートバック角度やシートスライドを調整してください。

⚠警告

シートベルトは必ず正しく着用する
シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■ 推奨チャイルドシート

UN R44 適合チャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	カテゴリー
0 10kg 未満 (0 － 9ヶ月)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
0 ＋ 13kg 未満 (0 － 2 歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
I 9 － 18kg (9ヶ月－ 4 歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(前向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(前向き)
II、III 15 － 36kg (4 － 12 歳)	Honda ジュニアシート	汎用シートベルト固定

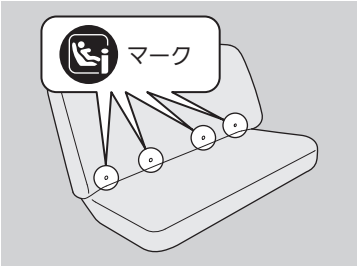
UN R129 適合チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-size	i-Size (後向き)
身長 71cm 以上かつ月齢 15 か月以上ー身長 100cm 以下		i-Size(後向き / 前向き)

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、リヤシートに設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。

スロープ非装備車

2. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

➡ **背もたれの調節** P.119



共通操作

3. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。

▶取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

スロープ非装備車



トップテザーストラップ付きチャイルドシート

4. ヘッドレストを調節して最上段で固定する。トップテザーストラップが 1 本タイプの場合はストラップをヘッドレストの下に通し、2本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。
   ▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

スロープ装備車



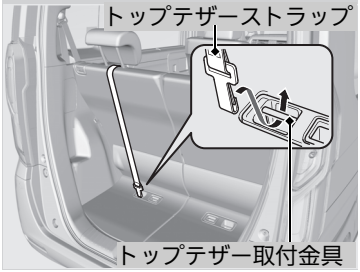
スロープ装備車

5. トップテザー取付金具のカバーを取り外す。

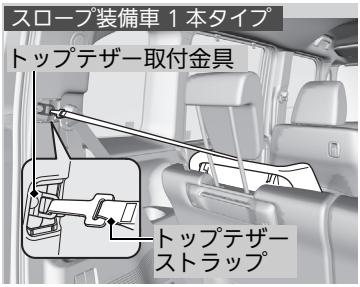
⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

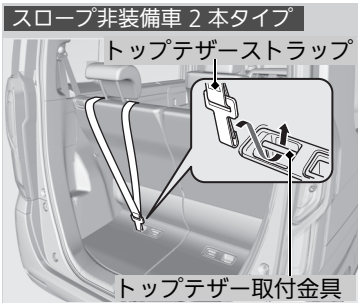
スロープ非装備車 1 本タイプ



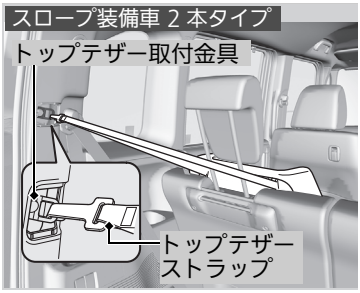
スロープ装備車 1 本タイプ



スロープ非装備車 2 本タイプ

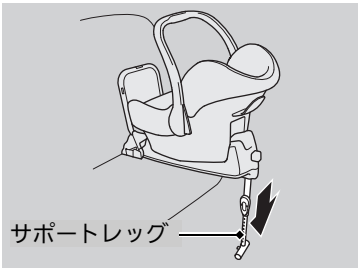


スロープ装備車 2 本タイプ



共通操作

6. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。
7. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。



サポートレッグ付きチャイルドシート

4. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

スロープ非装備車

▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。
シートの前後位置によっては、サポートレッグの設置フロア面が水平ではなく安定しないことがあります。その場合は、シート前後位置を調整してください。

▶ スライドレールやカバーにサポートレッグが接地しないことを確認してください。

スロープ装備車

▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。

共通操作

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

⚠注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

リヤシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

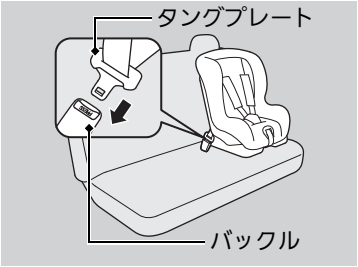
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

■ シートベルトでの取り付け



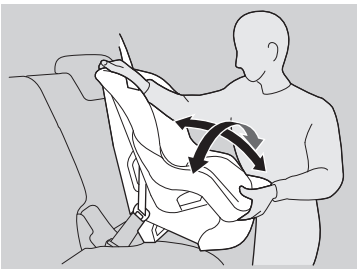
スロープ非装備車

1. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

➡ **背もたれの調節** P.119

共通操作

2. チャイルドシートを座席に置く。
3. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
4. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。



⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

大きなお子さまの安全

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

⚠警告

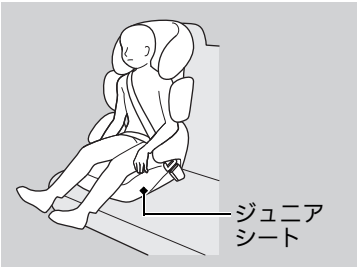
お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

➡ **やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合** P.46

■ ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる

  助手席スーパースライドシート装備車

  助手席を運転席の最後方位置より後ろに下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

この車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

三点式シートベルトの着用

スロープ装備車

車いすに座っている人専用の ELR 付三点式シートベルトを装備しています。

■ELR 付三点式シートベルト

体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

⚠警告

シートベルトは、以下のことに注意し、必ず正しく着用する。

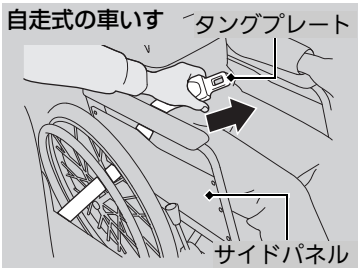
- 腰部のベルトと肩部のベルトを両方着用する
- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用する
- 肩部のベルトはベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用する

正しく着用していないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

■ 腰部のベルト

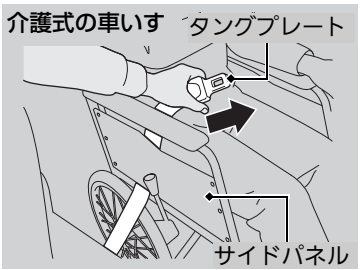
車いすの種類によってシートベルトの通しかたが異なります。

イラストを参考にして、ベルトを通してください。



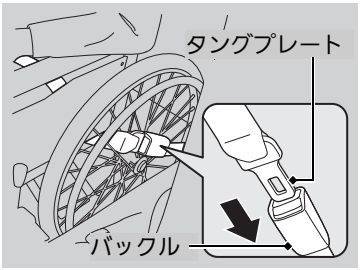
自走式の車いす

1. タングプレートをつかみ、車いすの主車輪のスポークの間を通してからサイドパネルの下を通す。



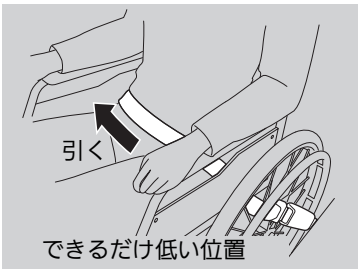
介護式の車いす

1. タングプレートをつかみ、サイドパネルの下から通す。

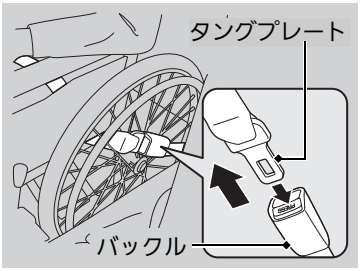


共通操作

2. ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中に「カチリ」と音がするまで差し込む。



3. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように戻し方向へ引き、たるみがないように身体に密着させる。



■外すとき

バックルの赤色の PRESS を押して外す。

ベルトが自動的に巻き取られますので、タングプレートに手を添えてゆっくり巻き取らせてください。

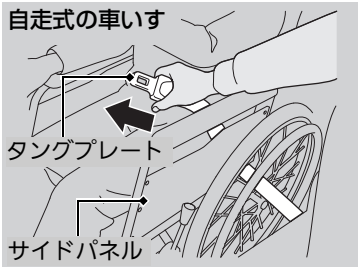
シートベルトを使い終わったらバックルを下まで倒して格納してください。

■ 肩部のベルト

⚠注意

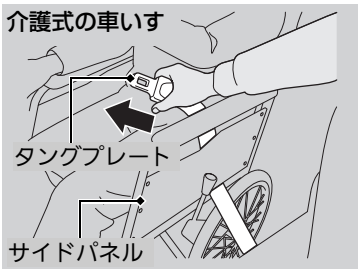
肩部のベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

車いすの種類によってシートベルトの通しかたが異なります。
イラストを参考にして、ベルトを通してください。



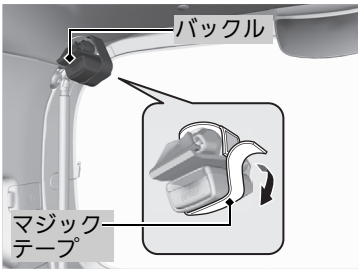
自走式の車いす

1. タングプレートをつかみ、車いすの主車輪のスポークの間を通してからサイドパネルの下を通す。
   ▶ ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにする。



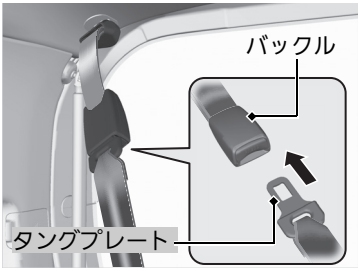
介護式の車いす

1. タングプレートをつかみ、サイドパネルの下から通す。
   ▶ ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにする。

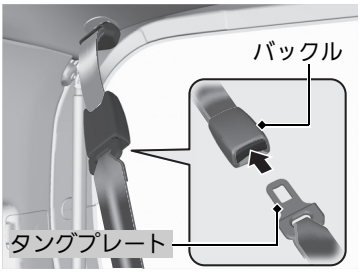


共通操作

2. マジックテープをはがし、バックルを取り外す。

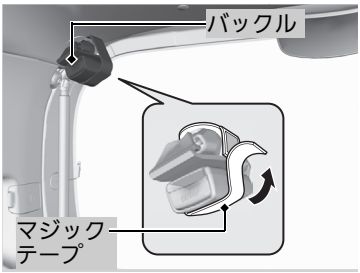


3. ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中に「カチリ」と音がするまで差し込む。
4. ベルトにねじれ、たるみ、引っかかりがないかを確認する。



■外すとき

1. バックルの赤色の PRESS を押して外す。



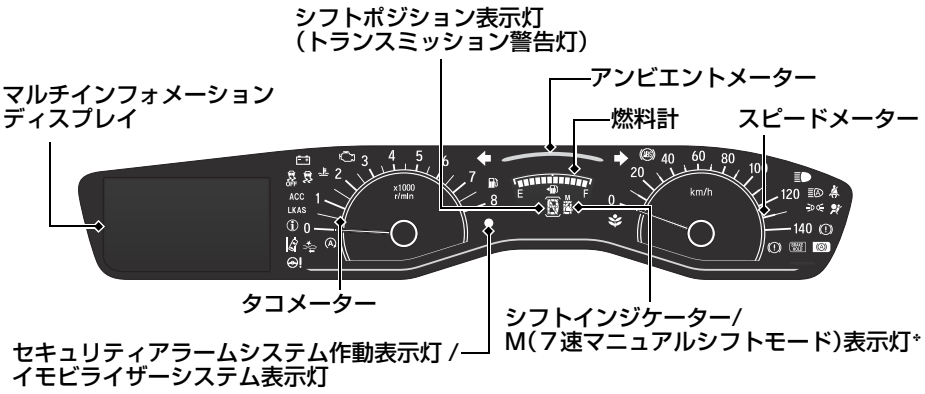
2. バックルをマジックテープで固定する。

ベルトが自動的に巻き取られますので、タングプレートに手を添えてゆっくり巻き取らせてください。

2 計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯(P. 53)/ 表示灯(P. 62)/ メーター(P. 80)/
マルチインフォメーションディスプレイ(P. 81)



警告灯 / 表示灯

- インフォメーション表示灯
- アイドリングストップ表示灯(グリーン)
  アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)
- VSA OFF 警告灯
- VSA 警告灯
- シートベルト非着用警告灯
- エアバッグシステム警告灯
- 方向指示器 / 非常点滅表示灯
- PGM-FI 警告灯
- 充電警告灯
- ECON モード 表示灯
- ACC 渋滞追従機能付 ACC 警告灯(オレンジ)/
  渋滞追従機能付 ACC 表示灯(グリーン)
- LKAS LKAS 警告灯(オレンジ)/
  LKAS 表示灯(グリーン)

警告灯 / 表示灯

- 路外逸脱抑制機能警告灯
- CMBS 警告灯
- ABS 警告灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- 燃料残量警告灯
- 低水温表示灯
- EPS システム警告灯
- BRAKE HOLD オートマチックブレーキホールドシステム表示灯
- オートマチックブレーキホールド表示灯

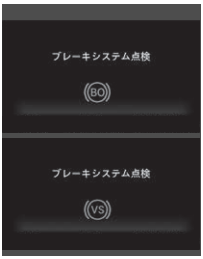
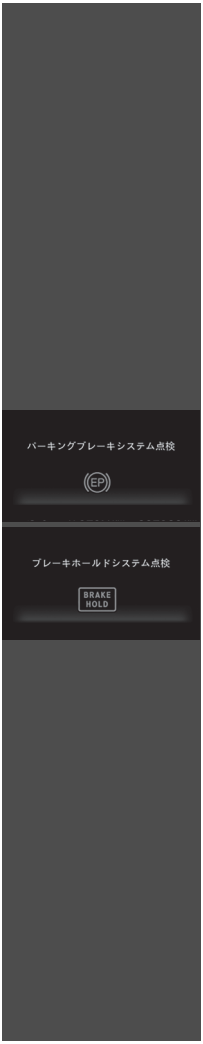
ライト表示灯

- ハイビーム表示灯
- ライト点灯表示灯
- フォグライト点灯表示灯*
- オートハイビーム表示灯

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯 • パワーモードがアクセサリーモードまたは OFF モードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードを OFF モードにするとしばらく点灯した後、消灯 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合は Honda 販売店にご連絡ください。 • ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。 • ABS警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • パーキングブレーキが故障して作動しません。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	
		• 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車しHonda販売店へご連絡ください。 ▶車両が動き出さないように、シフトレバーを P にしてください。 • ブレーキ警告灯(レッド)だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。 • ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	PGM-FI 警告灯	• エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	**点灯したときは** 高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 アドバイス PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。 **点滅したときは** 枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。 アドバイス エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。	
	充電警告灯	• 充電システムに異常があるときに点灯	• **走行中に点灯** = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。 エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに点滅	• 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードを ON モードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.16	
	リヤシートベルト非着用警告灯*	• パワーモードを ON モードにしたときに、リヤシートベルトを着用していないと点灯し、約 30 秒経過すると消灯 • パワーモードが ON モードのときに、後席ドアを開閉すると警告灯が点灯し、リヤシートベルトを着用すると消灯 • 警告灯は点灯後、約 30 秒で消灯	• リヤシートベルトを着用すると警告灯が消灯します。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.16	—

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 4.0 リットル(2WD 車)、3.7 リットル(4WD 車)になったときです。	
		• 燃料計に異常があるときは点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
ACC	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	• 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	—
LKAS	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	• LKAS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯	• ABS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ➔ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.218	
	エアバッグシステム警告灯	• エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
	VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• VSA が作動しているときは点滅 • VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、電子制御ブレーキアシスト、発進補助ブレーキ機能、アジャイルハンドリングアシストのいずれかが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➔ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.160	
	VSA OFF 警告灯	• VSA を OFF にすると点灯	➔ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.160	—

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯	• CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFF にしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.165 • 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.208	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯	• トンネルなど、閉鎖された空間を通過すると警告灯が一時的に点灯することがあります。 • フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➔ **レーダーセンサー** P.209	
		• 後方誤発進抑制機能に異常があると点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **後方誤発進抑制機能** P.173	
		• リヤバンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があり、後方誤発進抑制機能が使用できなくなると点灯	• 安全な場所でリヤバンパーの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **後方誤発進抑制機能** P.173	
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	—
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• EPS システムが異常のときに点灯	**点灯したらすること** • 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する。 • 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	• アイドリングストップシステムに異常があるときに点滅	• 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯	• 路外逸脱抑制機能に異常があるときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.208	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.208	
		• トンネルなど、閉鎖された空間を通過すると警告灯が一時的に点灯することがあります • フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➔ **レーダーセンサー** P.209	
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	—

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➔ **電球の交換** P.234, 235	—
		• 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	➔ **エマージェンシーストップシグナル** P.219	
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトが上向きのときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	• 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	➔ **ライトの使いかた** P.103	—
	低水温表示灯	• エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯	• メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、インフォメーション()スイッチ(▲/▼)を押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション()スイッチ(▲/▼)を押すと、メッセージを再表示させる事ができます。	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	イモビライザーシステム表示灯	• ENGINE START/STOP を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• ENGINE START/STOP を押したあと、点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。パワーモードをいったんOFF モードにしてから、もう一度ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますのでHonda販売店で点検を受けてください。 • ENGINE START/STOP スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➔ **セキュリティアラームシステム** P.98	—
ACC	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) 表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.180	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
LKAS	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	➔ **車線維持支援システム (LKAS)** P.192	—
P	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションを表示	• 外気温が低い場合には、シフトポジションの表示が遅れます。 ➔ **シフトレバーの操作** P.157	—
M	シフトインジケーター/**M**(7 速マニュアルシフトモード)表示灯*	• シフトポジションが S で、7 速マニュアルシフトモードのとき **M** 表示灯が点灯 • 7 速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示	➔ **7 速マニュアルシフトモードとは** P.158	—
(A)	アイドリングストップ表示灯(グリーン)	• アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	➔ **アイドリングストップシステム** P.159	アイドリングストップしました (A)
ECON	ECON モード表示灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯	• ECON スイッチを押して、ECON モードを OFF にすると消灯します。 ➔ **ECON スイッチ** P.159 ➔ **アイドリングストップシステムの ON/OFF** P.160	ECON OFF ECON

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	オートハイビーム表示灯	• オートハイビームの作動条件がすべてそろったときに点灯	➔ **オートハイビーム** P.105	—
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• オートマチックブレーキホールドシステムがONのとき点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.215	
	オートマチックブレーキホールド表示灯	• オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.215	—

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 通常走行ができないときに表示	• ただちに安全な場所に車を停車してください。
	• パワーモードがONモードのときに、外気温が3℃以下になると1回のみ表示	—
	• エンジン冷却水の温度が異常に上がると表示	• ゆっくり走行してください。
	• エンジン冷却水の温度が上限近くまで上がると表示	• ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➔ **オーバーヒート** P.277
	• 何らかの理由により、アイドリングストップできないときに表示 • エンジンが自動的に再始動したときに表示 • バッテリーの内部温度が5℃以下のときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.159
	• バッテリーの充電量が少ない状態でアイドリングストップができないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.159
	• エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きくて、アイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.159

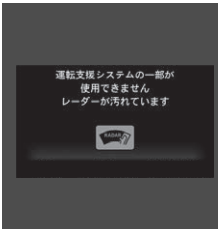
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エンジン冷却水の水温が低いとき、または高くてアイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.159
	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに表示	• ブレーキペダルを踏み込んでください。
	• シフトポジションがPレンジ以外のときにエンジンが停止して、自動的に再始動しないときに表示 • アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると表示	• パワーモードをOFFモードにしたいときは、シフトポジションをPレンジにしてください。 • エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➔ **エンジンの始動** P.153
	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動したときに表示 • バッテリーの充電量が少なくなったとき • バッテリーの内部温度が5℃以下になったとき	➔ **アイドリングストップシステム** P.159
	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動したときに表示 • エアコンを使用中で、設定温度と車内の温度差が大きい	➔ **アイドリングストップシステム** P.159
	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動しないときに表示 • ボンネットが開いている • アイドリングストップを続けることができないシステムの異常	• エンジンを再始動してください。 ➔ **エンジンの始動** P.153

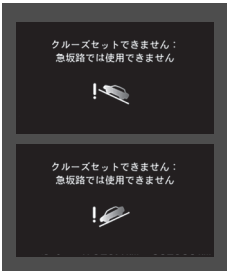
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• スターティングシステムが異常のときに表示	• ブレーキを踏んだまま、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **表示されたらすぐにすること** 1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。 2. 非常点滅表示灯を点滅させる。 **車を停車してからすること** 1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。 2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。 ▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。 3. エンジンを始動する。 ▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた:** 運転を再開してください。 ▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない:** エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。 アドバイス 油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• シフトポジションが P 以外のときに、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズをすると表示	➔ **カスタマイズのしかた** P.83
	• ボンネットが完全に閉まっていないときに表示	• ボンネットを完全に閉めてください。
	• Honda スマートキーシステムが異常のときに表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードが ON で、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	➔ **電池交換のしかた** P.245
	• ヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ライトの使いかた** P.103
	• ハンドルのロックが解除されていないときに表示	• ハンドルを左右に動かしながら ENGINE START/STOP を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがONモードでシフトポジションが P 以外のとき、ENGINE START/STOP を押すと表示	• パワーモードを OFF モードにしたいときは、シフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに ENGINE START/STOP スイッチを押すと、警告音と同時に表示	➡ **Hondaスマートキーの微弱電波** P.87 ➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P.102 ➡ **Hondaスマートキーの電池が切れたとき** P.272
	• 走行中に ENGINE START/STOP を押したときに表示	➡ **緊急時のエンジン停止方法** P.272
	• ドアとテールゲートが完全に閉まっていないときに表示 • 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告メッセージが表示	• ドアとテールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
	• シートベルトを着用しないで、パワーモードを ON モードにすると表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。
	• オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムをOFFにすると表示	➡ **オートマチックブレーキホールド** P.215
	• 運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• 運転席のシートベルトを着用してください。 ➡ **オートマチックブレーキホールド** P.215

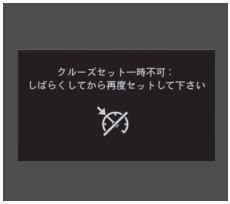
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.215
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.215 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.212
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。
	• 電子制御パーキングブレーキが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを押してください。 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.212
	• 後席への置き忘れがないように通知するときに表示	➔ **リアシートリマインダー** P.123
	• 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたときに表示	• 渋滞追従機能付 ACC が自動解除になった原因が解決された場合、RES/+ を押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.180 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.165 ➔ **誤発進抑制機能** P.171 ➔ **後方誤発進抑制機能** P.173
	• フロントロアグリルに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントロアグリルの遮蔽物を拭き取ってください。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➔ **レーダーセンサー** P.209 ➔ **ホンダセンシング** P.163
	• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になり、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.208 ➔ **ホンダセンシング** P.163
	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があり、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示 • 雨、霧、雪など悪天候のときも表示することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.208 ➔ **ホンダセンシング** P.163
	• 車速が低すぎてクルーズモードの車速がセットできないときに表示	• 車速を上げてからクルーズモードの車速をセットしてください。 ➔ **クルーズモードへの切り換え** P.190

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車速が低すぎてクルーズモードの作動が解除されたときに表示	• 車速を上げてからクルーズモードの車速を再度セットしてください。 ➔ **クルーズモードへの切り換え** P.190
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 車速30km/h未満で先行車がいなくてセットできないときに表示	• 先行車がいる状態または車速30km/h以上で走行して渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 先行車との車間距離が接近しすぎてセットできないときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 急な坂道で停車していてセットできないときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 運転席のシートベルトが着用されておらずセットできないときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.180
	• シフトポジションがDまたはS以外でセットできないときに表示	• シフトポジションをDまたはSにしてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.180
	• パーキングブレーキがかかっていてセットできないときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.180 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.212
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、先行車が発進したときに表示	• RES/+ スイッチか -/SET スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏むと発進できます。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.180
	• 走行中にブレーキペダルを操作していてセットできないときに表示	• ブレーキペダルを操作していない状態で渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.180

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 停車中に先行車が発進し、レーダーセンサーの検知範囲からいなくなって渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車がいる状態または車速30km/h以上で走行して渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 先行車との車間距離が接近しすぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 急な坂道で停車して渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、運転席のシートベルトが外されたときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにシフトポジションを D または S 以外にしたときに表示	• シフトポジションを D または S にしてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにパーキングブレーキがかけられたときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにスリップやホイールスピンなどが発生したときに表示	• 渋滞追従機能付 ACC を使用するときは再度、設定しなおしてください。 ➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなど、渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除される直前に表示（先行車との車間距離が、車間距離設定で最長を選択したときの距離まで自動的に開きます。） • 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたときに表示	➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180
	• 加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなど、渋滞追従機能付 ACC をセットできないときに表示	• しばらくしてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)** P.180

メッセージ	表示される状況	アドバイス
（オレンジ）	• 車線を越えそうなときに表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **車線維持支援システム (LKAS)** P.192 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.198
（レッド）	• ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行し、車線を越えそうになると、警告音と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **車線維持支援システム (LKAS)** P.192
	• ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• そのまま走行を続けると、長い警告音が 1 回鳴り、LKASの作動が解除されます。 • ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **車線維持支援システム (LKAS)** P.192
	• 車線からはみ出るような走行をすると、ハンドル制御と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.198
	• LKAS システムに異常が起こりLKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合にLKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **車線維持支援システム (LKAS)** P.192
	• 先行車発進お知らせ機能が作動すると表示	➡ **先行車発進お知らせ機能** P.202

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パーキングセンサーシステムが異常のときに表示	• センサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても表示される場合は、Honda販売店で点検を受けてください。 ➔ **パーキングセンサーシステム** P.221
	• オートハイビームに異常があると表示	• ヘッドライトスイッチを手動で操作してください。 • ハイビーム点灯中に表示された場合は、ロービームに切り換わります。 ➔ **ライトの使いかた** P.103

ターボ装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• メンテナンス時期が近づくと表示	• メンテナンスの必要な装備、時期にしたがってメッセージの表示は変化します。

パワースライドドア装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワースライドドアシステムに異常があると表示	• パワースライドドアのメインスイッチを OFF にして、ドアの開閉は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

■ 燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

■ タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

シフトポジションが R のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

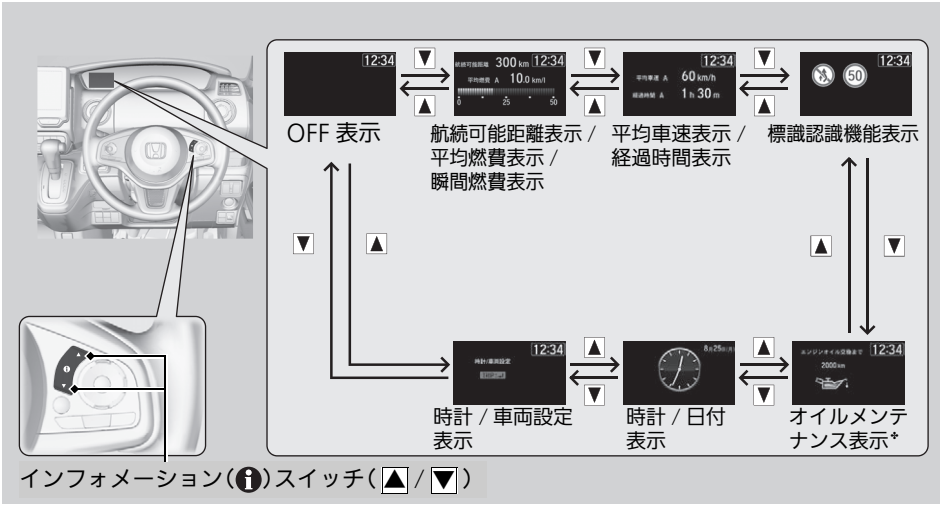
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知するとメッセージが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

■メインディスプレイ

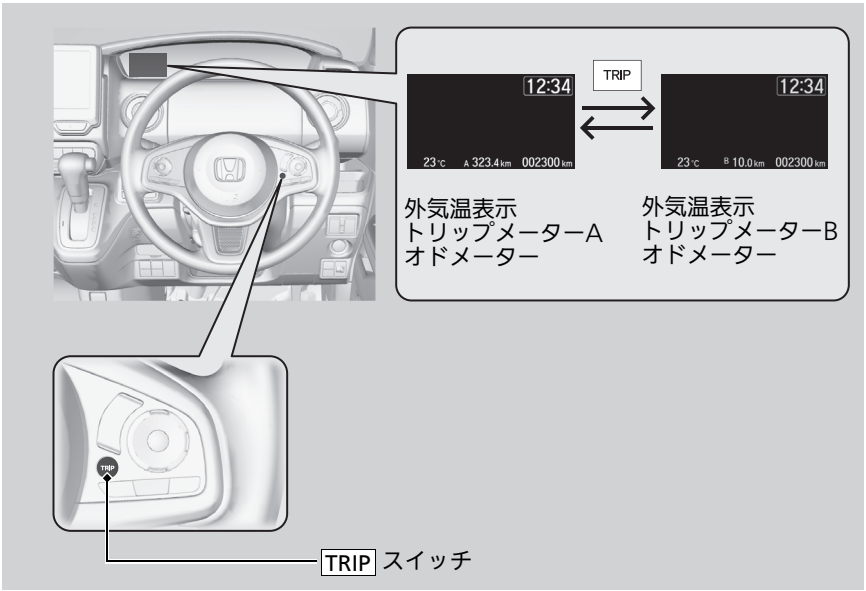
インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■サブディスプレイ

TRIP を押すごとに画面が切り換わります。



■ トリップメーター

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、TRIP を押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。
また、平均燃費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされます。

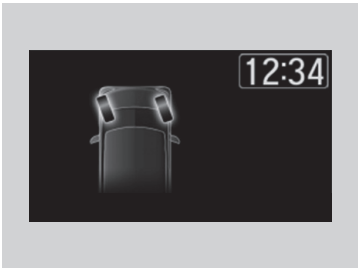
トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➲ 各表示設定については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

■ タイヤ角度モニター

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。



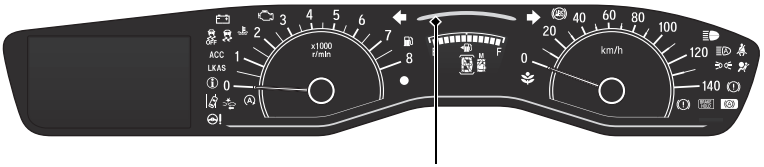
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、シフトポジションを D または S にしたとき
- シフトポジションを 1 秒以上 R にしたとき

■ カスタマイズのしかた

パワーモードがONモードでシフトポジションが P のときに、インフォメーション( ) スイッチ(▲ / ▼)を押して、「時計 / 車両設定」を選択します。そして TRIP を押すと、カスタマイズを行うことのできる「グループ」画面に切り換わります。

➲ カスタマイズ機能、設定、操作の詳細については右の QR コードから詳細取扱説明書 (HTML 版)を参照してください。

エコアシストシステム



アンビエントメーター

運転状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

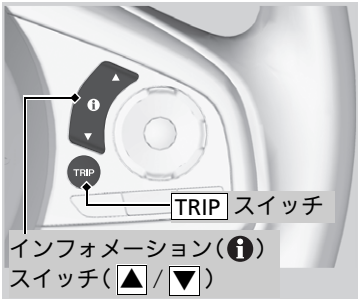
3 各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻 / 日付の設定

Honda インターナビシステム非装備車

時計の日付を合わせる



1. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、TRIP を押す。
   ▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. TRIP を押す。
   ▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「日付調整」が表示されます。



3. TRIP を押す。
   ▶「セットアップ」画面に切り換わり、「年」の調整ができます。



4. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、TRIP を押す。
   ▶「年」が設定され、「月」の調整ができます。
5. **手順 4** と同様の操作で「月」、「日」を調整をする。
   ▶「月」、「日」が設定され、日付調整が完了します。
   ▶設定完了のメッセージ画面が表示されます。



6. 「戻る」が表示されたら、TRIP を押す。
7. **手順 6** の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

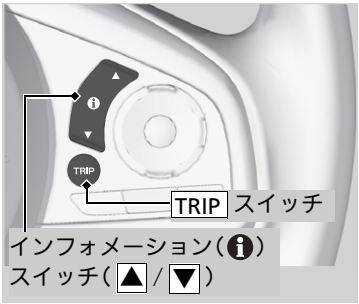
Honda インターナビシステム装備車

TRIP を押しても時計調節表示に切り換わりません。
日付と時刻は、人工衛星からの情報を利用していますので、日付、時刻合わせは不要です。

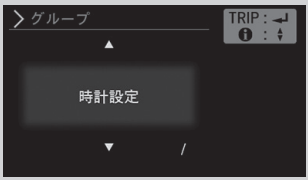
Honda インターナビシステム非装備車

時計の時刻を合わせる

時計はメーターディスプレイに表示されます。



1. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、TRIP を押す。
   ▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. TRIP を押す。
   ▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「日付調整」が表示されますので、インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押し、「時刻調整」を選択します。



3. TRIP を押す。
   ▶「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。



4. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、TRIP を押す。
   ▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. **手順 4** と同様の操作で「分」を調整をする。
   ▶「分」が設定され、時刻調整が完了します。
   ▶設定完了のメッセージ画面が表示されます。



6. 「戻る」が表示されたら、TRIP を押す。
7. **手順 6** の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

キー

エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠に使用できます。

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

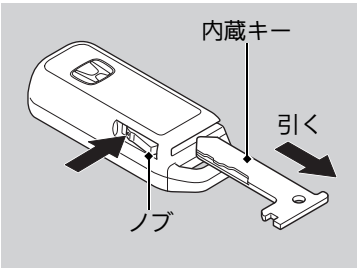
Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.272

■ 内蔵キー



Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、ノブを押しながら取り出します。

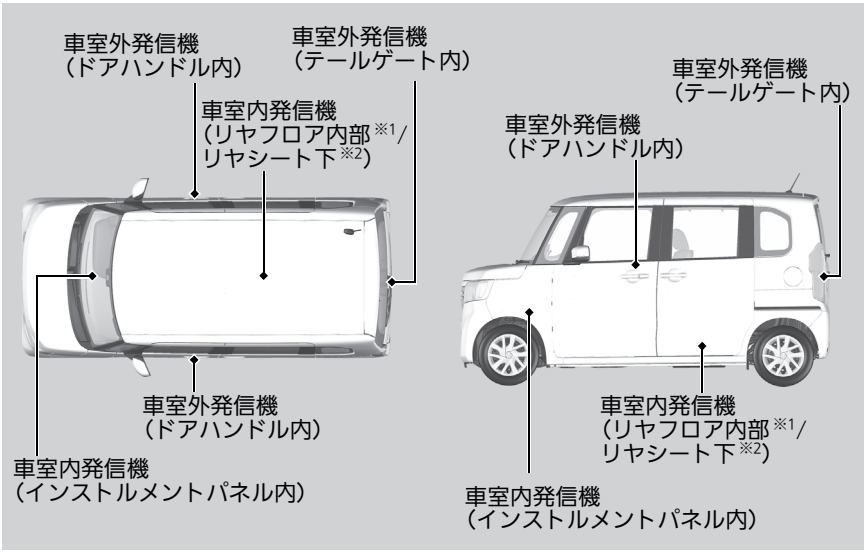
収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



※1: スロープ非装備車
※2: スロープ装備車

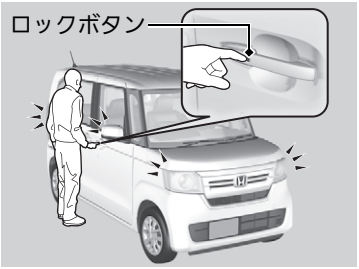
⚠注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

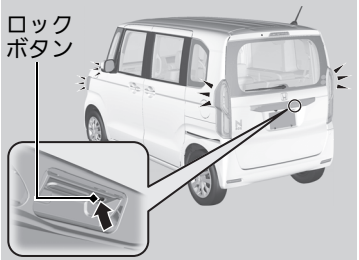


■施錠するには

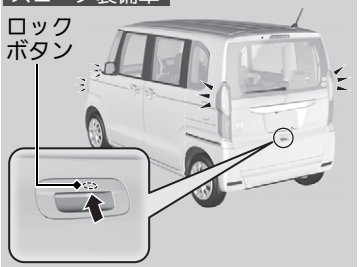
運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートのロックボタンを押します。

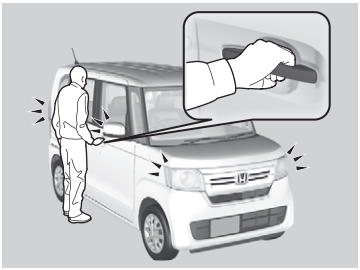
▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

スロープ非装備車



スロープ装備車

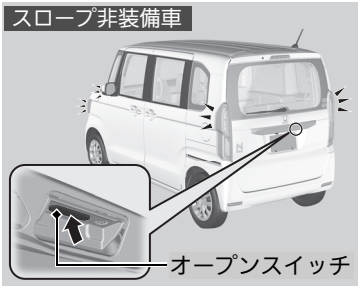


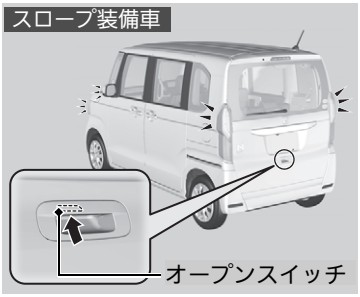


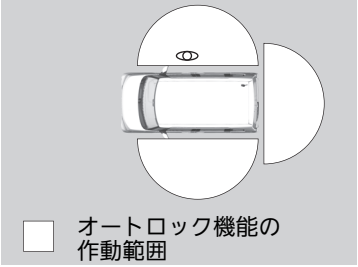
■解錠するには

運転席または助手席ドアのハンドルを握るか、テールゲートのオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。





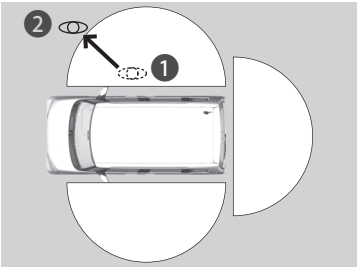


■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。

このオートロック機能は、すべてのドア、テールゲートが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートのオープンスイッチから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。

Honda スマートキーを携帯し、降車してドア、テールゲートを閉めてください。



1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
   ▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。
2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
   ▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。

ON にするときは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。

➲ **カスタマイズ機能、設定、操作の詳細については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。**

■ キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキー

施錠ボタン

解錠ボタン

■施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目:

▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内):

▶ アンサーバックブザーが鳴りセキュリティがセットされたか確認できます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

■ キーを差し込んでの施錠 / 解錠

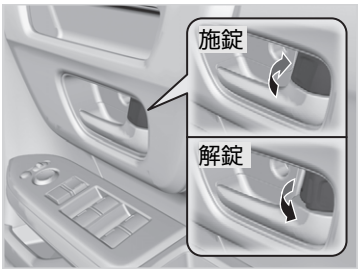
Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は、内蔵キーを使用してください。

キーを確実に差し込んで、回します。



車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには

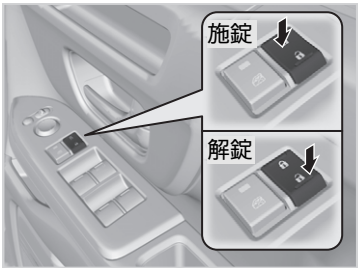
ノブを押し込みます。

■解錠するには

ノブを引き出します。

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

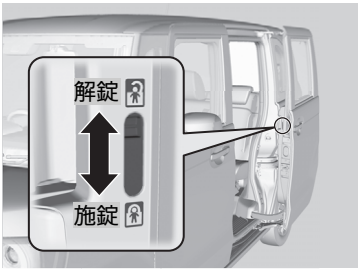


マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■ チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開ける場合
外側のハンドルで開けます。

オートドアロック / オートドアアンロック

➲ **オートドアロック/オートドアアンロックの操作や設定については左のQRコードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。**

テールゲート

テールゲート開閉時の注意

テールゲートを開閉するときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。
頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な損傷を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

カーゴスペース内に、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

スライドドア

スライドドア開閉時の注意

スライドドアを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■開けるとき

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。

■閉めるとき

- Honda スマートキーを、車内に置き忘れないようにする
  ▶運転席ドアを施錠したあとにスライドドアを閉めると、施錠されてスライドドアが開かなくなります。

⚠注意

スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないよう注意する。
特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。
ドアが不意に閉まるおそれがあります。

ドアハンドルをしっかり持って開閉する。
ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

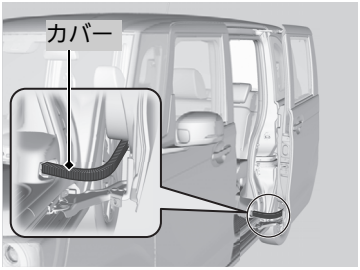
小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまがスライドドアを誤って操作しないように、チャイルドプルーフをセットしてください。

スライドドアの開閉操作

アドバイス

スライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線が傷つくと、作動不良の原因となります。

踏まないように注意してください。



パワースライドドアの開閉操作*

キーレスエントリーシステムや運転席にあるパワースライドドアスイッチを使って、パワースライドドアを自動で開閉することができます。また、ドアハンドルを引いて自動で開閉することもできます。

⚠警告

パワースライドドアを開閉するときは、ドアの内側と外側の安全を十分確認する。

ドアが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。

特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、メインスイッチを OFF にする。

ON のままだと、誤ってメインスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

車両が完全に停止した状態でパワースライドドアを開閉する。また乗り降りのときも車両が動き出さないように、確実にブレーキをかける。

パワースライドドアの開閉中や乗り降りのときに車両が動き出すと、思わぬ事故を起こすことがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

⚠警告

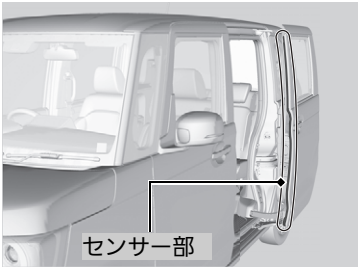
ドアを開閉する前に、ドア付近に障害物がないことを必ず確認する。
はさみ込み防止機能は、万一のときに、障害物を検知して、ドアにはさまれてしまうことを防ぐためのものです。ドアにはさまれると重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

パワースライドドアに指などをはさみ込まないように注意する。
パワースライドドアを確実に閉め切るため、閉め切る直前の部分にはさみ込みを検知しないエリアがあります。

アドバイス

パワースライドドア前端にあるセンサーに触れない。
センサーに触れるとパワースライドドアが閉まりません。また、センサーを鋭利なものなどで傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。



■ 自動で開閉するときの条件

次の条件が揃っているときに、自動で開閉することができます。

- メインスイッチが ON のとき
- パワースライドドアが解錠されているとき
- フューエルリッドが閉じているとき（助手席側のみ）
- パワーモードが OFF モードのときに、キーレスエントリーシステムでの開閉ができます。
- パワーモードを ON モードにしているときは、シフトレバーが P のときにパワースライドドアスイッチ、ドアハンドルを操作して開閉ができます。
  ▶ P 以外でもブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキがかかっているときは操作できます。

➡ **自動開閉と手動開閉の切り替えについては右の QR コードから詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。**

➡ **その他の開閉については右の QR コードから詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。**

イージードアクローザー*

スライドドアを半ドア状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。

パワースライドドアのメインスイッチの位置に関係なくイージードアクローザーが作動します。

⚠注意

半ドア状態の位置からドアが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意する。

故障の原因になるので、イージードアクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

車両とキーで電子照合をしており、登録されたキーでないとエンジンの始動は出来ないシステムです。

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると
ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには
Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

■セットするには
セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。
- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると
メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには
Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

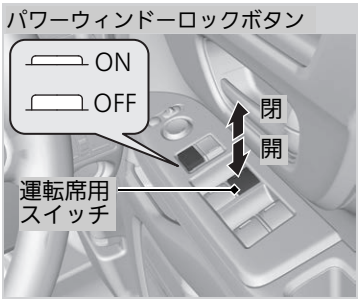
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯し、ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。
パワーモードをOFFモードにしても、約10分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ 自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■ 手動開閉

開けるとき:スイッチを軽く押す
閉めるとき:スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■ 自動開閉

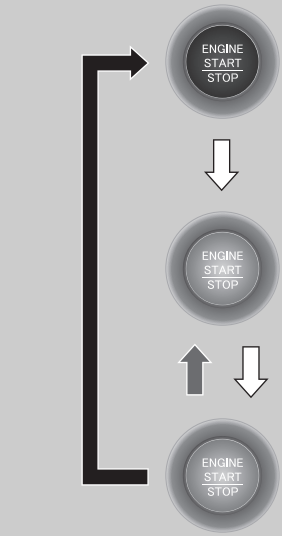
開けるとき:スイッチを強く押す
閉めるとき:スイッチを強く引き上げる
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

➔ **自動開閉機能なしのウィンドーの開閉については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。**

ハンドルまわりのスイッチ操作

ENGINE START/STOP スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



OFF モード
- スイッチが消灯
- ハンドルがロックされ、全ての電源が OFF になります

アクセサリーモード
- スイッチが赤色で点滅
- エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置

ON モード
- スイッチが赤色で点滅
- すべてのアクセサリーが使用可能

（ブレーキペダルを踏んでいない状態）

⇨ スイッチを押す

⇨ シフトレバーが P 以外のときに、スイッチを押す

⇨ シフトレバーが P のときに、スイッチを押す

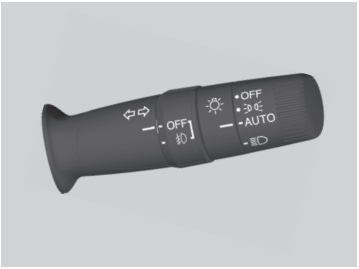
ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。ハンドルロックが解除されます。

➡ ENGINE START/STOPスイッチ関連の機能については左のQRコードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

ライトの使いかた

■ ヘッドライト･車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードが ON モードのとき、ライトスイッチを AUTO にすると自動点灯が作動します。

■手動点灯 / 消灯

ヘッドライト･車幅灯の点灯:

ライトスイッチを にします。

車幅灯の点灯:

ライトスイッチを にして手を放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行うとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを にしたあと、AUTO にします。

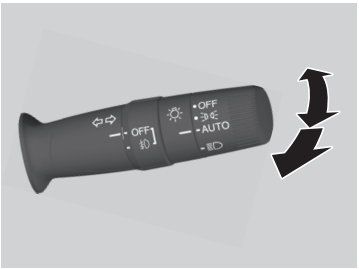
ヘッドライト･車幅灯の消灯:

停車中にライトスイッチを OFF にして手を放します。

- ▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

■ ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。

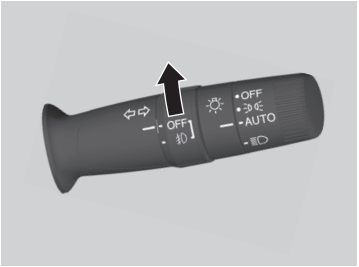


■パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

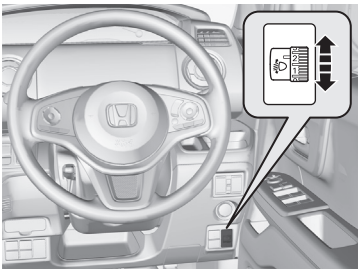
- ▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

■ フォグライト*



メーター内の インジケーターが点灯しているときに、フォグライトスイッチを回すと点灯します。

ヘッドライトレベリングダイヤル



パワーモードがONモードのとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。
光軸の調節はダイヤルを回して行います。
ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
4 名乗車時 3 名乗車時 (車いす利用者を含む)※1	1
4 名乗車でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

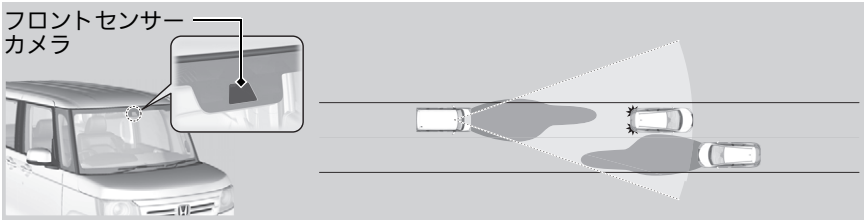
※1: スロープ装備車

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを 0 の位置に戻してから行ってください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

オートハイビーム

夜間走行時にフロントセンサーカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。



オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.208

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

■ オートハイビームの使いかた

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、オートハイビームが作動します。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に 2 秒以上引き続け、手を放す
- ライトスイッチを≡Oに回したあと、AUTO に戻す

■ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビームが作動しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビームへの切り換え:

以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。

- 車速が 30km/h 以上
- 前方にライトを点灯した車両がいない
- 前方に街灯などの光が少ない

↔

ロービームへの切り換え:

以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。

- 車速が 24km/h 以下
- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき

- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントセンサーカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作:

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。または、レバーを前方(ハイビームの位置)に押す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に 2 秒以上引き続け、手を放す。
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを≣Oに回した後、AUTOに戻す。
  このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

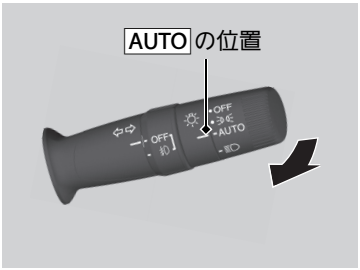
ライトスイッチによる操作:

ライトスイッチを≣Oに回す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチをAUTOに戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

■ オートハイビームを OFF に設定変更したいとき

オートハイビームのシステムを OFF に設定変更することができます。設定を行うときはパワーモードが ON モードで停車しているときに以下の操作を行います。



OFF に設定する:

ライトスイッチがAUTOのとき、レバーを手前(パッシングの位置)に約40秒間引き続けるとオートハイビーム表示灯が 2 回点滅します。2 回点滅後にレバーから手を放します。

ON に設定する:

ライトスイッチがAUTOのとき、レバーを手前(パッシングの位置)に約30秒間引き続けるとオートハイビーム表示灯が 1 回点滅します。1 回点滅後にレバーから手を放します。

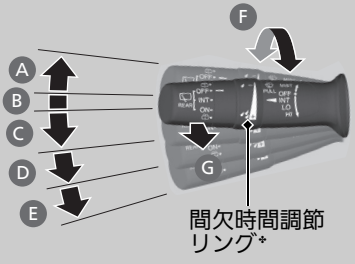
オートハイビームのシステムを OFF に設定変更したとき、ON に設定変更するまでオートハイビームは作動しません。

システムを OFF または ON に設定変更するときは、安全な場所に停車してから設定変更の操作を行ってください。

ワイパー/ ウォッシャー

■ フロントワイパー/ ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



- A MIST:(レバーを操作している間作動)
- B OFF:停止
- C INT:間欠(雨量が少ないとき)
- D LO:低速(普通の雨量のとき)
- E HI:高速(雨量が多いとき)
- F 間欠時間の調節*
- G ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。

ポンプ故障の原因となります。

アドバイス

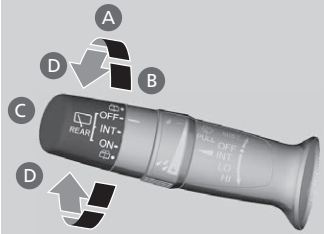
寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

■ リヤワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ ON:低速作動
Ⓑ INT:間欠作動
Ⓒ OFF:停止
Ⓓ :ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ ウォッシャースイッチ

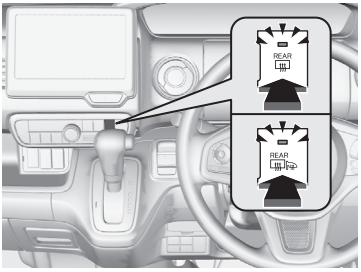
スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトレバーを R に入れるとリヤワイパーが作動します。

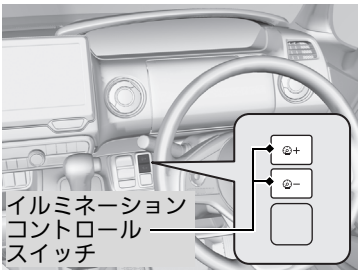
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

イルミネーションコントロール



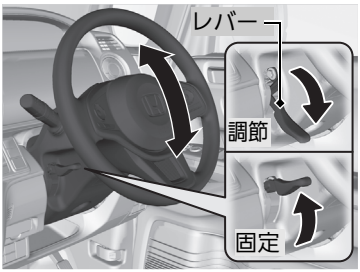
インストルメントパネル照明が減光しているときに、イルミネーションコントロールスイッチでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。
明るくする: [+] スイッチを押す
暗くする: [−] スイッチを押す

以下の条件が整うと、インストルメントパネル照明が減光します
- パワーモードが ON
- 車幅灯が点灯している
- 周囲が暗い

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
   ▶ ハンドル位置調節レバーは、ステアリングコラムの左側にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
   ▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
   ▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

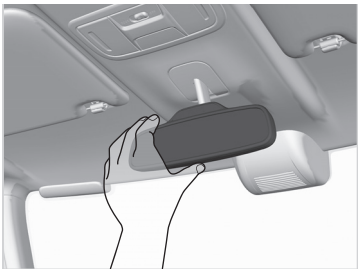
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ミラー類の調節

ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

ドアミラー

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

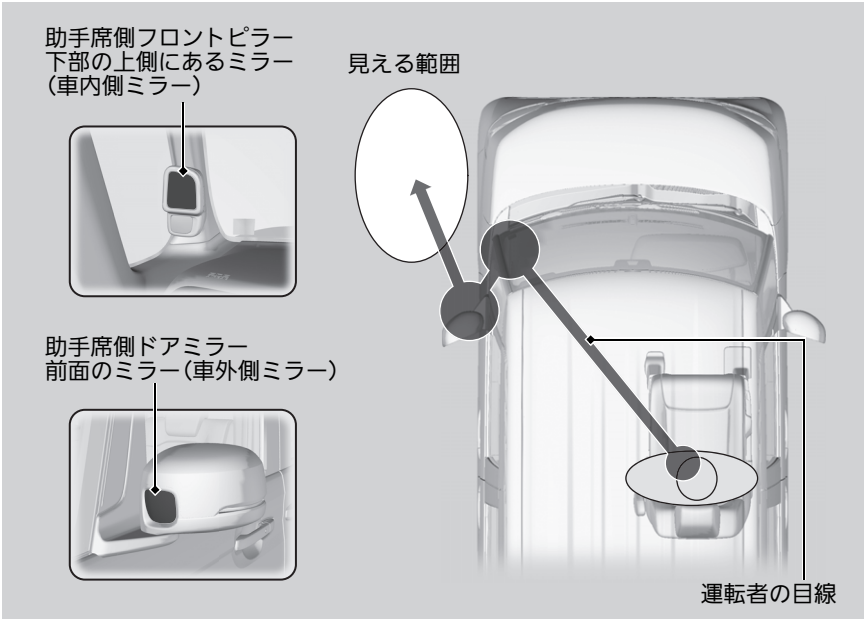
■角度調節

左右切り換えスイッチ: 右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ: 上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

サイドビューサポートミラー

助手席側ドアミラー前面と助手席側フロントピラー下部に付いているミラーにより車両左側前方を見ることができます。



停車時や発進時、対向車とのすれ違いや路肩に寄せるときなど、車両左側前方を確認するときに役立ちます。
車両左側前方の様子が車外側ミラーに映り、車内側ミラーに反射して見えます。

アドバイス

ミラー表面の傷付きや曇りによる視界の妨げを防止するために次のことをお守りください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 車外側ミラー表面が凍結しているときは解氷剤やプラスチックの板を使用せずに、温水や水道水を使って溶かす
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

汚れや水滴を拭き取るときはきれいな布で拭き取ってください。

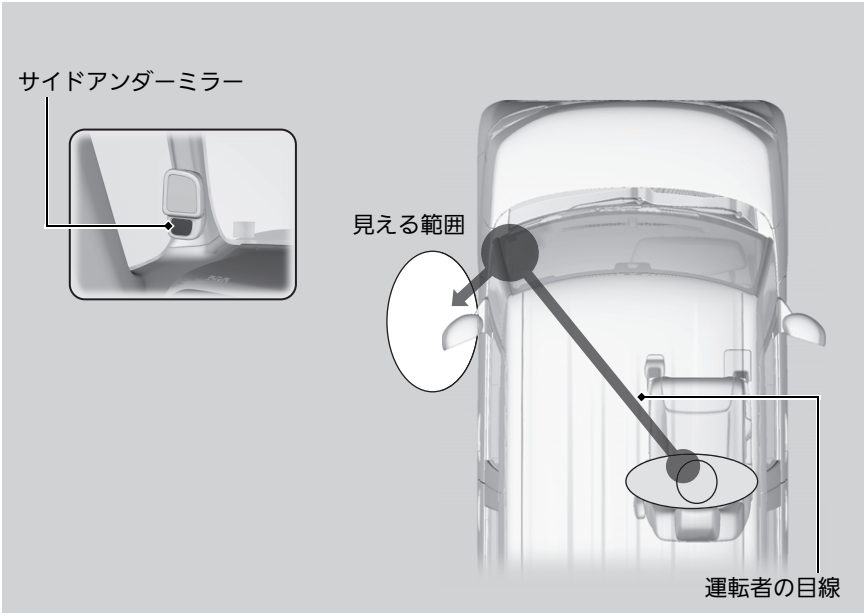
水洗いでミラーの汚れが落ちない場合や、誤ってワックスなどを塗布してしまった場合は、家庭用中性洗剤を使って柔らかい布でミラー表面を拭き取ってください。

見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

サイドビューサポートミラーの角度調節はできません。

サイドアンダーミラー

助手席側フロントピラーの下部についています。停車時や発進前などに車両左側下部を確認するときに役立ちます。



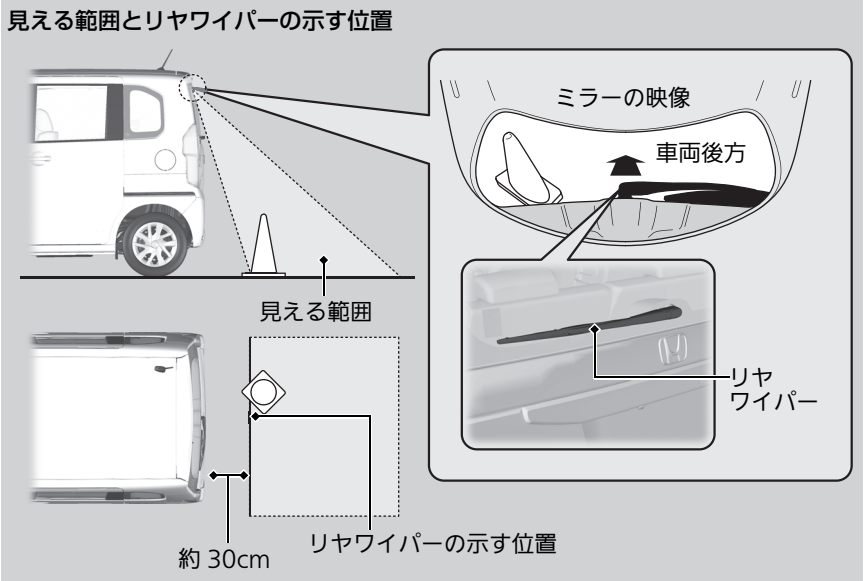
見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

サイドアンダーミラーは車両左側を見るために下向きになっています。

サイドアンダーミラーの角度調節はできません。

後方視角支援ミラー

テールゲートの内側に装着されているミラーにより、車両後方付近を見ることができます。リヤワイパーは自車と車両後方の対象物との目安になります。



ミラーを見る姿勢によって、見える範囲やリヤワイパーの示す位置が異なります。
バンパーから約 30cm までの範囲は映りません。

見える範囲には限度があります。また、夜間や暗い所では見えにくくなることがあります。後方、および周囲の安全は必ず目視などで確認してください。

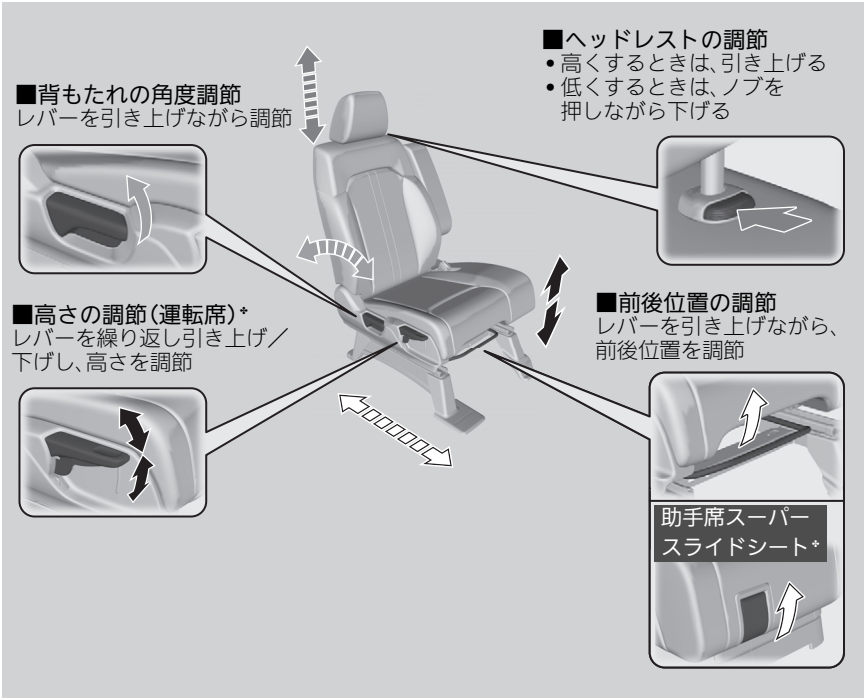
後方視角支援ミラーの角度調節はできません。

シートの調節

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■ シートの動かしかた



この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

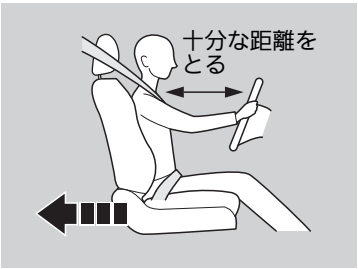
シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

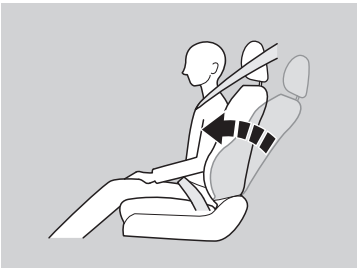
同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

サイドエアバッグ* がシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■ フロントシートの調節



■ シート位置の調節
運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードの SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■ 背もたれ角度の調節
シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

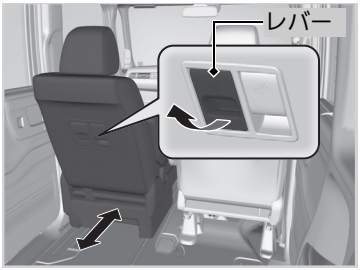
背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

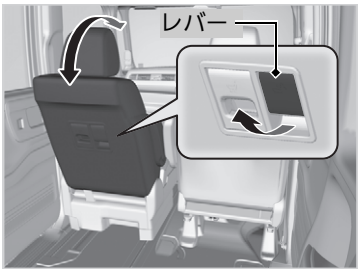
助手席スーパースライドシート装備車

■ 後ろから助手席シートの調節



■ シート位置の調節

シートの背もたれにあるレバーを引き上げながらシートの前後の位置を調節することができます。

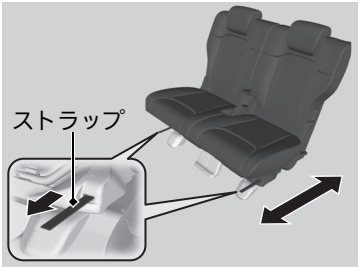


■ 背もたれ角度の調節

シートの背もたれにあるレバーを引き上げながらシートの背もたれ角度を調節することができます。

リヤシート

■ リヤシートの調節



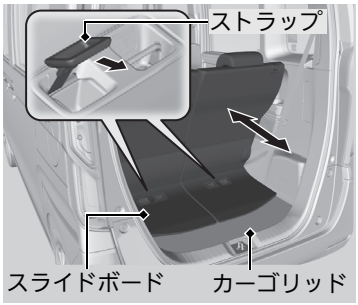
リヤシートは、左右別々に調節することができます。

スロープ非装備車

■ シート位置の調節

前から調節する場合：

リヤシートの外側にあるストラップを引きながら、リヤシートの前後の位置を調節することができます。



後ろから調節する場合：

カーゴスペースの床にあるストラップを引きながら、リヤシートの前後の位置を調節することができます。

スライドボードは、リヤシートと連動してスライドします。

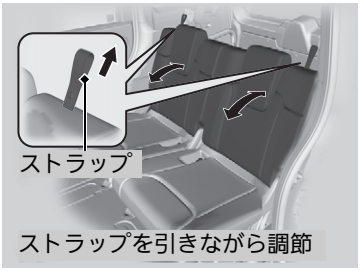
■ 背もたれの調節

スロープ非装備車



レバーを引いて、背もたれの角度を調節します。

スロープ装備車



ストラップを引いて、背もたれの角度を調節します。

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

⚠注意

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

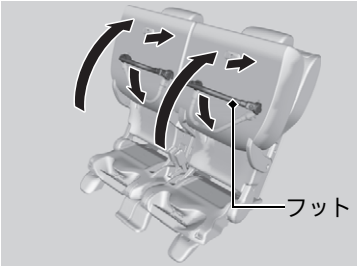
スライドボードは、リヤシートと連動してスライドします。
スライドボードで指や手をはさまないようにご注意ください。
荷物が倒れたり、はさまれたりすることがあるのでご注意ください。

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

スロープ非装備車

■ 座面をはね上げて固定する(チップアップ)



座面は、左右別々にはね上げることができます。

■座面のはね上げかた

1. ヘッドレストを下げる。
2. アームレスト* を起こす。
3. 座面を引き上げる。
4. フットを格納する。
5. 座面を背もたれに押しつけ、固定する。

⚠注意

座面をはね上げたときや戻したときは、座面を前後にゆすって確実に固定されていることを確認する。

固定されていないと、座面が前に倒れるおそれがあります。

座面を戻すときは、以下のことを確認する。

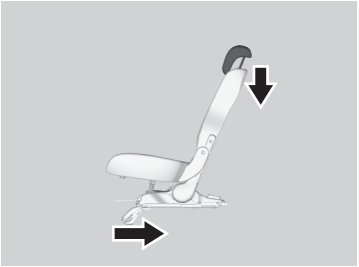
- ガイド周辺に異物がないか
- フロアマットがズレて、ガイドに乗り上げていないか
- 座面の下にものやシートベルトを置いていないか

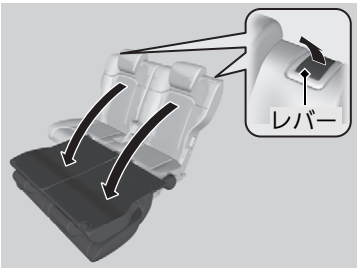
異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんと入っていないと座面が確実に固定されず、走行中に座面がはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

スロープ非装備車

■ 背もたれの倒しかた





■倒しかた

1. ヘッドレストを下げる。
2. リヤシートを後方いっぱいに動かす。
   ➔ **リヤシートの調節** P.119

シートバックテーブル装備車

3. フロントシートのシートバックテーブルをたたむ。
   ➔ **シートバックテーブル*** P.129

共通操作

4. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

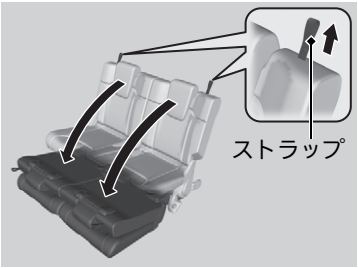
スロープ装備車

■ 背もたれの倒しかた



■倒しかた

1. ヘッドレストを下げる。



2. 背もたれのストラップを引き、前方に倒す。

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

■ リアシートリマインダー

後席の荷物などの置き忘れおよび同乗者を載せていることを、降車前に運転者へお知らせする機能です。



■作動条件

- 後席ドアを開閉してからパワーモードを ON モードにしたとき
- パワーモードが ON モードのときに後席ドアを開閉したとき

上記の条件をどちらか満たしパワーモードを OFF モードにすると、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワーモードを OFF モードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。

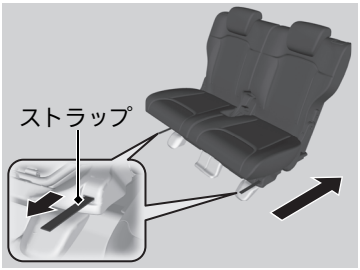
後席ドアを開閉した後、10分以内にパワーモードをONモードにしなかった場合は作動しません。

このシステムは後席の同乗者や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に同乗者や荷物がある可能性をお知らせします。

スロープ非装備車

リフレッシュモード

フロントシート（運転席、助手席）の背もたれを倒すと、リヤシートから足を伸ばして座れる状態にできます。



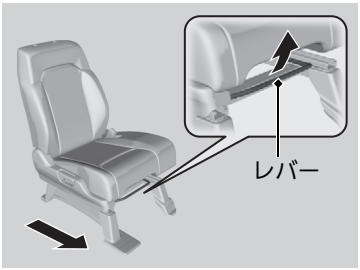
シートバックテーブル装備車

1. フロントシートのシートバックテーブルをたたむ。

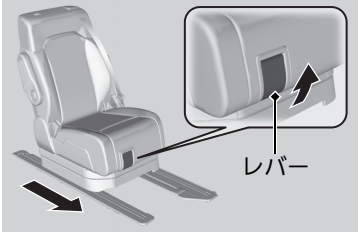
➔ **シートバックテーブル*** P.129

共通操作

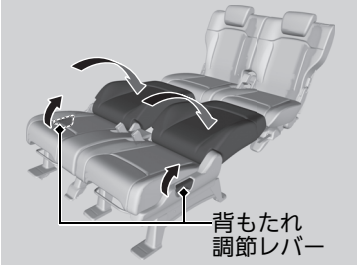
2. リヤシートを後方いっぱいに動かす。
3. リヤシートの背もたれが後ろに固定されていることを確認する。
4. フロントシートのヘッドレストを引き上げ、ノブを押したままヘッドレストを外す。
5. レバーを引き上げながらフロントシートを前方いっぱいに動かす。



助手席スーパースライドシート*



この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



6. 背もたれ調節レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定する。
7. レバーを引き上げながらフロントシートを後方いっぱいに動かす。

⚠注意

フロントシートを倒したままの状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しない。
ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

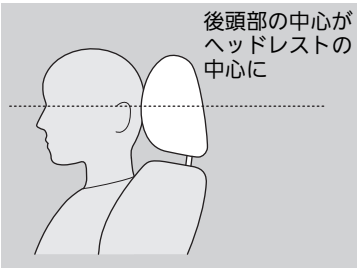
フロントシートを倒したままの状態で、シートの上を走り回らない。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動する。
シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。

背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作する。
背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。

アームレスト装備車
アームレストは収納する。
つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。

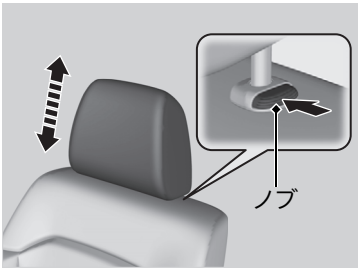
ヘッドレスト

■ フロントシートのヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき: ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき: ノブを押しながら下げます。

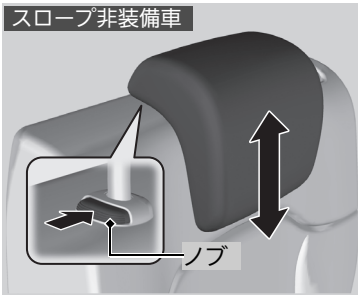


⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

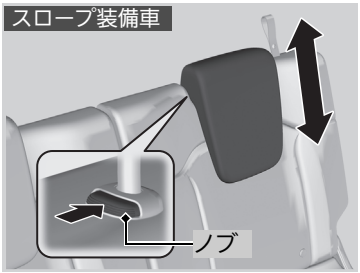
ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リヤシートのヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき:ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき:ノブを押しながら下げます。



⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し:
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け:
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト*

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス
アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。

アームレストが破損するおそれがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

室内装備品

室内灯

➲ 室内灯の操作については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

収納装備

■ グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ センターボックス*

⚠警告

走行中は必ずセンターボックスを閉める。
センターボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ 運転席アッパーボックス

⚠警告

走行中は必ずアッパーボックスを閉める。
アッパーボックスが開いていると、衝突したときに運転者が重大な傷害を負うおそれがあります。

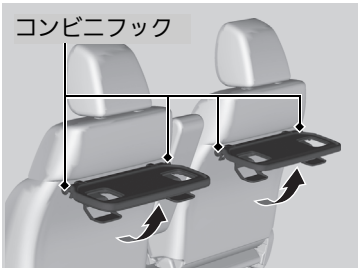
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ ドリンクホルダー

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■ シートバックテーブル*



手前に引き上げて使用します。

使用後は、テーブル先端の中央部を押し下げてもとの位置にもどします。

⚠警告

走行中は必ずシートバックテーブルを閉める。
シートバックテーブルが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

使用するときは、確実に固定されているか確認してください。
使用中は、テーブルに手を突いたり、もたれかかったりしないでください。急にテーブルが倒れ、思わぬけがのおそれがあります。

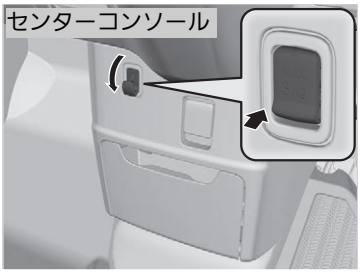
アドバイス
シートバックテーブルに載せるものは、約 2kg 以下としてください。
シートバックテーブルが破損するおそれがあります。

アドバイス
コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの（約 1kg 以上）や大きいものをかけないでください。

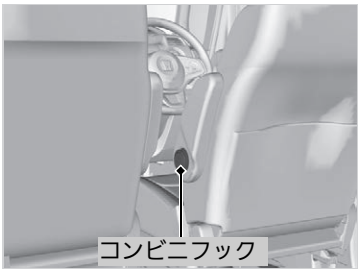
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

テーブルが起こされている状態でフロントシートの調節を行うと、テーブルが破損したり、テーブルの上に置いているものが落ちたりするなど、思わぬけがをするおそれがありますので十分注意してください。

■ コンビニフック*







アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの（約 3kg 以上）や大きいものをかけないでください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

スロープ装備車

■ タイダウンフック

起こして使います。
荷物を固定するときに使います。

⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

その他の室内装備品

⚠注意

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。
電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

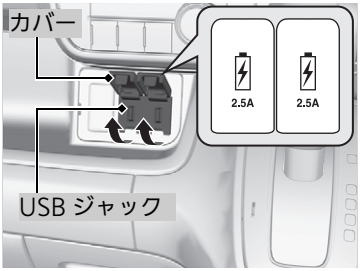
■ アクセサリーソケット

アドバイス

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

■ 充電専用 USB ジャック*

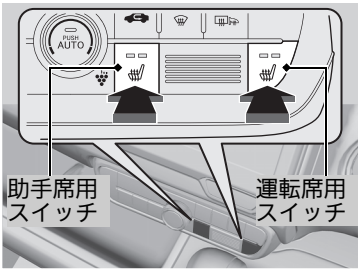


カバーを開け、充電する機器の USB ケーブルを USB ジャック (2.5A) に接続します。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ フロントシートヒーター*



パワーモードが ON モードのときに使用できます。

⚠注意

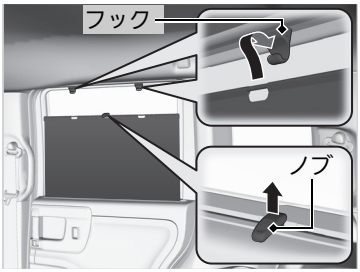
低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

■ スライドドアウィンドウサンシェード*



⚠注意

フックにはサンシェード以外のものをかけたりしない。

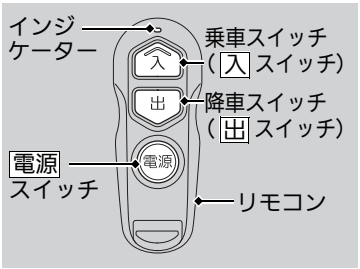
サイドカーテンエアバッグ* が正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

また、走行中は窓を閉めてください。風にあおられてサンシェードがフックから外れるおそれがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

スロープ装備車

■ 電動ウインチのリモコンの使いかた

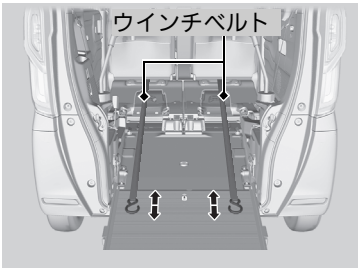


■電源スイッチ

電源 スイッチを押すとリモコンの電源が入ります。

▶インジケーターが赤く点灯します。

リモコンの 電源 スイッチを押してから約 6 秒以内に 入 スイッチまたは 出 スイッチを押さないと、自動的にリモコンの電源が切れます。



■乗車スイッチ（ 入 スイッチ）

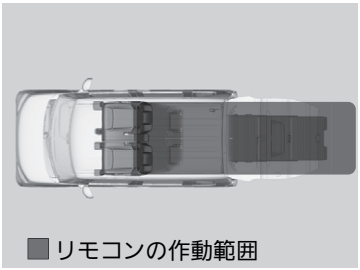
入 スイッチを押している間、電動ウインチが作動し、ウインチベルトが巻き取られます。

▶インジケーターが緑に点滅します。

■降車スイッチ（ 出 スイッチ）

出 スイッチを押している間、電動ウインチが作動し、ウインチベルトが引き出されます。

▶インジケーターが緑に点滅します。



入 スイッチや 出 スイッチを押している間は電動ウインチが作動します。停止したい場合は 入 スイッチや 出 スイッチから指を離してください。

リモコンは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 分解しない
- 改造しない
- リモコンに印字されている技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

リモコンの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- リモコンを落としたり、重いものをのせない
- リモコンに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

操作中にリモコンのスイッチから指を離すと「ピッピッ」と音がします。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

電源 スイッチを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

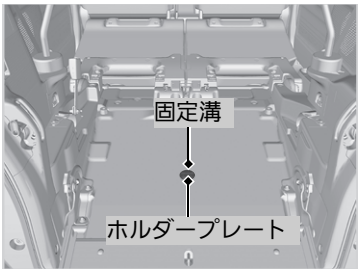
➡ **電動ウインチリモコンの電池交換** P.249

リモコンは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。また、周囲の電波状態により 出 または 入 スイッチを押しても電動ウインチが作動しない場合があります。
そのときはリモコンの 電源 スイッチを押し直した後、再度 出 または 入 スイッチを押して動かしてください。

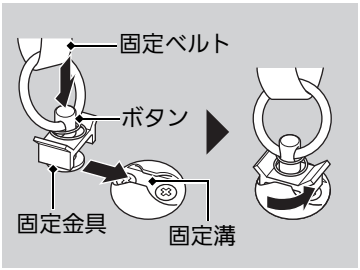
リモコンは、リモコンカバーのバンドで車いすのハンドル等に固定することができます。

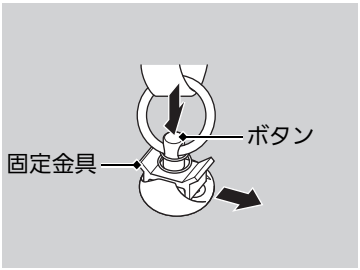
スロープ装備車

■ 固定ベルトの取り付けかた



1. 固定金具を持ち、ボタンを押しながら固定溝にスライドさせる。
2. 固定金具を「カチッ」と音がするまで回し、ホルダープレートに確実に固定されていることを確認する。





■取り外しかた

固定金具を持ち、ボタンを押しながらスライドさせて固定溝から取り外す。

▶車いすを乗せないときは、固定ベルトをカーゴスペース右側のポケット等に収納してください。

スロープ装備車

■ スロープの扱いかた

⚠注意

スロープを操作するときは、以下のことに注意する。

- 傾斜のない平らな所で行う
- 手などをはさまないように十分注意する
- スロープは最後まで引き出し、完全に接地した状態で使用する
- スロープを引き出した状態で車を走行しない
- 降雨時または積雪時はスロープが滑りやすくなるので注意する

アドバイス

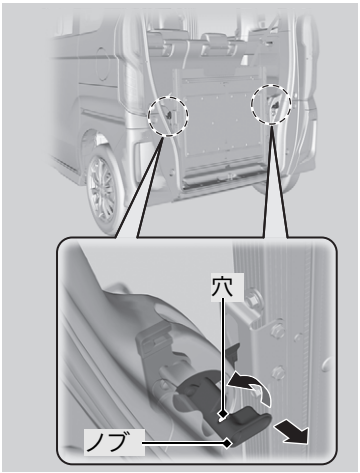
スロープの上では1ヵ所に重さが集中しないようにする。

傷や破損の原因となります。

スロープの耐荷重を超えないようにしてください。

スロープの耐荷重(200kg:車いすを含む)を超えないようにしてください。スロープを損傷するおそれがあります。

■直立位置に格納されたスロープを降ろす

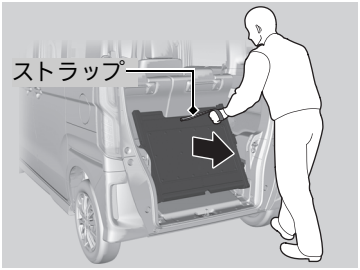


1. バックドアを開ける。
2. スロープを手で押さえながら、ノブを引いて左右のスロープロックを回転させて解除する。
   ▶解除後のスロープロックは垂直の向きで確実に固定してください。
   ▶ノブの穴が赤くなっていないことを確認してください。



3. 操作グリップを持って手前に倒し、スライド式のスロープを引き出し地面に降ろす。
   ▶スロープが地面に接地していることを確認するまでは手を放さないでください。

■室内側に格納されたスロープを降ろす

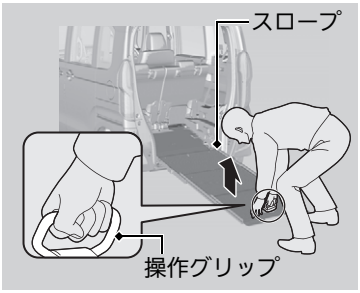


1. バックドアを開ける。
2. ストラップでスロープを引き上げ、倒れないように支えながら操作グリップに持ち替える。

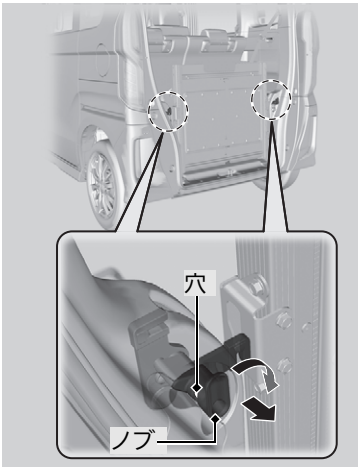


3. 操作グリップを持って手前に倒し、スライド式のスロープを引き出し地面に降ろす。
   ▶ スロープが地面に接地していることを確認するまでは手を放さないでください。

■直立位置にスロープを格納する



1. 操作グリップを持って、スロープを持ち上げ、スライドさせて起こす。



2. スロープを手で押さえながら、ノブを引いて左右のスロープロックを回転させて固定する。
   ▶ スロープは確実に固定してください。
   ▶ ノブの穴が赤くなっていないことを確認してください。

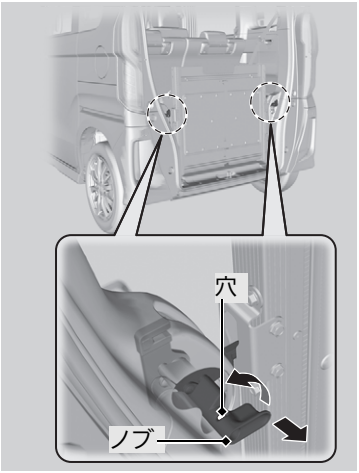
アドバイス

スロープロックが確実に固定されていない状態でバックドアを閉めるとノブが当たりスロープロック及びテールゲートの損傷の原因になります。

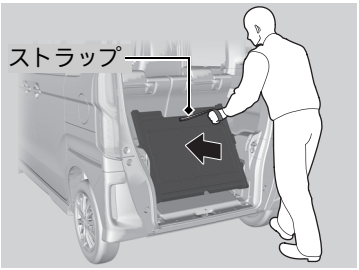
引き出したスロープが確実に収納されているか確認してください。

■室内側にスロープを格納する

スロープを室内側に倒して格納することが可能です。



1. スロープを手で押さえながら、ノブを引いて左右のスロープロックを回転させて解除する。
   ▶解除後のスロープロックは垂直の向きで確実に固定してください。
   ▶ノブの穴が赤くなっていないことを確認してください。



2. ストラップを持ち、ゆっくりと室内側に倒す。

アドバイス

スロープの損傷の原因になりますので、室内側にスロープを格納する際は、以下のことを確認してください。

- 固定ベルトは必ず外し、車内のポケットなどに収納してください。
- スロープの下に物がないことを確認してください。

スロープ装備車

車いすの乗せかた、降ろしかた

車いすの乗降や固定操作は平坦な場所で、周囲の安全を十分確認してから行ってください。

⚠警告

車いすは必ず車いす固定装置で固定する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

⚠注意

車いすの乗降や固定操作をするときは、必ずエンジンを止める。
不意に車が動き出したりして、思わぬけがをすることがあります。

車いすの乗降や固定操作は介護する人が行う。
車いすに座っている人が自力でスロープを走行したり、固定操作を行うと、スロープから落ちたり、体の一部をはさんだりしてけがをするおそれがあります。

車いす乗車後にフロントシートを後方にスライドさせるときは、後ろに十分注意してスライドしてください。

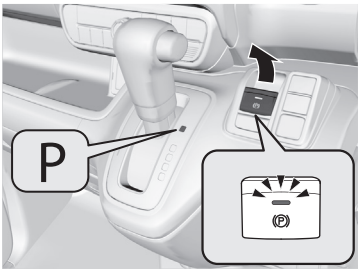
車いすを乗せていないときは、パーティッションボードを取り付けてください。

⚠注意

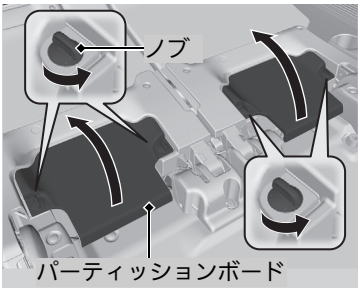
ハンドル操作時は手などをはさまないように十分注意ください。

■ 車いすの乗せかた

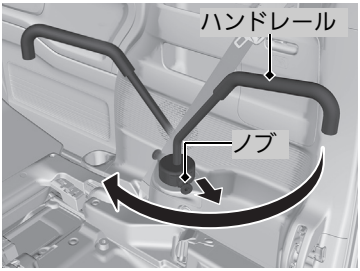
車いすを乗せる前に



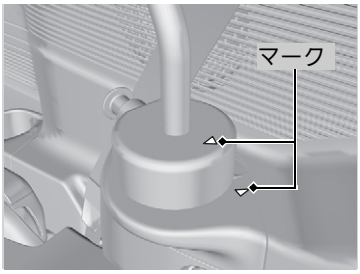
1. パーキングブレーキがかけてあることと、シフトレバーがPに入っていることを確認する。
2. リヤシートの背もたれを倒す。
   ➡ **背もたれの倒しかた** P.123
3. スロープを降ろす。
   ➡ **スロープの扱いかた** P.135



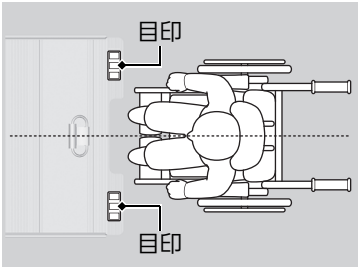
4. ノブを回してパーティッションボードを外す。
   ▶外したボードは、フロントシート背もたれ裏のポケットなどに収納してください。



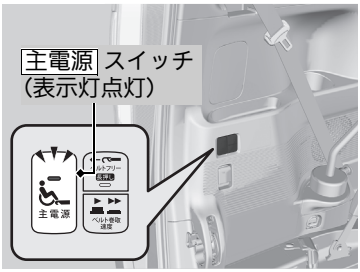
5. ノブを引きながら、ハンドレールを回転させる。
   ▶マークを合わせて固定してください。
   ▶ハンドレールを手でゆすり、しっかりと固定されているか確認してください。



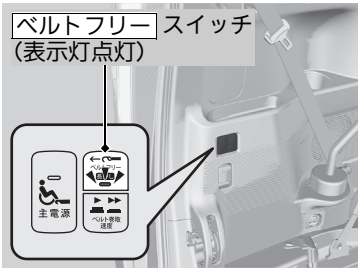
車いすを乗せる



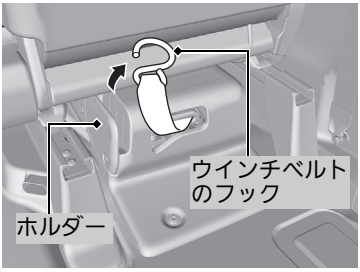
1. 車いすをスロープの目印を目安にスロープ中央に停車させ、車いすのブレーキをかける。



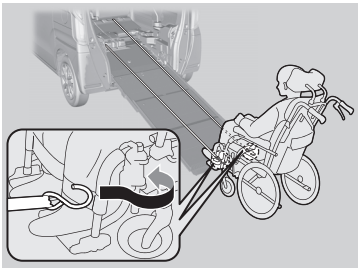
2. 主電源 スイッチを押してシステムを「ON」にする。(「ピッ」と音がして表示灯点灯)
   ▶ 主電源 スイッチを押してから約 1 分間、ベルトフリーなどのスイッチ操作が無い場合は自動的に主電源が切れます。(表示灯消灯)



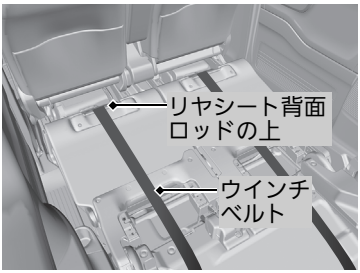
3. ベルトフリー スイッチを 1 秒間押す。
   「ピーッ」と音がして表示灯が点灯します。
   ▶ ベルトフリー作動中は「ピッピッ･･･ピッピッ･･･」と音が続きます。

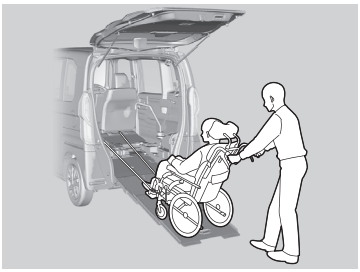


4. フロントシートの下にあるウインチベルトのフックをホルダーから取り出す。
   ▶ フックを取り出す際は、フロントシートを前にスライドさせてください。
   ➔ **フロントシート** P.116

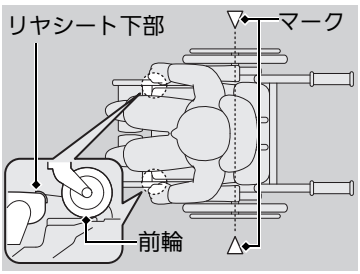


5. ウインチベルトのフックを引き出して、ベルトがねじれないように車いすの前輪側のフレームやフックにかける。
   ▶ ウインチベルトは、イラストを参考にして通してください。
   ➡ **ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき** P.293





6. 車いすのブレーキを解除する。
7. リモコンの 電源 スイッチを押しインジケーターが点灯後、入 スイッチを押しながら介護する人が車いすをしっかりと支えて車内に乗せる。
   ➡ **電動ウインチのリモコンの使いかた** P.133



8. 車いすの前輪が車輪止め付近にくるまでゆっくり前進する。
   後輪中央を床面のマークを目安として停車してください。
   ▶ リヤシート下部が車輪止めになります。

⚠注意

ウインチベルトの操作は、電動ウインチ付近に人がいないことを確認して行う。

ウインチベルトを急に離すといきおいよく巻き取られるので、フックを持ってゆっくりと巻き取らせる。

ウインチベルトを床面に放置しない。
乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。

車いすを車の所定の位置に乗せるときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすとの間にはさまれないように十分注意する。

介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意する。

電動ウインチは車いすの乗降を補助するもので、自動で乗降する装置ではありません。

電動ウインチユニットに飲み物などをこぼさないでください。
ウインチが作動しなくなるおそれがあります。

リヤシートに乗車する場合は、電動ウインチユニットを踏まないでください。
ウインチが作動しなくなるおそれがあります。

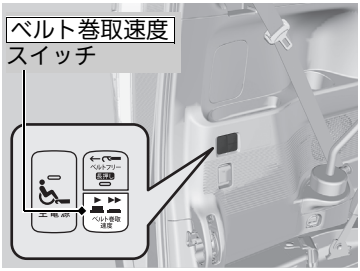
ベルトフリー作動中にウインチベルトが引き出せないとき、または表示灯が点滅したときは、ベルトフリー スイッチを押してもベルトを引き出すことができません。

➡ **ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき** P.293

⚠注意

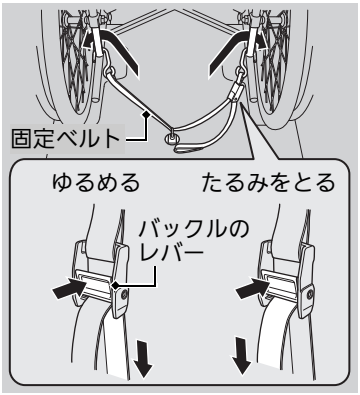
電動ウインチで車いす以外のものを引き上げない。
電動ウインチの故障やベルトの損傷につながったり、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

電動ウインチ停止中に ベルト巻取速度 スイッチを押すことで車いすの乗車速度の変更ができます。
ボタンを押し込むとベルトを巻き取る速度が速くなります。
通常の速度に戻す場合は再度ボタンを押してください。

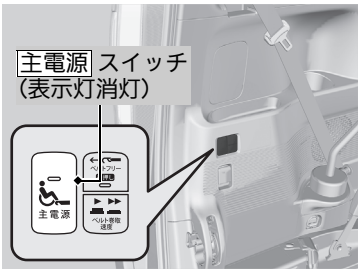


車輪止めを越えないようにゆっくり乗車させてください。電動ウインチに当たり、損傷するおそれがあります。

車いすを固定する



1. 固定ベルトを取り付ける。
   ➡ **固定ベルトの取り付けかた** P.135
2. 固定ベルトのバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめる。
3. 固定ベルトのフックを車いす後側(後部)のフレームやフックにかける。
4. 調整側のベルトを引っ張り、たるみをなくす。
   ▶ フックを軽くゆさぶり、ベルトにたるみがないことを確認してください。
5. リモコンの 電源 スイッチを押しインジケーターが点灯後、入 スイッチを「ピーピーピー」と音がするまで押し続けた後、車いすをゆすり確実に固定されていることを確認する。
   ➡ **電動ウインチのリモコンの使いかた** P.133
6. 車いすのブレーキをかけ車輪をロックする。
7. 主電源 スイッチを押してシステムを「OFF」にする。
8. シートベルトを着用する。
   ➡ **三点式シートベルトの着用** P.48



スロープを格納する

1. 直立位置にスロープを格納する。
   ➡ **スロープの扱いかた** P.135
2. バックドアを閉める。

⚠警告

車いす本体のブレーキを必ずかける。
確実にかかっていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

⚠注意

走行する前に、車いすが確実に固定されていることを確認する。
確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

走行する前に、主電源 スイッチを押して「OFF」にする。

⚠警告

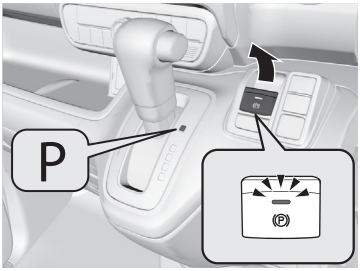
バックドアを閉めるときは、車いすに座っている人の頭にぶつけないように十分注意する。

⚠注意

車いす乗車スペース内には車いすに座った人以外の人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

■ 車いすの降ろしかた

車いすを降ろす前に

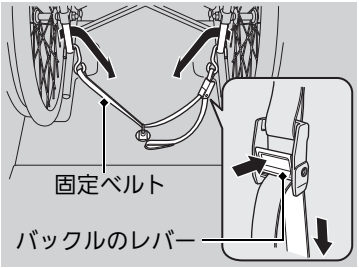


1. パーキングブレーキがかけてあることと、シフトレバーがPに入っていることを確認する。

スロープを降ろす

➡ スロープの扱いかた P.135

車いすの固定を解除する



1. シートベルトを外す。
   ➡ **三点式シートベルトの着用** P.48
2. 固定ベルトのバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめてフックを車いすから取り外す。
3. 固定ベルトを取り外す。
   ➡ **取り外しかた** P.135

⚠注意

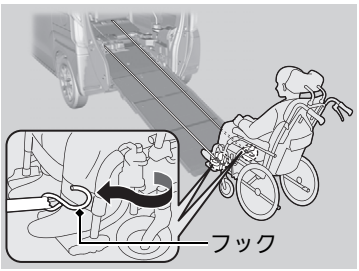
車いすを車から降ろすときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすとの間にはさまれないように十分注意する。

介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意する。

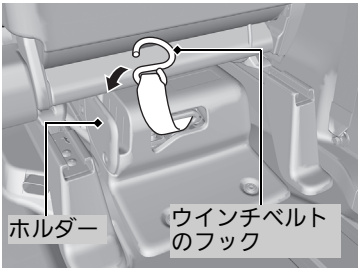
介護する人はスロープの途中で車いすから手を離さない。

車いすを降ろす

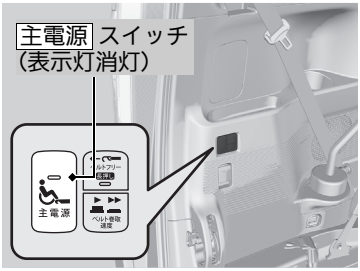
1. 主電源 スイッチを押してシステムを「ON」にする。
2. 車いすの車輪のブレーキを解除する。
3. リモコンの 電源 スイッチを押しインジケーターが点灯後、出 スイッチを押しながら介護する人がゆっくりと車いすを引き、車外へ降ろす。
   ▶ 出 スイッチを押してもベルトがゆるまない場合は、車いすを押しながら 出 スイッチを押してください。
   ➡ **電動ウインチのリモコンの使いかた** P.133
   ➡ **ウインチベルトが作動しないとき** P.290
4. 車いすがスロープから完全に降りていることを確認し、車いすのブレーキを両輪ともかける。
   ▶ 車いすの前輪がスロープ後端から 10cm 程度の距離で停めてください。



5. リモコンの 電源 スイッチを押しインジケーターが点灯後、出 スイッチを押しながら、フックを持ち車いすから取り外す。
6. フックを持ち、リモコンを使わずに、ウインチベルトがねじれないようにゆっくりと巻き取らせます。



7. フックをホルダーに収納できる長さまでウインチベルトを巻き取らせて、ベルトを手で押さえながらホルダーに収納する。
   ▶ フックを収納する際は、フロントシートを前にスライドさせてください。
   ➔ **フロントシート** P.116



8. 主電源 スイッチを押してシステムを「OFF」にする。

スロープを格納する

1. スロープを格納する。
   ➔ **スロープの扱いかた** P.135
2. バックドアを閉める。

⚠注意

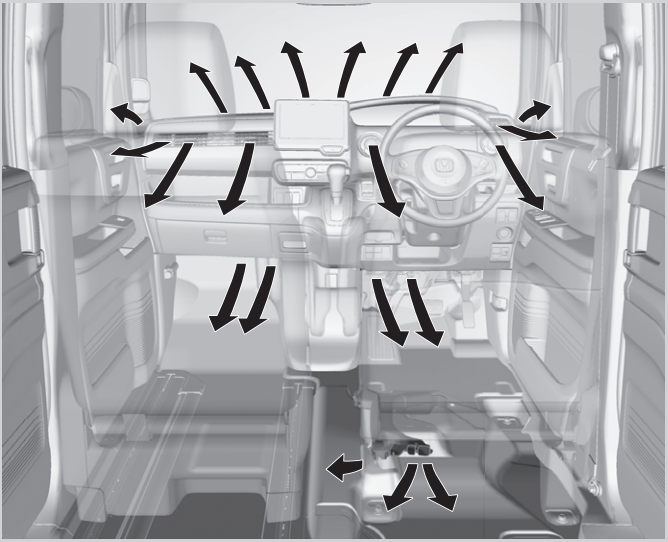
ウインチベルトの操作は、電動ウインチ付近に人がいないことを確認して行う。

ウインチベルトを床面に放置しない。
乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。

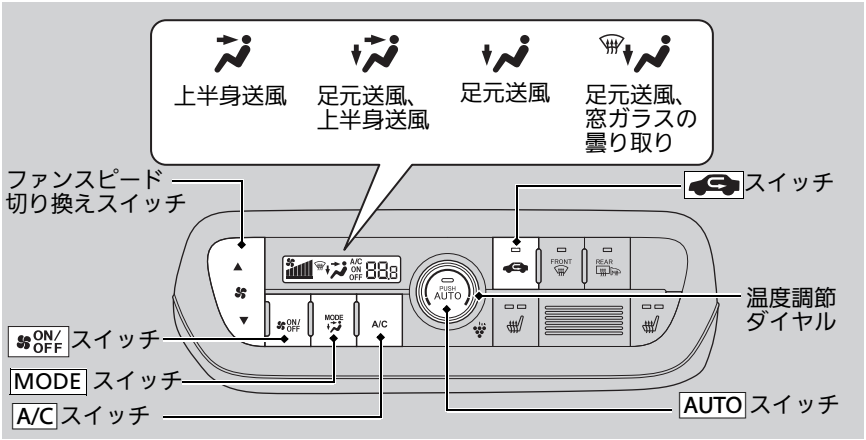
ウインチベルトを収納するときは、リモコンを使わずに収納してください。
リモコンを使うと、電動ウインチシステムが、車いすが乗っていると認識し、落下防止の状態となります。
そのため、ベルトフリー スイッチを押してもベルトが引き出せなくなります。
➔ **ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき** P.293

ウインチベルトのフックがホルダーに届かなくなった場合は、ベルトフリー スイッチを押すと収納しやすくなります。

エアコンの吹き出し口

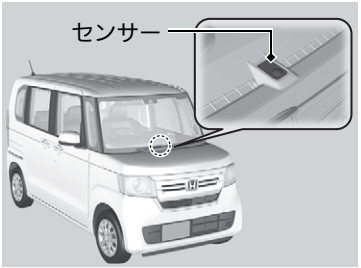


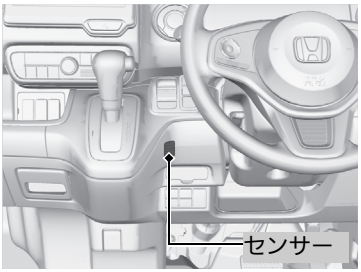
オートエアコンの使いかた



➡ オートエアコンの詳細説明については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

オートエアコンのセンサー

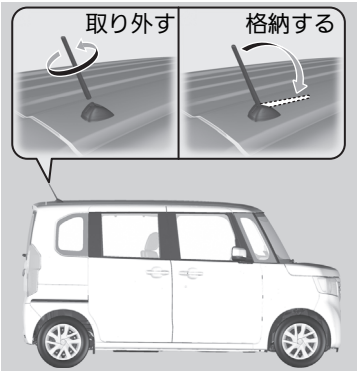




オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

オーディオ装置

アンテナ



アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■ 車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➡ **タイヤの点検と整備** P.241
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.91
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.116
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.112
  ➔ **ハンドルの調節** P.111
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.17
- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.53

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

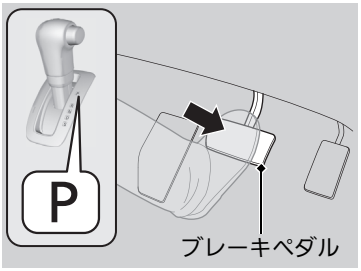
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

エンジンの始動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
   ▶ パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケーターとメーター内 のブレーキ警告灯（レッド）が約 30 秒間点灯します。



2. シフトポジションが P であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。
   ▶ N でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。
3. アクセルペダルを踏まずに、
   ENGINE START/STOP を押す。

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約 1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

■ エンジンの停止

1. シフトポジションを P にする。
2. ENGINE START/STOP を押す。

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■ その他の注意点

7 速マニュアルシフトモード装備車

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

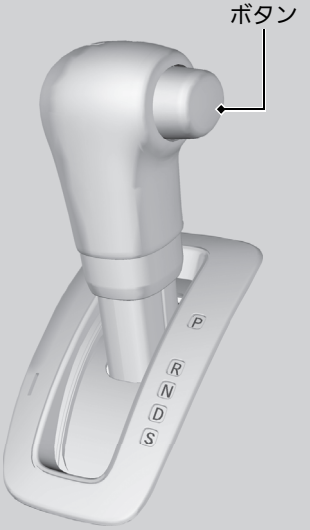
停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

無段変速オートマチックについて

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

シフト操作

走行状態に応じてシフトレバーで切り換えます。



P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
- 通常走行

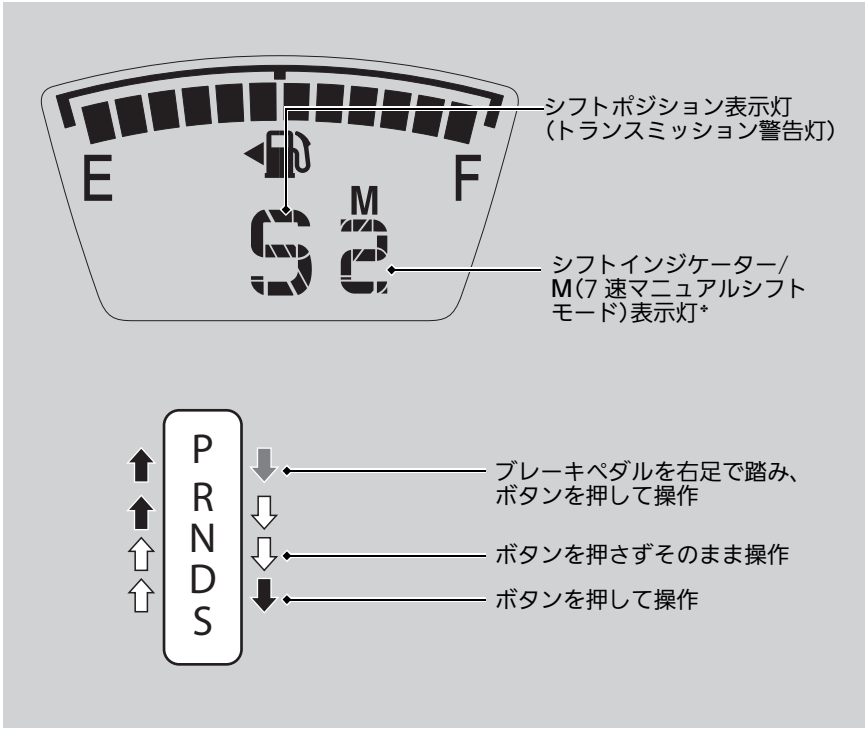
シフトスイッチ装備車
- 一時的に 7 速マニュアルシフトモードにするとき

S ドライブ(S)
- 上り坂や下り坂を走行するとき

シフトスイッチ装備車
- 7 速マニュアルシフトモードにするとき

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトレバーが R に入っていることを知らせます。

■ シフトレバーの操作



アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもシフトポジションの位置を確認してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

シフトスイッチ装備車

■7速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■シフトポジションがDのとき

一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。
一定速走行や加速の状態になると、7速マニュアルシフトモードは自動的に解除されます。また、＋のシフトスイッチ（右側）を数秒間引き続けることでも解除することができます。
カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

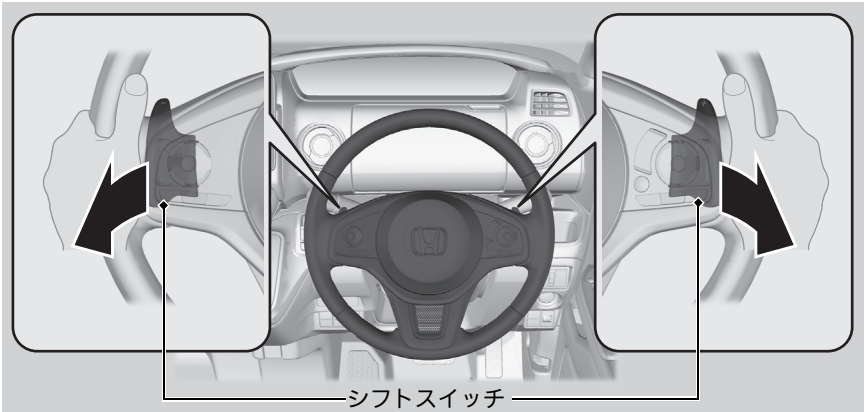
■シフトポジションがSのとき

7速マニュアルシフトモードとなり、**M**表示灯とシフトインジケーターが点灯します。シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると1速にシフトダウンします。
車速が上がりエンジン回転数が限界回転数（レッドゾーン）に近づくと、自動的に1段シフトアップします。

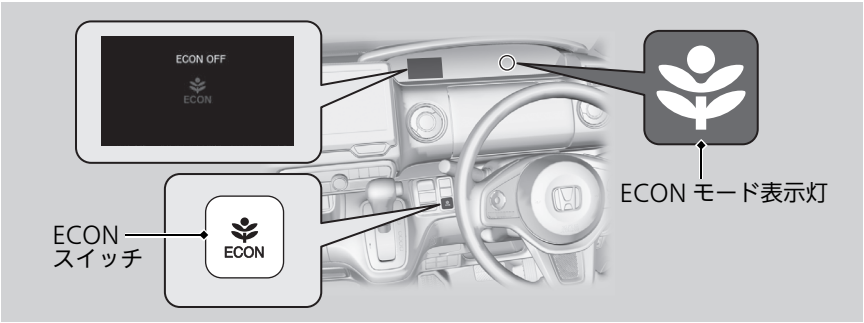
シフトスイッチ装備車

■7速マニュアルシフトモードの操作

1回のシフトスイッチ操作で、ギヤは1段変速します。



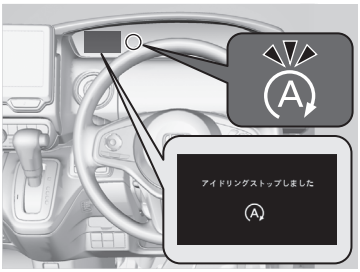
ECON スイッチ



パワーモードを ON モードにしたときは、常に ECON モードが ON になり、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。
エンジン、トランスミッション、オートエアコンの作動を制御して、省エネ運転をしやすくするように制御します。

アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車する直前もしくは停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯（グリーン）が点灯します。



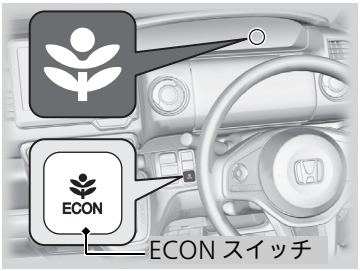
表示灯（グリーン）が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

警告灯 P.53
表示灯 P.62

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。
指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。
交換時は指定されたバッテリーを使用してください。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

仕様 P.298, 300

■ アイドリングストップシステムの ON/OFF



アイドリングストップシステムの作動を停止するには、ECON スイッチを押してください。
ECON モード表示灯が消灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

アイドリングストップ中に ECON スイッチを押すと、エンジンが再始動します。

➲ アイドリングストップに関する条件については左の QR コードから詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）機能 ➲ P.218

■ TCS（トラクションコントロールシステム）機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■ 横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

➲ **電子制御ブレーキアシスト** P.218

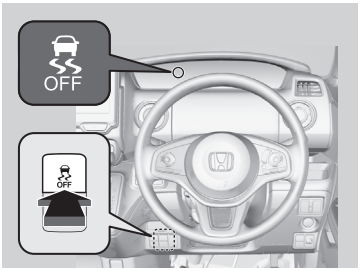
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

■ VSA の作動と警告灯
TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■ VSA の ON と OFF


VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、OFF を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

アジャイルハンドリングアシスト
運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

4WD(四輪駆動機構)*

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ホンダセンシング

フロントロアグリル内に設置されたレーダーセンサーと、フロントウィンドー内上部に設置されたフロントセンサーカメラと、リヤバンパーに設置されたソナーセンサーの、特性の異なる 3 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS） ➔ P.165
- 誤発進抑制機能 ➔ P.171
- 後方誤発進抑制機能 ➔ P.173
- 歩行者事故低減ステアリング ➔ P.175
- 路外逸脱抑制機能 ➔ P.198
- 先行車発進お知らせ機能 ➔ P.202
- 標識認識機能 ➔ P.204
- オートハイビーム ➔ P.105

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

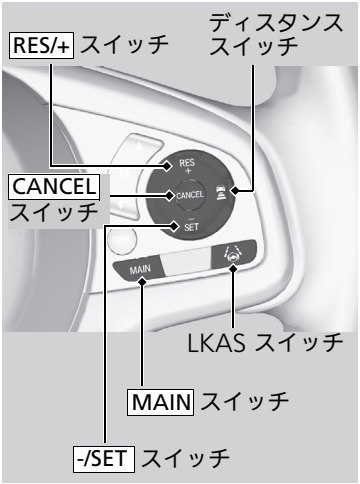
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) ➔ P.180
- 車線維持支援システム (LKAS) ➔ P.192

⚠警告

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ ステアリングスイッチ



■ MAIN スイッチ

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) および車線維持支援システム (LKAS) の待機状態の設定を行います。

■ LKAS スイッチ

LKAS の ON と OFF の設定を行います。

■ RES/+ スイッチ / -/SET スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。

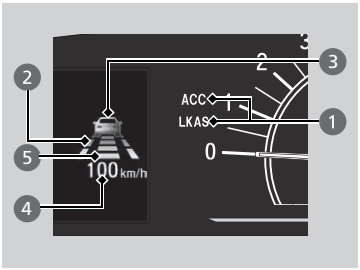
■ ディスタンススイッチ

車間距離の設定を行います。

■ CANCEL スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の解除を行います。

■ メーターの表示



渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) および車線維持支援システム (LKAS) の現在の状態を表示します。

1. 渋滞追従機能付 ACC および LKAS の待機状態
2. LKAS の ON と OFF の状態と制御状態
3. 前走車の検知状態
4. 設定車速
5. 設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.209

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.208

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントロアグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

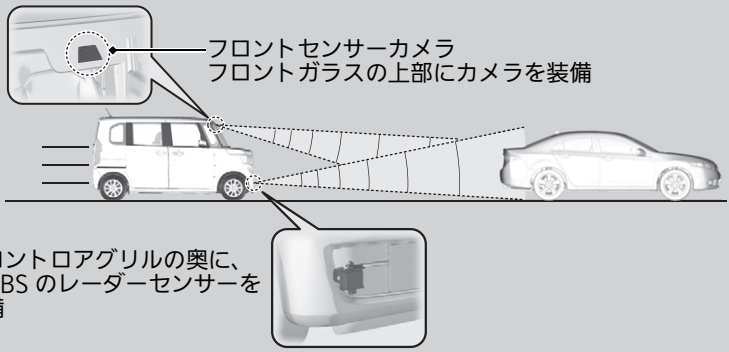
頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■システムの作動

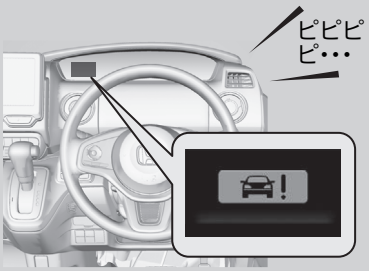
自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両、歩行者および移動する自転車の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車両、停止車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、システムは解除されます。
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

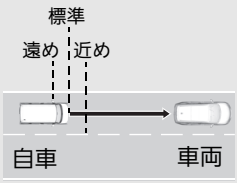
■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーが発生します



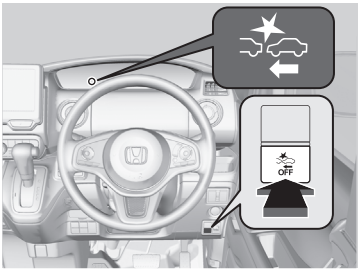
■CMBS 作動の流れ

CMBS の作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第1段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が 2 回点滅するさらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。	—
第2段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第3段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※: CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

■CMBS の ON と OFF



CMBS OFFスイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードをONにすると自動的に ON になります。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者および移動する自転車や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントロアグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトを OFF で走行しているとき

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両、歩行者および移動する自転車の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両、対向車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両、対向車両が横向きのとき
- 歩行者や移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者や移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりで前方の車両、対向車両が無灯火のとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき

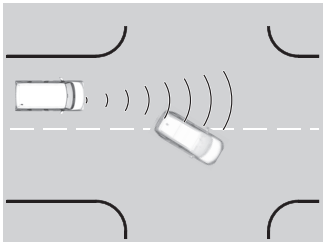
■その他検知、作動できない事例

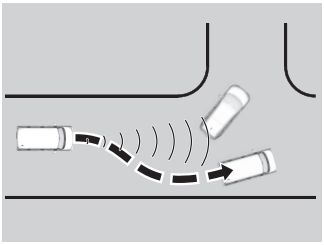
- 二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

■ 衝突の可能性の高くない場合の作動について

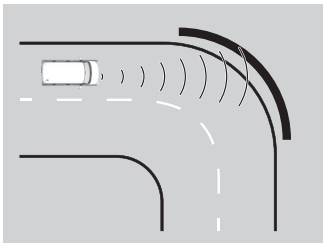
衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

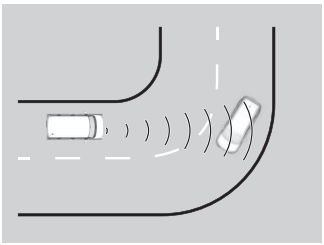
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合





- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき





- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

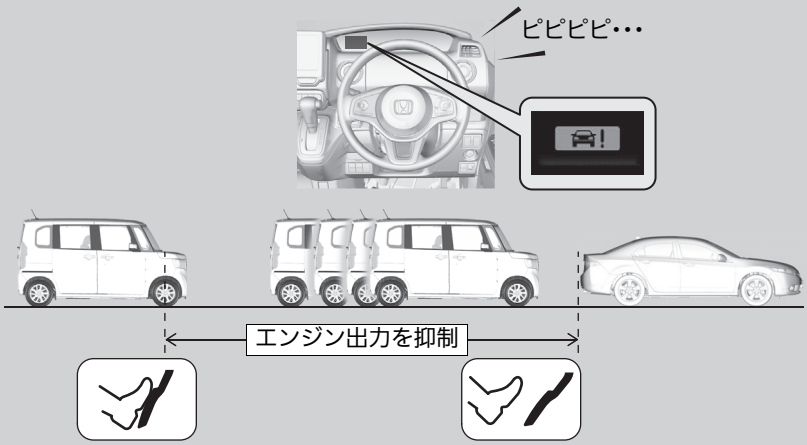
誤発進抑制機能

フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約10km/h以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

なお、急な坂道やシフトポジションが、P、R、Nのときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー(ピピピ)がなり、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅します。



アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急な発進を防止
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。

アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

⚠警告

誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がシフトレバーやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.209

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.208

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。

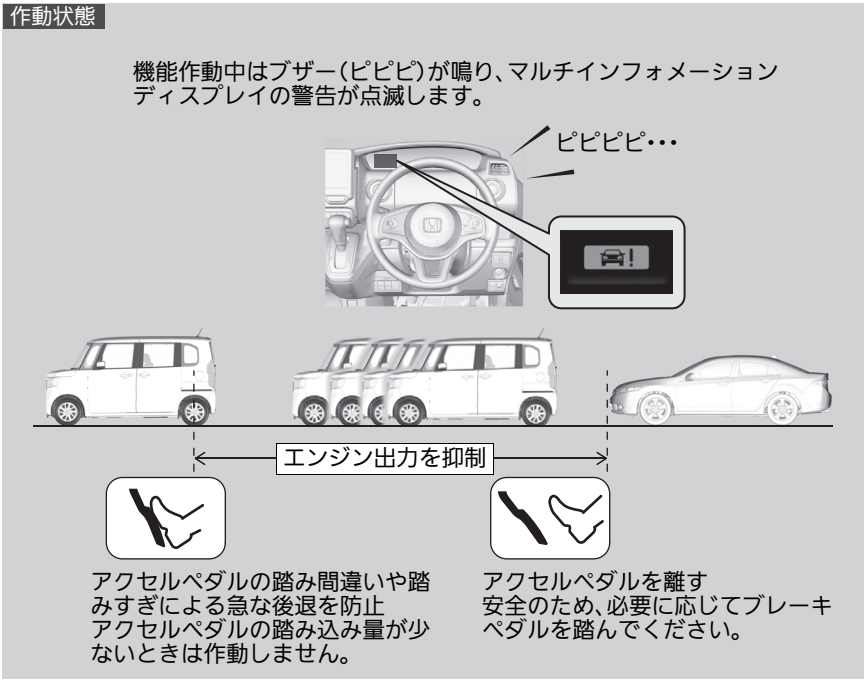
■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

後方誤発進抑制機能

リヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、停車時や約 10km/h 以下で後退しているとき、自車のほぼ真後ろの近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な後退を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。
なお、急な坂道やシフトポジションが R 以外のときは、作動しません。

作動状態



⚠警告

後方誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。
後方誤発進抑制機能は停止状態を保つことができるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がシフトレバーやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

後方誤発進抑制機能は CMBS を OFF にしているときは作動しません。また CMBS に異常があるときも同様に作動しません。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

後方誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合にはCMBS を OFF にしてください。
作動中は後退を知らせるチャイム音は鳴りません。

ソナーセンサーの取扱いについては下記を参照してください。
➔ **ソナーセンサー** P.210

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■作動解除の条件
- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき

次のような場合、ソナーセンサーが障害物を検知できず、後方誤発進抑制機能が正常に作動しない場合があります。

■自車の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例
- ソナーセンサーが汚れているとき（雪、氷、泥などで覆われているとき）
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりソナーセンサーが正しく検知できない事例
- 悪天候のとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 近くに超音波を発するものがあるとき

■後方の障害物の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 障害物がバンパーのすぐ近くにあるとき
- 進路上に障害物が飛び出してきた場合など移動する物体のとき

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.209

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.208

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

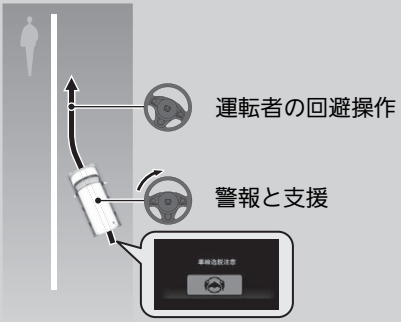
➔ **歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限** P.178

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

■ システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します



路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
車両と歩行者の位置関係によってはCMBS の作動が優先される場合があります。



繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、左記の警告を表示し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。



一時停止状態から数分経過すると、左記の表示とともに歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

■システムの作動条件

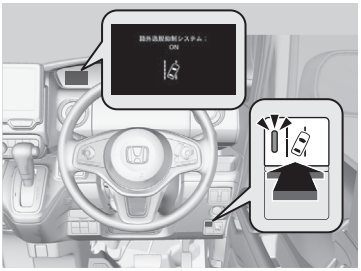
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを高速で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

■ システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り換えてください。

▶ ON　のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

■ 歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水たまりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

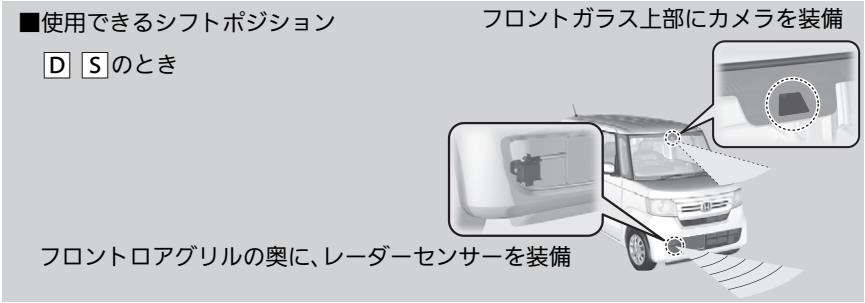
- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。
渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。



ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

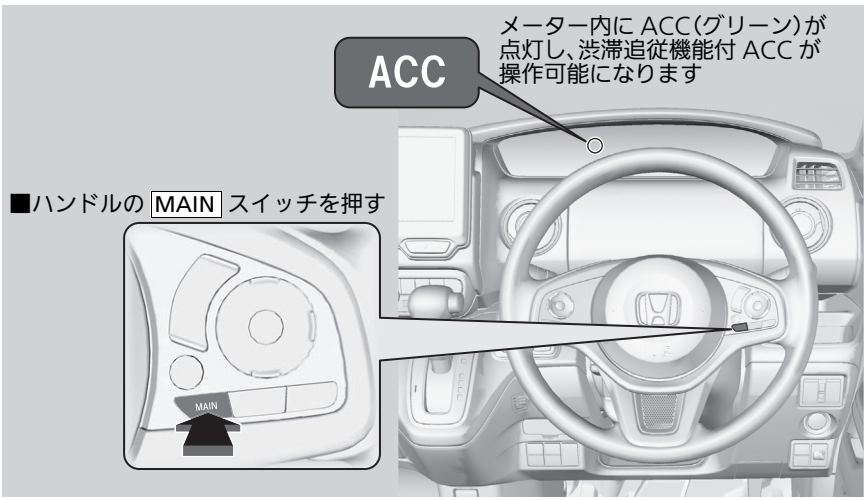
➔ **フロントセンサーカメラ** P.208

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

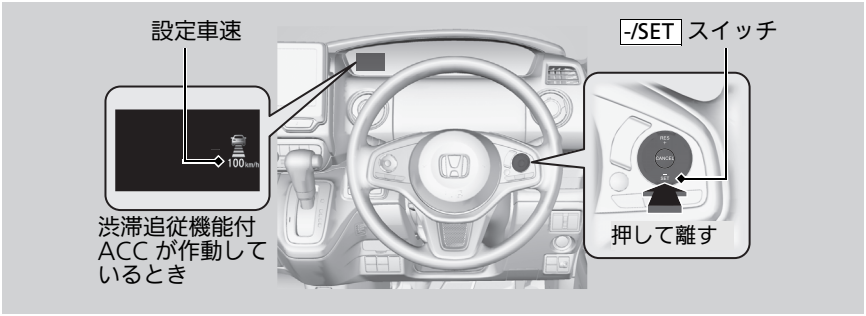
➔ **レーダーセンサー** P.209

使用上の注意:
渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

■システムを作動させるには



■ 車速をセットするには



ブレーキペダルを操作していないときに -/SET スイッチを押して離すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき:

先行車を検知している場合のみ作動することができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約30km/hに設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

MAIN スイッチを押すと、渋滞追従機能付 ACC と車線維持支援システム (LKAS) の両方が ON と OFF に切り換わります。

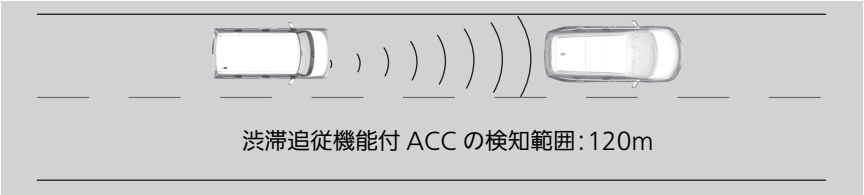
下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況では、適切な車間距離が保てません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、渋滞追従機能付 ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できない場合があります。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■ 渋滞追従機能付 ACC の作動

■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



渋滞追従機能付 ACC の検知範囲：120m



マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

■先行車がいないとき



マルチインフォメーションディスプレイに点線の車のアイコンが表示されます。

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

■アクセルペダルを踏んだとき

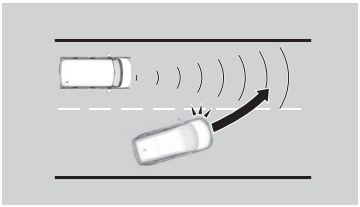
- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付ACCが一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付ACCが復帰し追従走行または定速走行を再開します。

■先行車が減速して停車するとき

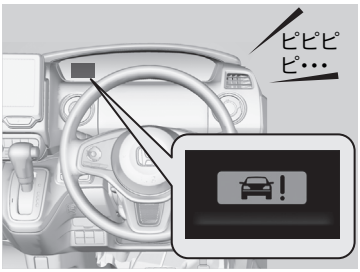


先行車が停車すると、自車も自動で停車します。マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
先行車が動き始めると、マルチインフォメーションディスプレイのアイコンが点滅します。RES/+ スイッチまたは -/SET スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

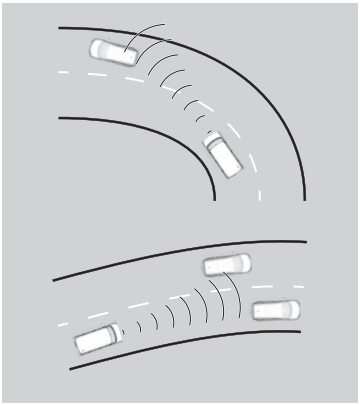


先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

制限:
安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。

➡ **渋滞追従機能付 ACC の条件と制限** P.185
➡ **車間距離を設定するには** P.187

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ 渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

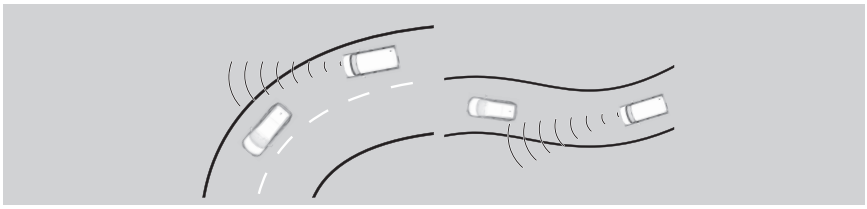
➔ **フロントセンサーカメラ** P.208
➔ **レーダーセンサー** P.209

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

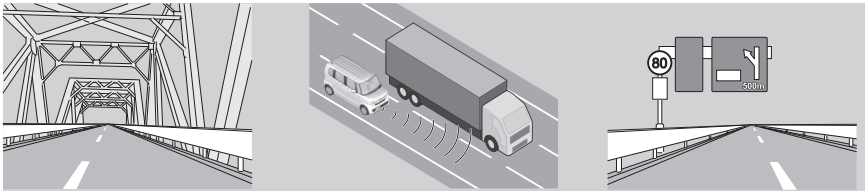
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき



■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

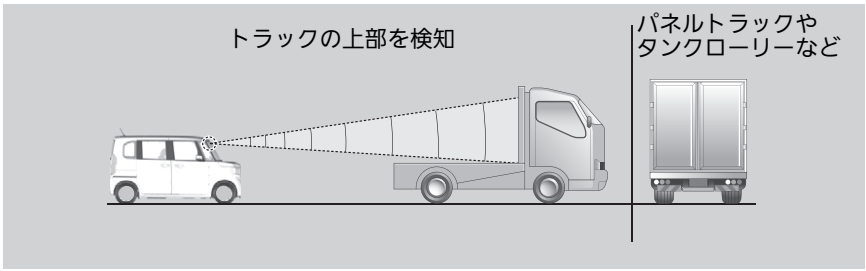
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

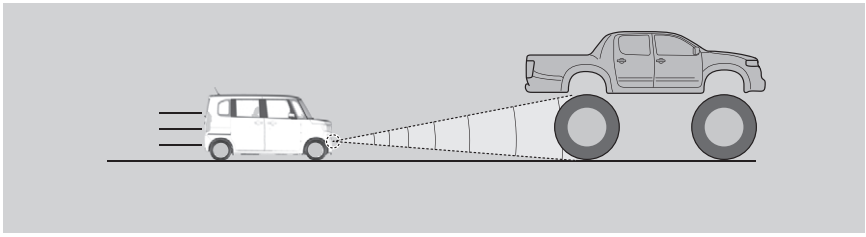
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき

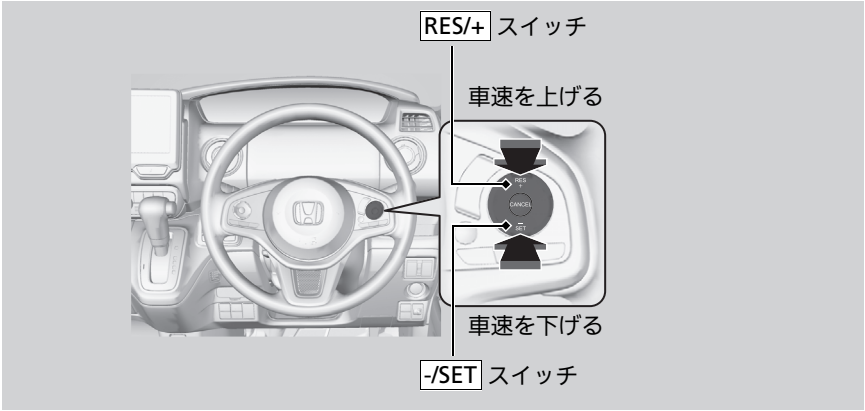


- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



■ 設定車速を調整するには

手元の RES/+ スイッチと -/SET スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

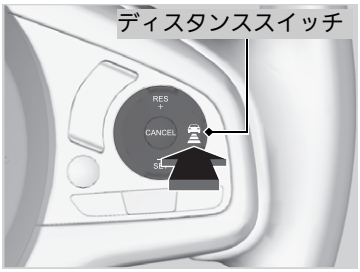
-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

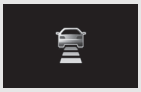
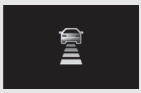
アクセルペダルを踏み、-/SET スイッチを押すと、現在の車速が設定車速になります。

■ 車間距離を設定するには



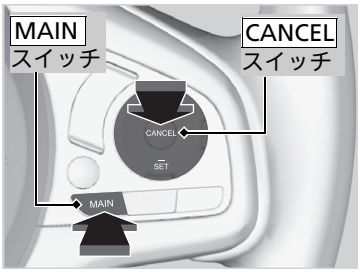
ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 34m	約 42m
長		約 47m	約 59m
最長		約 64m	約 80m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- フロントロアグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき

- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯したとき
- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき

解除前の設定車速を復帰させるには:

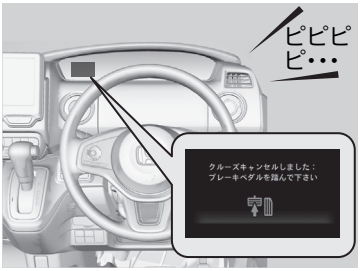
渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、停車状態でも RES/+ スイッチを押すと解除前の設定車速で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- MAIN スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF した後
- 30km/h 以下で先行車がいないとき

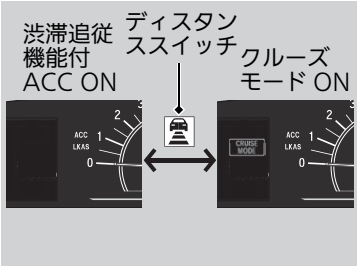
停車中の解除:

渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。



すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

■ クルーズモードへの切り換え



ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けます。
マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。
同時に、マルチインフォメーションディスプレイに CRUISE MODE が表示されます。
再度ディスタンススイッチを1秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

■作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

以下の場合、モードを切り換えられません。

- 車速をセットしているとき
- MAIN スイッチがオフのとき

クルーズモードへ切り換えた状態でも MAIN スイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

■ 車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、-/SET スイッチを押します。
-/SET スイッチを離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、マルチインフォメーションディスプレイに CRUISE CONTROL と設定車速が表示されます。

■ 車速を調節するには

RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

■ 解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に CRUISE CONTROL と設定車速の表示が消えます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

解除前の設定車速に復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中に RES/+ スイッチを押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

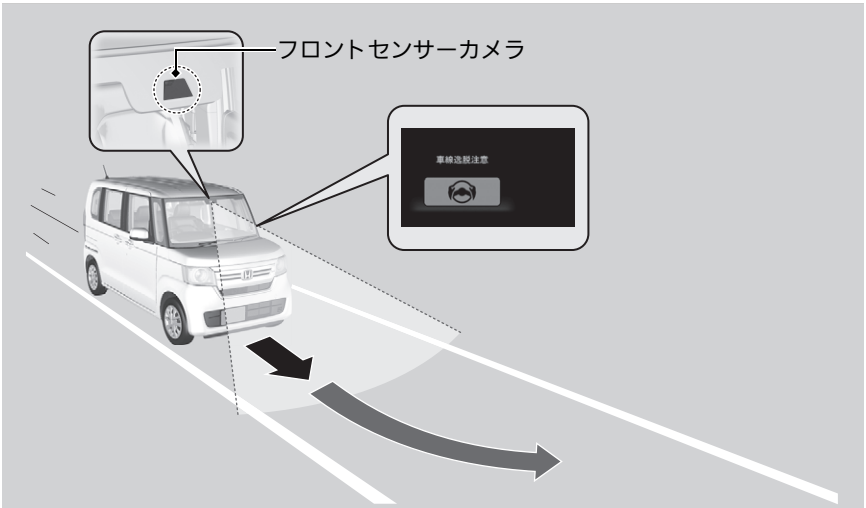
- 車速が 30km/h 未満のとき
- MAIN スイッチで OFF 操作をしたとき

車速が 25km/h 以下になると自動的に自動定速走行が解除になります。

車線維持支援システム (LKAS)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

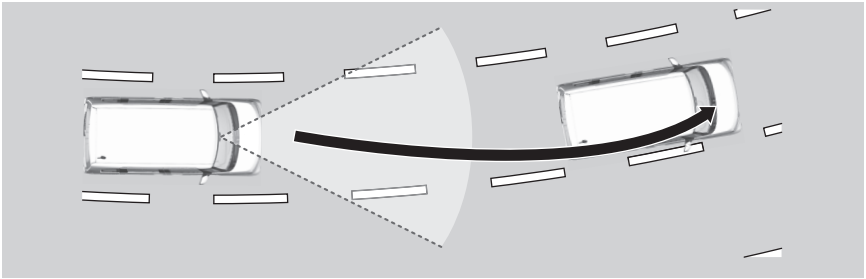
■システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

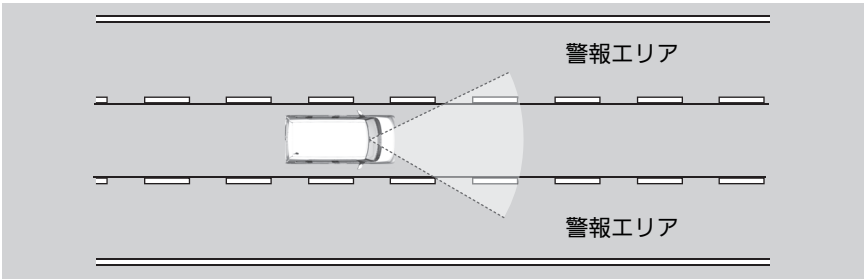
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音とディスプレイ表示で行います。



⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.208

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■LKAS を作動させるには

LKAS は、以下の条件で作動します。

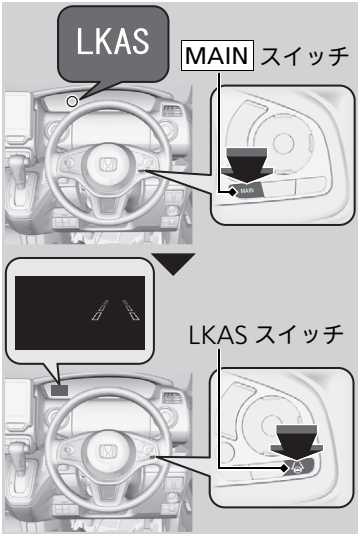
- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを高速で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

■システムの作動方法



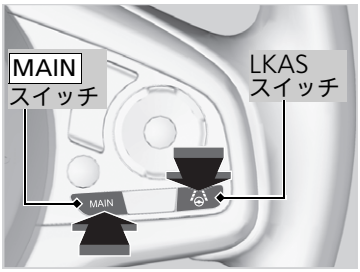
1. MAIN スイッチを押す。
   ▶ LKASがONになり、メーター内にLKAS 表示灯（グリーン）が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す。
   ▶ LKASが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（点線）が点灯します。



3. 車線の中央付近を走行する。
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、LKAS が制御を開始します。

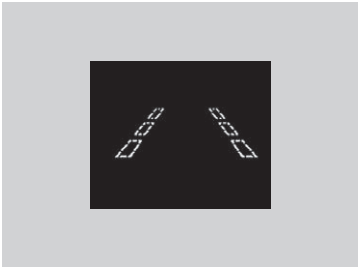
■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。
- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時にLKASがON状態でも、パワーモードをOFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に渋滞追従機能付 ACC も解除されます。



■LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。
- ワイパーを高速作動したとき
  ▶ ワイパースイッチをHIまたはMISTで連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。ワイパーを OFF、INT または LO にすると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 50km/h 以下になったとき
  ▶ 車速が 50km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

■LKAS が自動的に一時解除されるとき
- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- 路外逸脱抑制機能が作動したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき
次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。
- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

■LKAS の条件と制限
以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例
- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

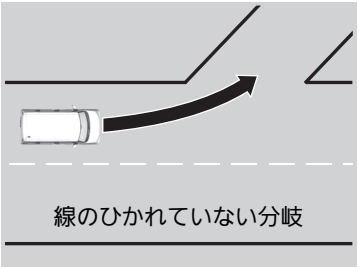
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき



- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水たまりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

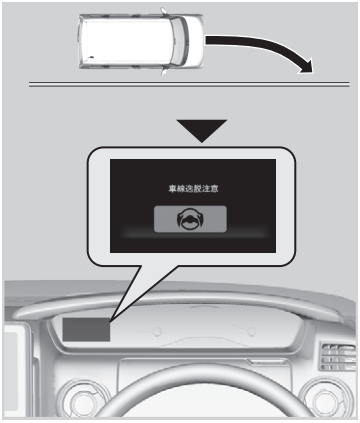
➔ **フロントセンサーカメラ** P.208

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、車線維持支援システム (LKAS) を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。



■ システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイによる警告と音による警報をおこなうことで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。
繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、左記の警告を表示し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。



一時停止状態から数分経過すると、左記の表示とともに路外逸脱抑制機能は復帰します。



■ システムの作動条件

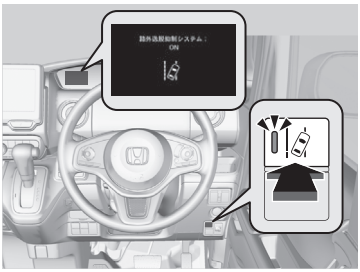
路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 120km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが高速で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■ システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えてください。

▶ システムが ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御を行いません。

■ 路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

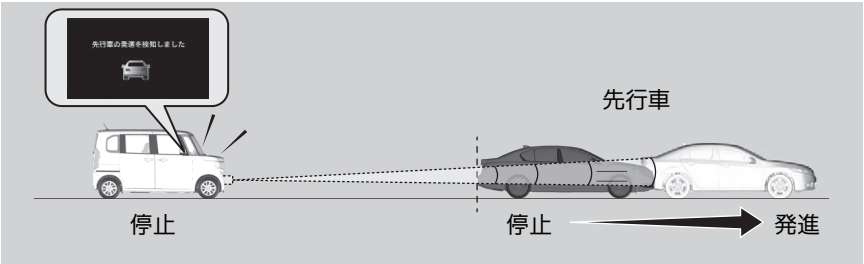
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水たまりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- カメラ温度が高温のとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.209

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.208

■ システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

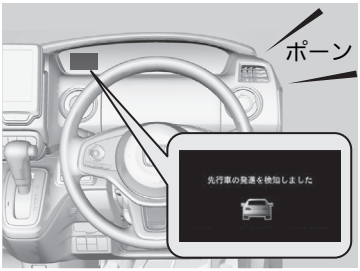
■シフトポジションがD、Sの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動しているまたは渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動中で停車している。

■シフトポジションがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動しているまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

■ システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

⚠警告

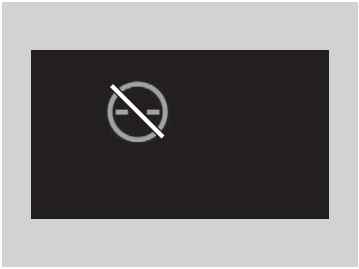
標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

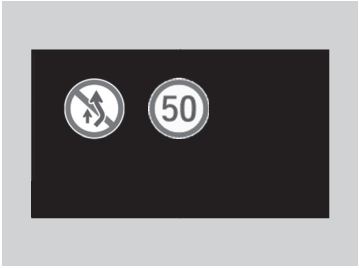
➡ **フロントセンサーカメラ** P.208

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



■ 作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止:速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止:自車の速度が約 60km/h 以下のとき

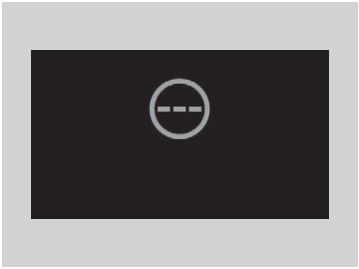
以下のときは、道路標識情報が別のものに切り換わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



■ 標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識(終了を示す補助標識など)

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

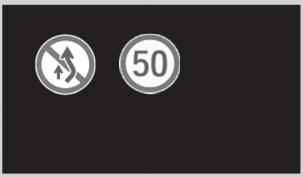
以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例





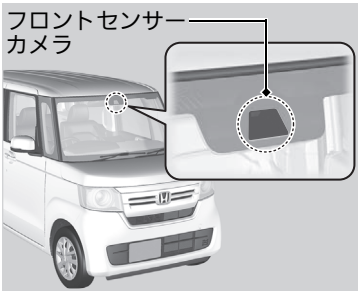
常駐表示モードのときの表示例



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

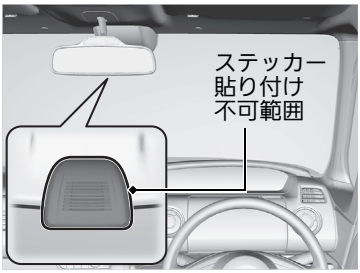
車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約 5 秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

フロントセンサーカメラ



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合は Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

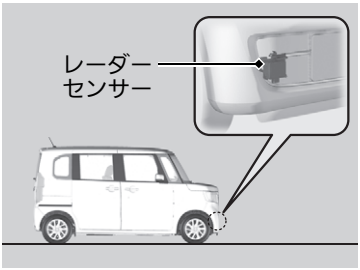
インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントロアグリル内に設置されています。

フロントロアグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントロアグリルは常にきれいにしておく
- フロントロアグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントロアグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントロアグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントロアグリル周辺の修理を行うとき

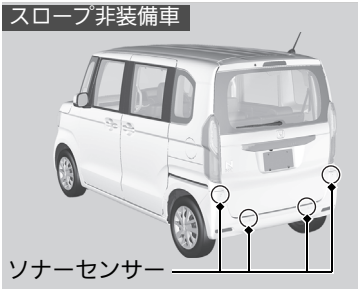
以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

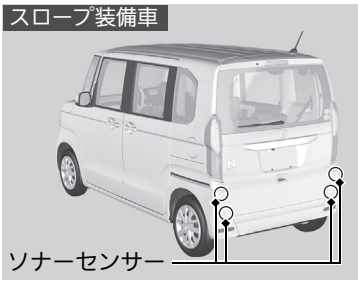
- フロントロアグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

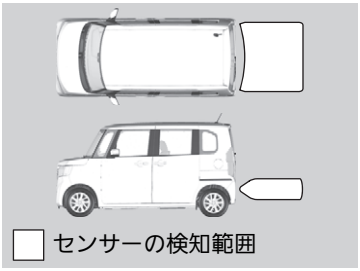
パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、各機能が作動しない場合があります。

ソナーセンサー

■センサーの取り付け位置と検知範囲







ソナーセンサーはリヤバンパーに設置されています。

ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- リヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

ブレーキシステム

■ 電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。

➡ バッテリーがあがったとき P.273

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

以下の状態のときは、パーキングブレーキが 自動で作動します。

- 10 分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で運転席のシートベルトを外したとき
- アイドリングストップ中を除き、渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシステムに問題が発生したとき

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。
- ブレーキ警告灯(レッド)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
自動作動機能を OFF にして、石などで輪留めをしてください。
また、けん引の場合は、必要に応じて自動作動機能を OFF にして、パーキングブレーキがかからないようにしてください。

■手動で操作するとき
パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。
急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■手動でパーキングブレーキをかける
パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。
▶パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。



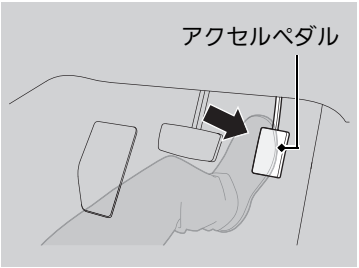
■手動でパーキングブレーキを解除する
1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。
▶パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

■自動パーキングブレーキ作動機能
自動パーキングブレーキ作動機能が ON になっているとき:
パワーモードを OFF モードにするとパーキングブレーキが自動でかかります。
パーキングブレーキがかかっていることを、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

➡ **自動作動機能を ON/OFF するには** P.214

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。
▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- エンジンが始動しているとき
- シフトポジションが P 、N 以外のとき

■自動作動機能を ON/OFF するには

パーキングブレーキの自動作動機能は、パワーモードが ON モードのときに以下の操作で ON と OFF を切り換えることができます。

1. シフトレバーを P に入れる。
2. ブレーキペダルを踏まずに、パーキングブレーキスイッチを引き上げます。
   ▶ブレーキ警告灯(レッド)が点灯していることを確認してください。
3. パーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
   「ピーッ ピーッ ピーッ ・・・・」と鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
4. 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
   ▶自動作動機能が ON になると、「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
   ▶自動作動機能が OFF になると、「ピー」と鳴ります。
   ▶パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

また、下記操作を行うことで、パーキングブレーキの自動作動を一時的にOFFすることもできます。

1. ブレーキペダルを踏んで停車する。
2. パワーモードをOFFモードにした後、2秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。
   ▶自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。
   ▶渋滞追従機能付 ACC　およびオートマチックブレーキホールドシステムの機能が OFF になっている状態で行ってください。
   ▶パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

エンジン始動直後や標高が高いときなど特定の条件下でブレーキを踏んだとき、ブレーキの効きを補うハイドロリックブレーキブーストが装備されています。
この機能が作動するとブレーキペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえる場合があります。

■ オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。
急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

⚠警告

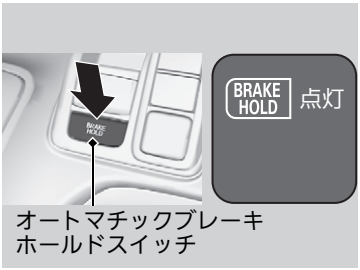
オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

パワーモードを OFF にすると、システムは自動的に OFF になります。

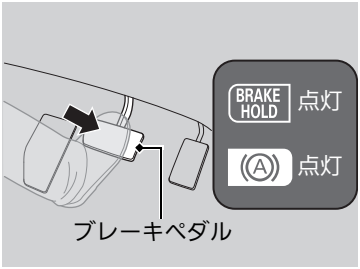
■機能を ON させるには



シートベルトを着用し、エンジンを始動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

■ブレーキを保持させるには

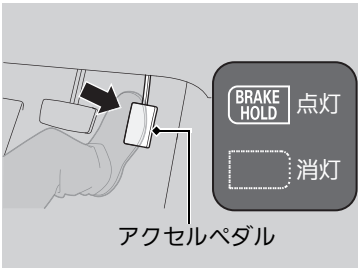


シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



シフトポジションが P N 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

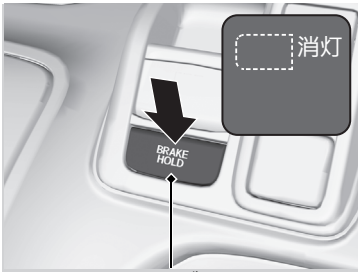
■ ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき

- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- エンジンを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■ 機能を OFF させるには



オートマチックブレーキ
ホールドスイッチ

機能が ON のときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中に OFF にしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これはABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。
ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。
ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

電子制御ブレーキアシスト

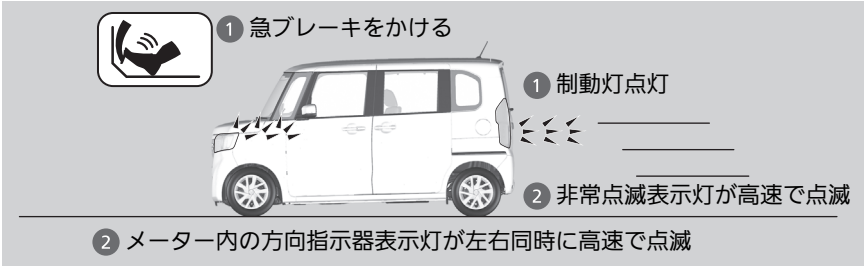
緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➡ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.160

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを[P]にする。
4. エンジンを停止する。
   ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

駐車時はエンジンを止める。
万一、シフトポジションが[P] [N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、シフトポジションが[P] [N]以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で[P] [N]以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

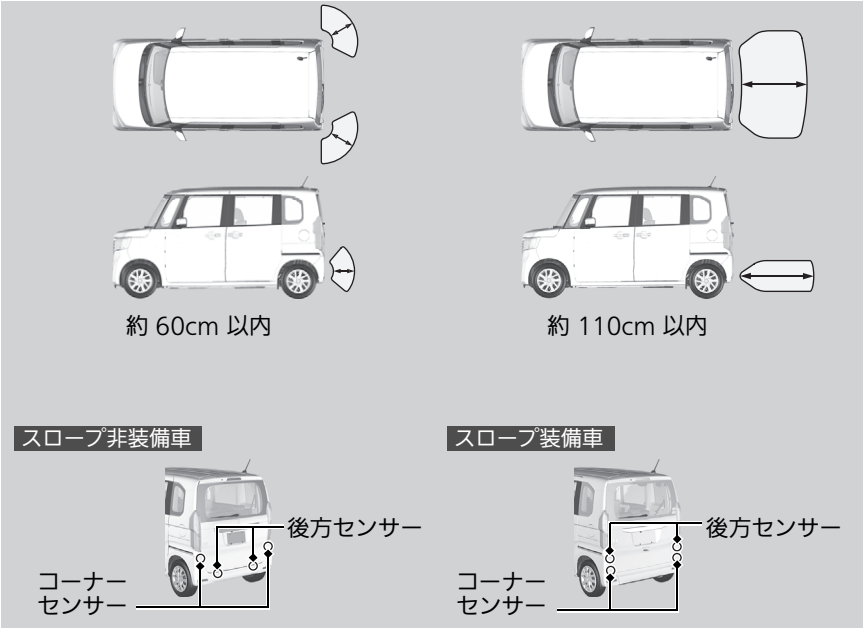
寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両後方の「後方センサー」および「コーナーセンサー」が障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

➔ **ソナーセンサー** P.210

■ パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



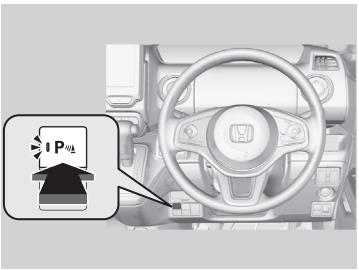
駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。
- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 近くに超音波を発する電子機器があるとき
- 悪天候のとき

次のようなときは、システムが検知できないことがあります。
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

■パーキングセンサーの ON と OFF

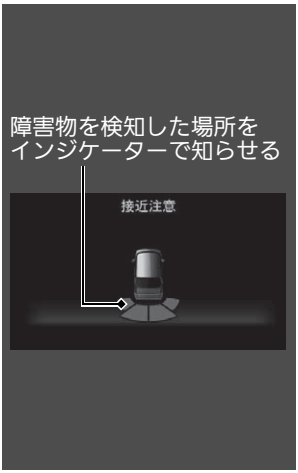


パワーモードがONモードのときに、パーキングセンサーシステムスイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えます。
パーキングセンサーシステムを ON にしたとき、スイッチのインジケーターが点灯します。

センサーは、シフトポジションが R で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

■障害物を検知したときの作動状態

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーションディスプレイ
	コーナーセンサー	後方センサー		
長い	—	約 110-60cm※1 約 110-100cm※2	点灯（イエロー）※3	
短い	約 60-45 cm	約 60-45cm※1 約 100-80cm※2	点灯（オレンジ）	
非常に短い	約 45-35 cm	約 45-35cm※1 約 80-70cm※2		
連続	約 35 cm 以下	約 35cm 以下※1 約 70cm 以下※2	点灯（レッド）	

※1: スロープ非装備車
※2: スロープ装備車
※3: このときは、後方センサーのみが障害物を検知します。

給油

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

アドバイス

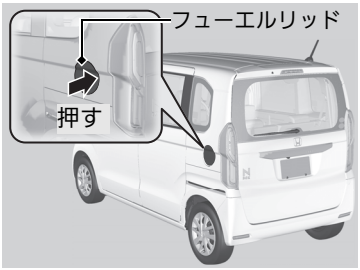
指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

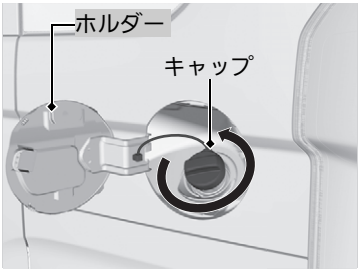
プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

給油のしかた

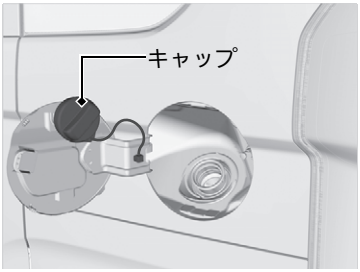
1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席ドアを解錠する。
   ▶車の外側のフューエルリッドが解錠されます。



4. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
   ▶リッドが少し浮き上がります。



5. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



6. キャップをホルダーにかける。
7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
   ▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
8. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。
   ▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

ターボ車* について

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- **エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない**

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■ 点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

■ メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

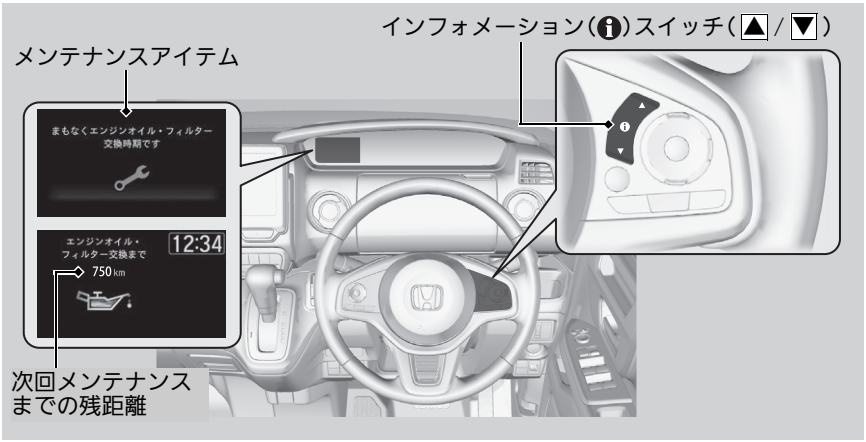
■ 車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。
  ▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

オイルメンテナンス表示*

オイルメンテナンス表示は、リセットしてからの距離に応じてエンジンオイル、エンジンオイルフィルターの交換時期の目安をマルチインフォメーションディスプレイにてお知らせします。
メンテナンスが必要な場合は、表示されたメッセージと距離を目安に、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルメンテナンス情報の表示



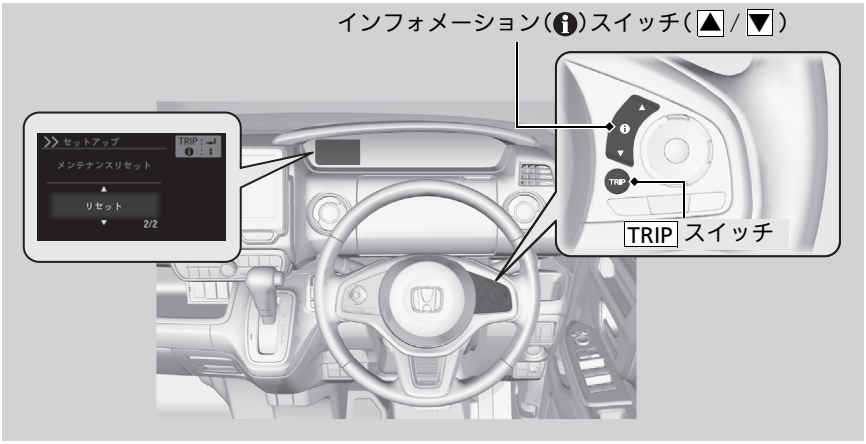
1. パワーモードを ON モードにする。
2. マルチインフォメーションディスプレイにオイルメンテナンス画面が表示されるまで、インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押す。

残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換から 6 か月が経過していたら、メンテナンスを実施してください。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルメンテナンスの表示をリセットします。



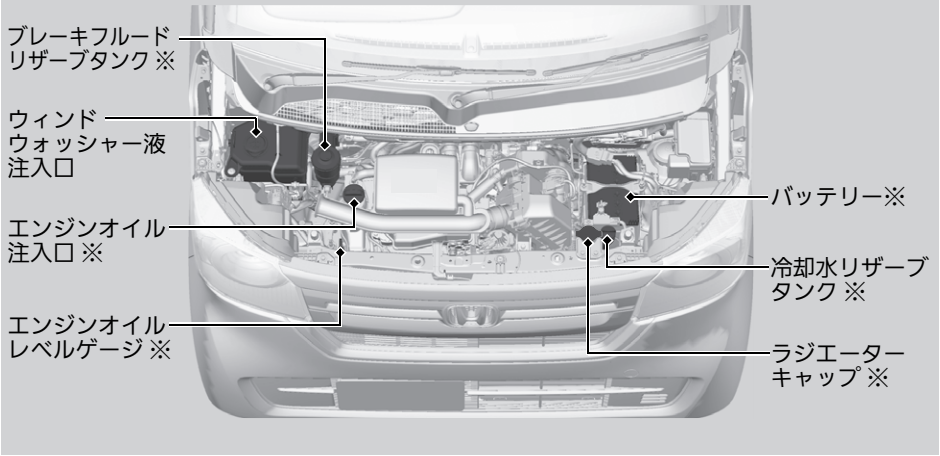
1. パワーモードを ON モードにする。
2. カスタマイズ機能の中から「メンテナンスリセット」を選択する。
3. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押して「リセット」を選択する。
4. 「リセット」が選択された状態で TRIP を押す。
   - ▶ オイルメンテナンスがリセットされます。
   - ▶ マルチインフォメーションディスプレイにメンテナンスリセットが完了した文章が表示されます。

アドバイス

メンテナンス後にオイルメンテナンスをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

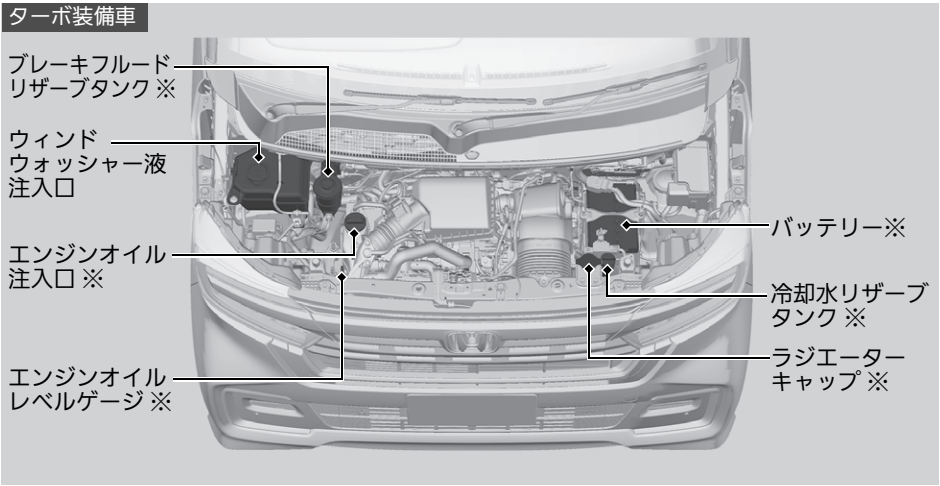
エンジンルーム内のメンテナンス項目

ターボ非装備車



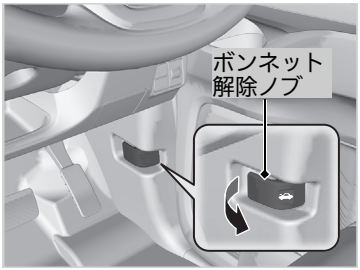
※: 点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ターボ装備車

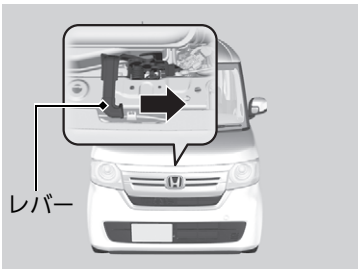


※: 点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

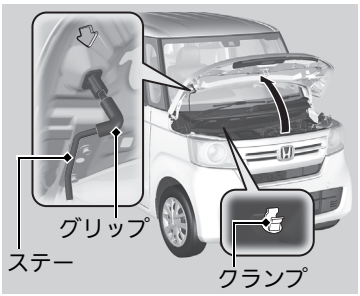
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
   ▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約 30cm の高さから手を離します。

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

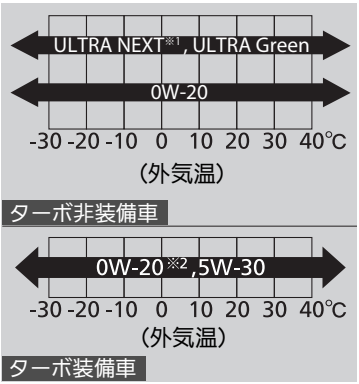
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

推奨エンジンオイル

推奨エンジンオイル:
Honda 純正エンジンオイル
➡ **推奨** P.299,301
API SM もしくは SN 以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル



エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

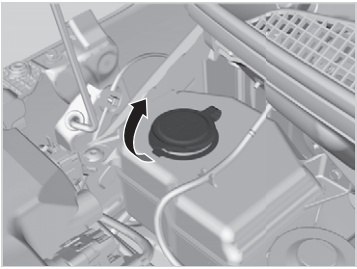


市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

※1: 最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。
※2: 最も省燃費性に優れたオイルです。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

電球の交換

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

車幅灯電球

車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

フォグライト電球*

フォグライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯はLED を使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球

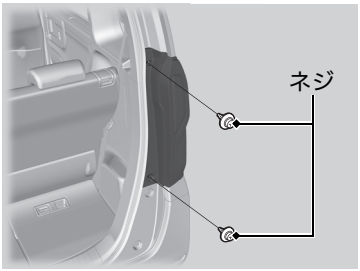
LED タイプ

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

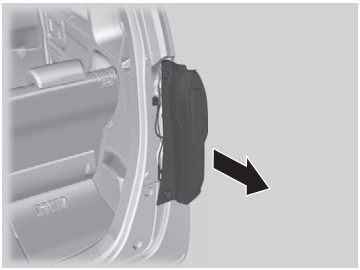
電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

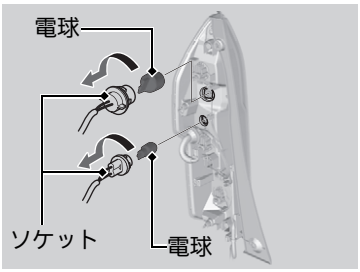
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	:12V−21W(橙色)
後退灯	:12V−16W



1. ネジを外す。



2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

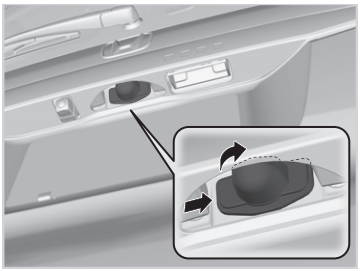
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

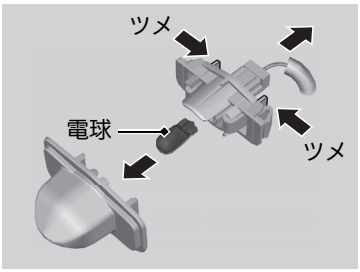
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯:12V−5W



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。



2. ツメを押してカバーを外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

➡ **その他の電球については左のQRコードから詳細取扱説明書(HTML版)を参照してください。**

ワイパーブレードラバーの点検と整備

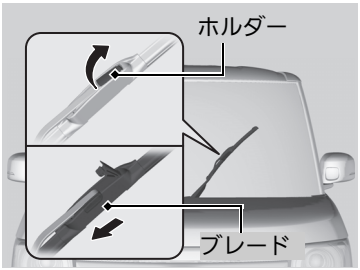
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

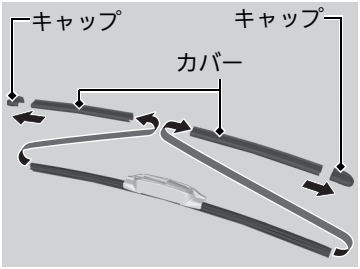
フロントワイパーブレードラバーの交換



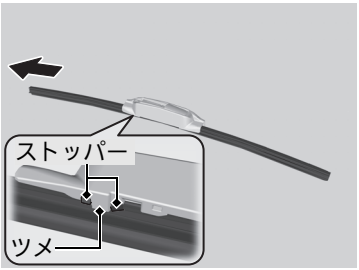
1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



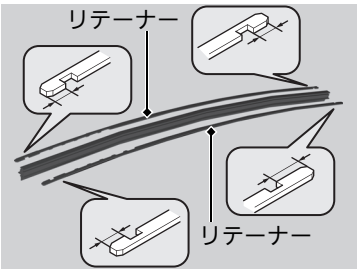
2. ホルダーを起こす。
3. ブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取り外す。



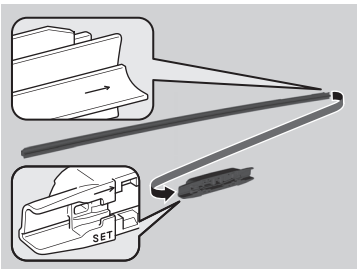
4. ブレードの両端のキャップとカバーを取り外す。



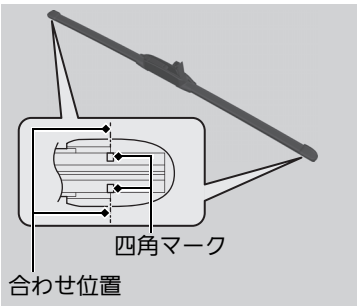
5. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



6. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
   ▶ リテーナーの切欠き部が、正しくラバーに取り付けられているか確認してください。



7. ラバーをブレードの端から差し込む。
   ▶ 正しく固定されているか確認してください。



8. ブレードの両端のカバーとキャップを取り付ける。
   ▶ キャップの合わせ位置がラバーの四角マーク内に収まっているか確認してください。
9. ブレードをワイパーアームに取り付けてホルダーを閉じる。
10. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

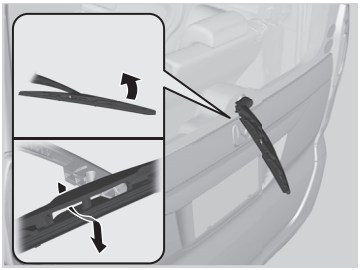
アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

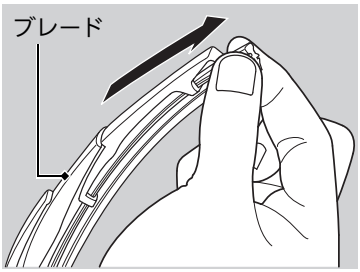
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

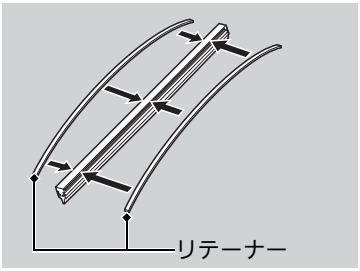
リヤワイパーブレードラバーの交換



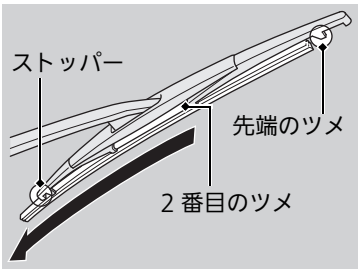
1. ワイパーアームを起こす。
2. ブレードを回転させ、アームのホルダー部からブレードを引き抜いて取り外す。



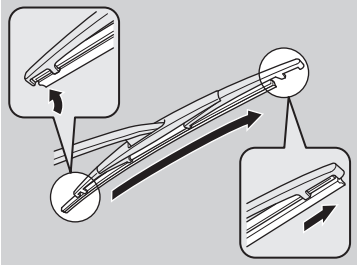
3. ラバーを引いて先端部をブレードのツメから外す。
4. ラバーをブレードから引き抜く。



5. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
   ▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。



6. ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込み、ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出す。



7. ブレードの先端のツメにラバーを通す。
8. ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して固定する。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

タイヤの点検

■ タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➡ **仕様** P.299,301

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

ホイールカバー/ センターキャップ装備車

■ ホイールカバー/ センターキャップの脱着方法

⚠注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての４つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

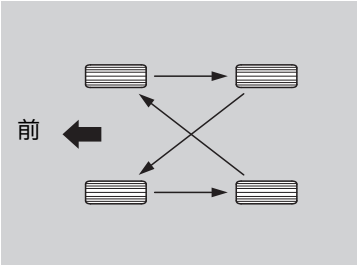
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

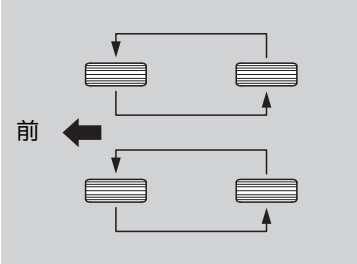
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

締め付けトルク
108 N・m(11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤの場合:
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合:
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

アドバイス

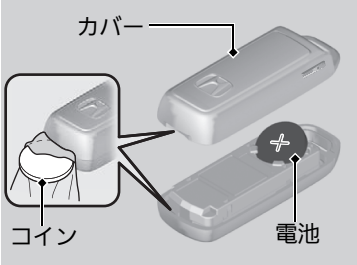
サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。



ボタン電池 CR1632

1. H マークを上にしてカバーを外す。
   ▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。
2. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

清掃

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

■ ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。
ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

アクセサリーと改造

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
  また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグ* の作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。
Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

車いす固定装置の点検

スロープ装備車

車いす固定装置の点検は、日常点検と定期点検があります。日常点検は使用状況に応じ、お客様の判断で適時行ってください。定期点検は、12 か月および 24 か月ごとに Honda 販売店に依頼してください。

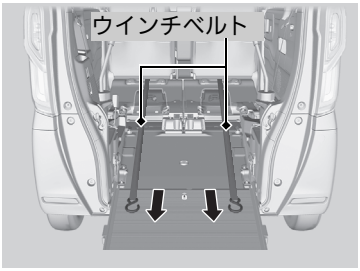
■ 点検項目

■作動のスムーズさ、異音の点検

リモコンの 電源 スイッチを押した後、 入 スイッチや 出 スイッチを押して装置がスムーズに作動するか、異音がないかを点検します。

➡ **電動ウインチのリモコンの使いかた** P.133

■ベルトの点検



ウインチベルトはベルトを引き出して点検してください。

以下の各ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどがあるときは交換してください。

- ウインチベルト
- 固定ベルト
- 車いす用シートベルト
- 非常用ベルト
- ストラップ

• ベルトが汚れた場合は、ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

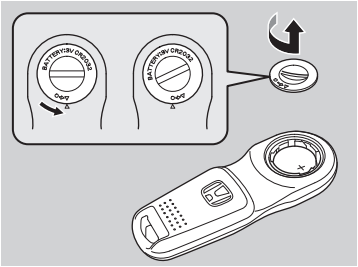
車いす固定装置の点検整備方式は、下表の通りです。

点検整備項目	点検時期		
	日常点検	12 か月ごと	24 か月ごと
作動のスムーズさ、異音	○	○	○
ウインチベルト、固定ベルト	○	○	○

部品の交換は、Honda 販売店に依頼してください。

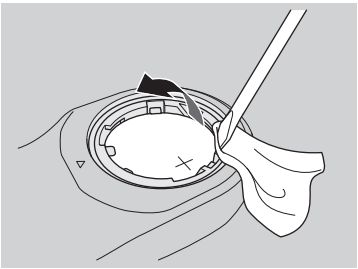
■ 電動ウインチリモコンの電池交換

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。電源 スイッチを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。



ボタン電池： CR2032

1. コインなどを使い、電池カバーを矢印の方向に回して外す。



2. 電池固定部の隙間にマイナスドライバーの先端を差し込み、電池を取り外す。
   ▶ ショートさせないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。
3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。
   ▶ 交換後、元のように電池カバーを取り付けます。

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電動ウインチリモコンをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

7 万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➡ **発炎筒** P.6

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

スロープ非装備車

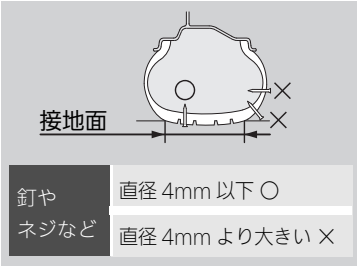
パンクしたタイヤの応急修理

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトレバーを P に入れる。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

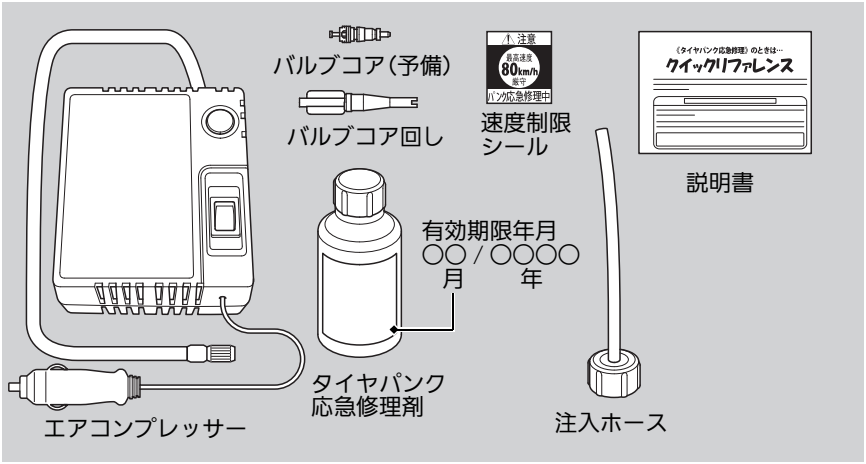
- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

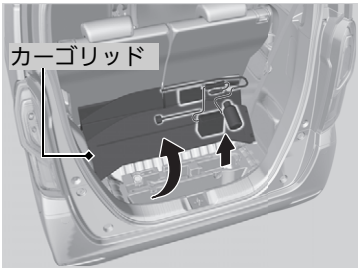


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■ タイヤ応急修理の準備

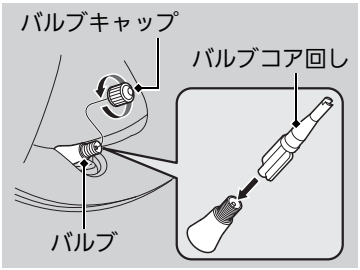




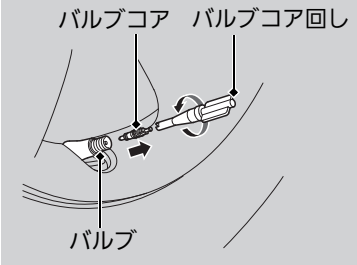
1. カーゴリッドを開けて、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
2. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

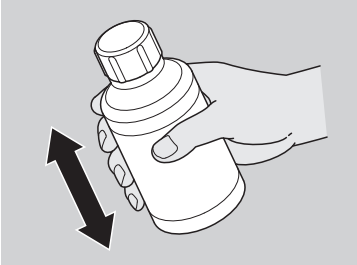
■ 応急修理剤の注入



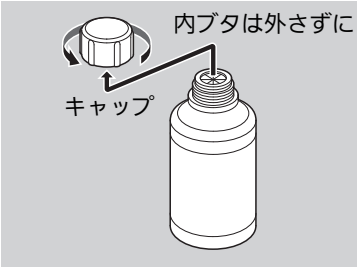
1. バルブからバルブキャップを取り外す。
2. バルブコア回しの突起部分をバルブに押し当てて、タイヤの空気を完全に抜く。



3. バルブコア回しで、バルブコアを回して外す。
   ▶ 外したバルブコアは、汚れないようきれいなところに保管します。



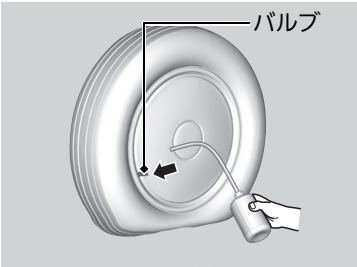
4. 応急修理剤のボトルをよく振る。



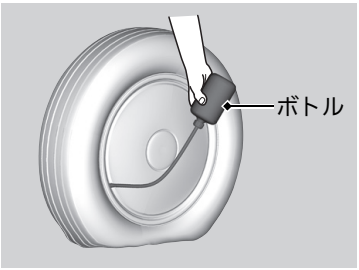
5. 応急修理剤のキャップを外す。
   ▶ 内ブタは取り外さないでください。



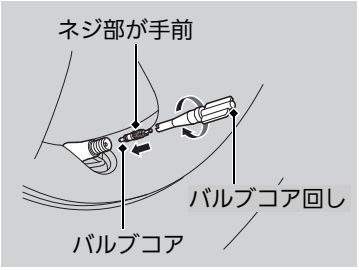
6. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態で、ボトルに注入ホースを取り付ける。
   ▶ 注入ホースをねじ込むと、内ブタが破れます。



7. 注入ホースをバルブに差し込む。



8. 応急修理剤のボトルを逆さまに持ち、ボトル内の修理剤を全てタイヤの中に注入する。
   ▶ 全ての修理剤がタイヤの中に入るよう、手でボトルを何回も圧迫してください。
9. 注入後、注入ホースをバルブから引き抜く。



10. バルブコアをバルブに取り付け、バルブコア回しで右に回し、しっかりねじ込む。

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

⚠注意

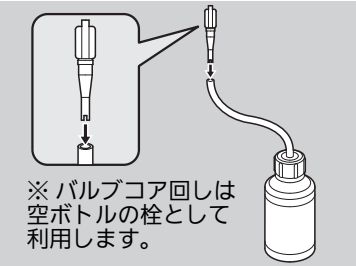
タイヤの空気は完全に抜く。
タイヤに空気が残っていると、バルブコアが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

注入ホースを取り付けたあと、応急修理剤のボトルを振らない。
修理剤が注入ホースから飛び出るおそれがあります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

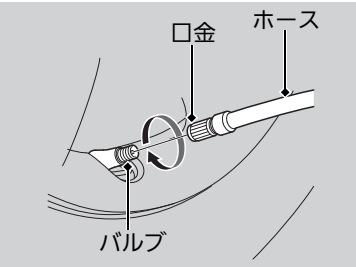
注入が終わった空ボトルから修理剤がもれないよう、バルブコア回しで注入ホースに栓をしてください。



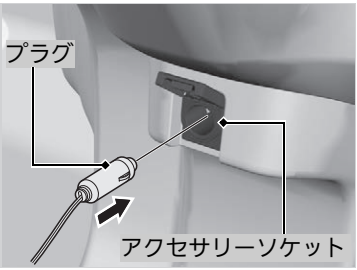
注入後の空ボトルは、タイヤ修理時に使用済み応急修理剤の回収に使用します。
捨てずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

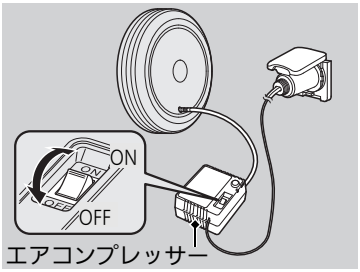
■ エアの注入



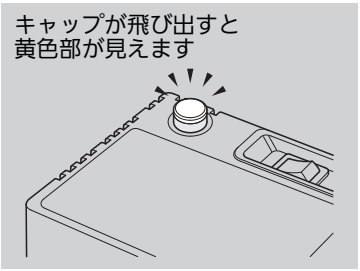
1. エアコンプレッサーを準備する。
2. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。



3. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P.131
4. エンジンを始動する。
   ➔ **一酸化炭素について** P.47



5. エアコンプレッサーのスイッチをONにして、空気を入れる。



6. エアコンプレッサーのキャップの飛び出しを確認する。
   ▶ 空気の注入が終了すると、キャップが飛び出し、「ピー」と鳴ります。
   ➡ **資料** P.299, 301
   ▶ キャップの黄色部が見えていることを確認します。
7. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。
8. タイヤパンク応急修理キットを格納する。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえます。

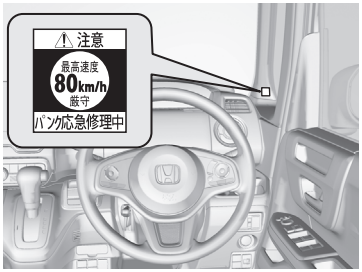
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

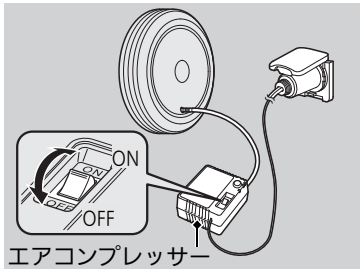
10 分以内にキャップが飛び出さない場合は、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

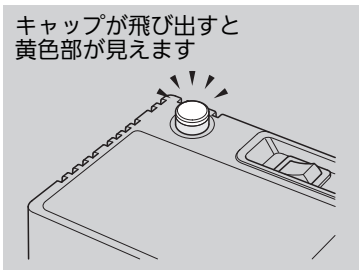
■ 点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
   ▶法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。



4. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。



5. エアコンプレッサーのスイッチを　ON　にして、キャップの飛び出しを確認する。
   ▶空気の注入が終了すると、キャップが飛び出し、「ピー」と鳴ります。
   ▶1　分以内にキャップが飛び出し、キャップの黄色部が現れれば、応急修理は完了です。
   ▶1　分以内にキャップが飛び出ない場合は、運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
6. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にして、格納する。
   ▶高速道路では 80km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

走行中異常を感じたら、ただちに運転を中止する。
応急修理剤での補修が不完全な場合、空気圧が低下して安定性を損なうおそれがあります。運転をやめ、Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

スロープ装備車

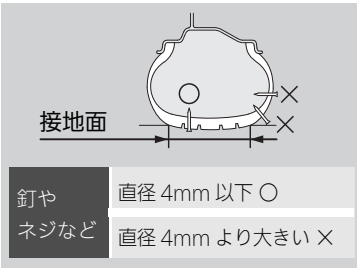
パンクしたタイヤの応急修理

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトレバーを P に入れる。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

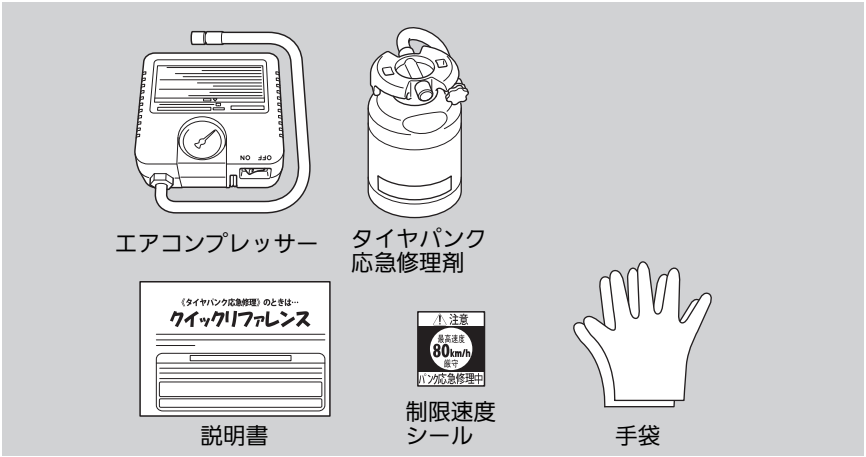
- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

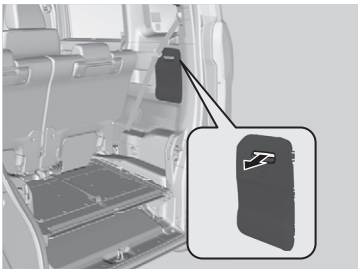


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■ タイヤ応急修理の準備

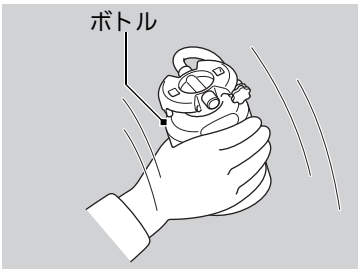




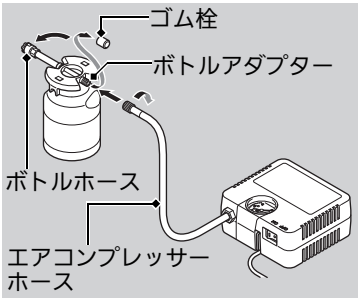
1. 運転席側のハンドレールを回転させる。
   車いすの乗せかた P.140
2. カーゴスペース運転席側のリッドを開ける。
3. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
4. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

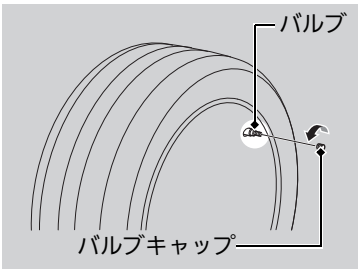
■ 応急修理剤とエアの注入



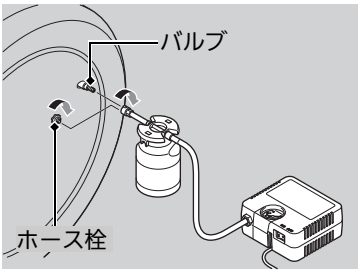
1. 応急修理剤のボトルをよく振る。
   ▶ 付属の手袋を着用して作業してください。



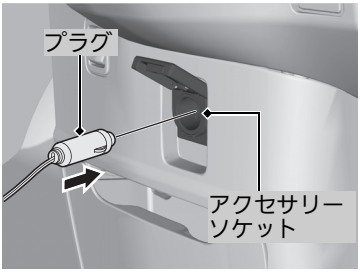
2. ボトルアダプターからゴム栓を外す。
3. ボトルホースを伸ばし、ボトルアダプターにエアコンプレッサーホースを確実に取り付ける。



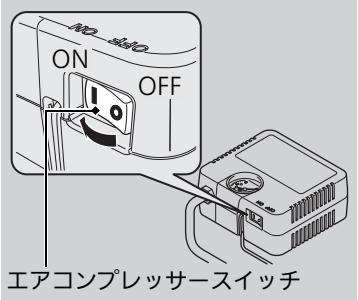
4. バルブからバルブキャップを取り外す。



5. ボトルホースからホース栓を外し、バルブにボトルホースを確実に取り付ける。
   ▶ 応急修理剤がすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。



6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P.131
7. エンジンを始動する。
   ➔ **一酸化炭素について** P.47



8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
   指定空気圧:
   前輪:240 kPa(2.4 kgf/cm^2)
   後輪:230 kPa(2.3 kgf/cm^2)
   ▶ コンプレッサーはタイヤに応急修理剤と空気を注入し始めます。
9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
   ▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
11. エンジンを停止する。
12. タイヤバルブからボトルホースを外しバルブキャップを取り付ける。

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。
ゴム栓とホース栓を外した後、ボトルを振らないでください。応急修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえます。

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

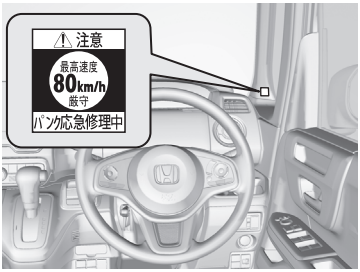
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。

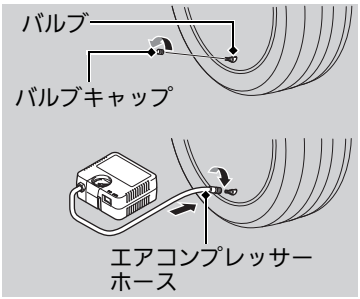
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

空きボトルはゴム栓とホース栓を元通りつけて、ゴム栓とホース栓の向きが下向きの状態で、リッド内の奥までしっかりと押し込んで収納してください。
タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

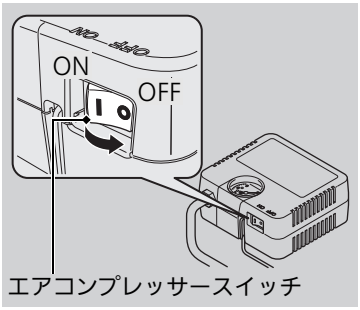
■ 点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
   ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。



4. バルブからバルブキャップを取り外す。
5. バルブにエアコンプレッサーホースを確実に取り付ける。



6. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。
   ▶ エアコンプレッサーの電源を ON にしないでください。
   - 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合:
     応急修理剤では修理はできません。
     運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
   - 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
     指定空気圧:
     前輪:240 kPa(2.4 kgf/cm²)

後輪：230 kPa（2.3 kgf/cm²）

- 空気圧が 130 kPa（1.3 kgf/cm²）以上、指定空気圧以下の場合はエアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高めてください。
  指定空気圧：
  前輪：240 kPa（2.4 kgf/cm²）
  後輪：230 kPa（2.3 kgf/cm²）
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 6 までを繰り返す。
- ▶ 高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

7. タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
8. キットをカーゴスペース右側に収納する。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

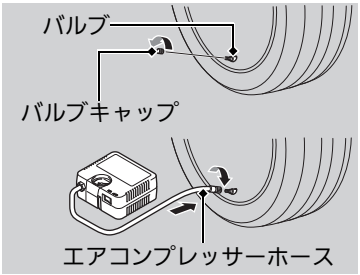
ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

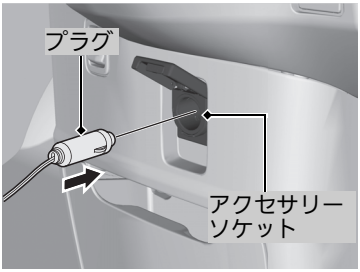
走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

■ タイヤ空気圧の補充

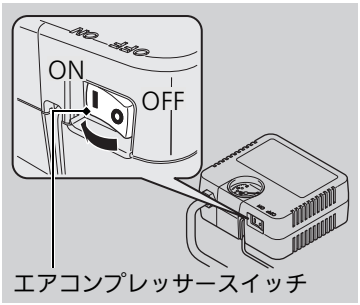
装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にエアコンプレッサーを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにエアコンプレッサーホースを確実に取り付ける。



5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P.131
6. エンジンを始動する。
   ➔ **一酸化炭素について** P.47



7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定空気圧まで高める。
   指定空気圧:
   前輪:240 kPa(2.4 kgf/cm^2)
   後輪:230 kPa(2.3 kgf/cm^2)
   ▶ コンプレッサーはタイヤに空気を注入し始めます。
8. エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
   ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
   ▶ 指定空気圧より高い場合は、エアコンプレッサーホースを緩めて減圧します。
9. エンジンを止め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
10. タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
11. エアコンプレッサーをカーゴスペース右側に収納する。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえます。

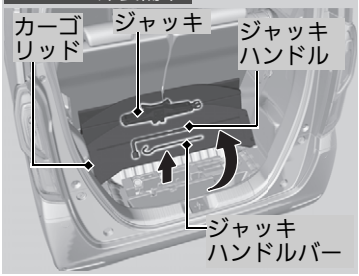
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

ジャッキのかけかた

スロープ非装備車

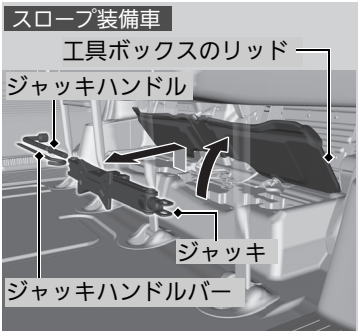


1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトレバーを[P]に入れる。
4. パワーモードを OFF モードにする。

スロープ非装備車

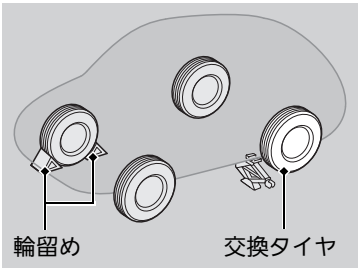
5. カーゴリッドを開けて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。

スロープ装備車



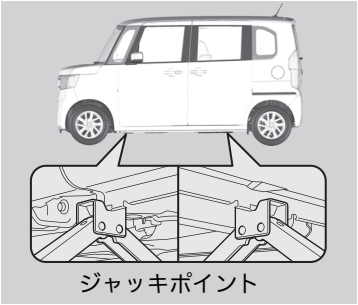
スロープ装備車

5. 工具ボックスのリッドを持ち上げて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。

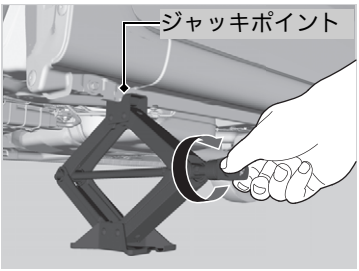


共通

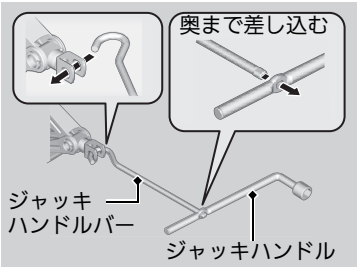
6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。



7. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。



8. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
   ▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



9. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

パワースライドドア装備車

⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、パワースライドドアのメインスイッチをOFFにする。
誤ってスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンが始動しない

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する** 「キーでスイッチに触れて下さい」のメッセージが表示されているとき ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.272 • エンジン始動の作動範囲を確認します。 ➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P.102 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.272 **室内灯などの明るさを確認する** 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 ➡ **ヒューズの点検と交換** P.282
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➡ **エンジンの始動** P.153 **イモビライザーシステム表示灯を確認する** イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ➡ **イモビライザーシステム** P.98 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 ➡**燃料計** P.80 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 ➡**ヒューズの点検と交換** P.282

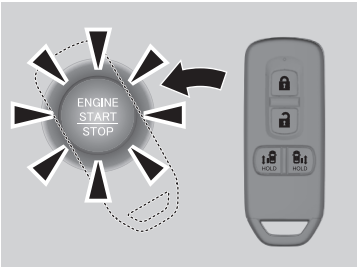
以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

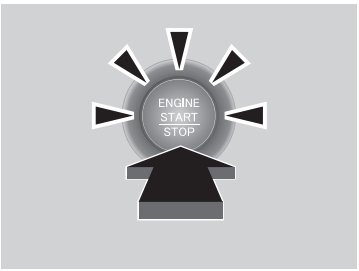
➡ **ジャンプスタートの方法** P.273

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. ENGINE START/STOP を押す。
   ▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約30秒間点滅します。
2. ENGINE START/STOP が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
   ▶「ピッ」とブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約 10 秒間点灯します。



3. ENGINE START/STOP が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、ENGINE START/STOP を押す。
   ▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換については下記ページを参照ください。
➡ **Honda スマートキーの取り扱いと電池交換** P.245

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP スイッチは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。
エンジンを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください:

- ENGINE START/STOP を約 2 秒以上押す
- ENGINE START/STOP を連続して 3 回押す

このときハンドルはロックはしません。

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください:
1. シフトレバーを P に入れる
2. ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回連続して押す

緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。
走行中に ENGINE START/STOP を押すとブザーが鳴ります。

バッテリーがあがったとき

ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

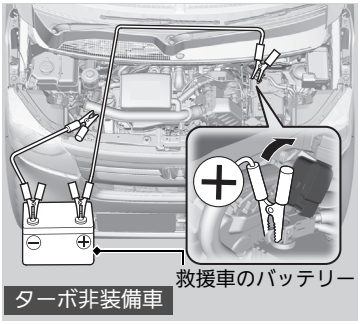
寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

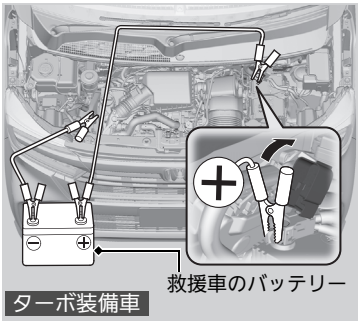
■ 処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。

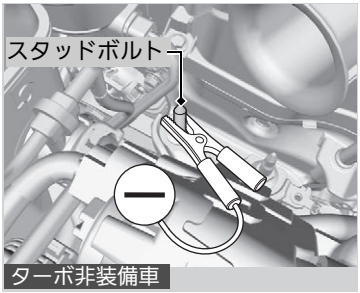


ターボ非装備車

1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モード / エンジンスイッチを 0 にする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
   ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。

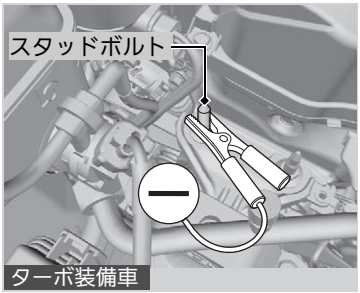


ターボ装備車



ターボ非装備車

4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。



ターボ装備車

■ エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

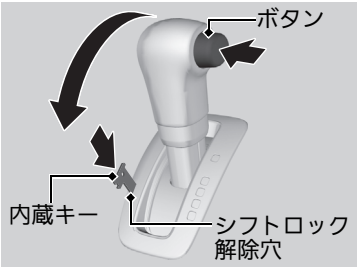
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

シフトレバーが動かない

シフトレバーが、[P]の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
4. キーを押しながらシフトレバーのボタンを押し、シフトレバーを[N]に入れる。
   ▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒート

オーバーヒートしたときの対処方法

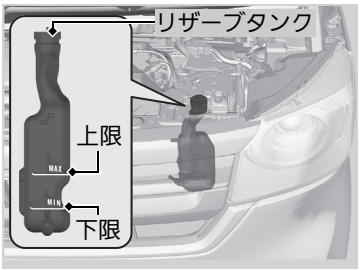
次のようなときは、オーバーヒートです。

- エンジンの力が急に落ちる
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温:安全な場所に車両を停車してください」とメッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
   ▶ パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れます。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
   ▶ **蒸気が出ていない場合:** エンジンをかけたままボンネットを開ける。
   ▶ **蒸気が出ている場合:** エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温:安全な場所に車両を停車してください」のメッセージが表示されなくなったらエンジンを停止する。
   ▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
   ▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し、「エンジン冷却水高温:安全な場所に車両を停車してください」のメッセージを確認する。メッセージが消えた場合は、運転を再開します。消えないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

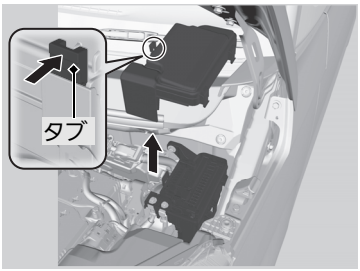
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温：安全な場所に車両を停車してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■ エンジンルーム内のヒューズボックス



エンジンルーム内の助手席側に付いているバッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ヒューズボックス メイン 2	40A
		DC/DC 2	30A
		ABS/VSA FSR	40A
		EPS	40A
		DC/DC 1	30A
		ABS/VSA モーター	40A
		MAIN	100A
2		ヒューズボックス メイン 1	60A
		IG MAIN	50A
3	—	—	—※1
		W/CHAIR VMP 1	40A※2
4	—	—	—※1
		W/CHAIR VMP 2	40A※2
5		ホーン・制動灯	10A
6	RR L	助手席側 パワースライドドア✤	(30A)
7	—	—	—
8	RR R	運転席側 パワースライドドア✤	(30A)
9		非常点滅表示灯	10A
10		フォグライト✤	(7.5A)
11	—	—	—
12	—	—	—
13		バックアップ (VST)	15A
14	—	—	—※1
		サブヒューズ ボックスメイン	30A※2
15		スターター	30A
16		冷却ファン	30A
17		ワイパー	20A
18		MG クラッチ	7.5A
19	—	—	—※3
		VBACT	10A※4
20		LAF	7.5A
21	LED	LCM L	10A
22	RED	LCM R	10A
23		ドライブバイワイヤ	15A※3 20A※4
24		スモールライト	10A
25		IG COIL	15A
26		IGP	15A
27	—	—	—
28	—	—	—

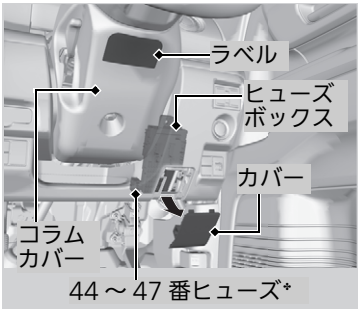
※1: スロープ非装備車
※2: スロープ装備車
※3: ターボ非装備車
※4: ターボ装備車

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 室内のヒューズボックス



ハンドル右側カバーの奥にあります。
カバーを引いて開けてください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ヒーターモーター	30A
2	—	—	—
3		ウォッシャー	10A
4	—	—	—
5	RR	運転席側リヤパワーウィンドー	15A
6	RR	助手席側リヤパワーウィンドー	15A
7	AS	助手席パワーウィンドー	15A
8		オーディオ (VST)*	10A
9		USB CHARGE*	(7.5A)
10	—	—	—
11		E-LATCH	7.5A
12	—	—	—
13		VSA(VST)	5A
14		アクセサリーソケット	20A
15		アクセサリー	5A
16		Honda スマートキーシステム	10A
17		室内灯	7.5A
18	DR	運転席パワーウィンドー	20A
19		リヤデフロスター	20A
20		SRS エアバッグシステム	10A
21		リヤワイパー	10A
22		後退灯	5A
23		シートヒーター*	(10A)
24	—	—	—
25		ヒーテッドドアミラー*	(10A)
26		電動ドアミラー	7.5A
27		エアコン	5A

	表示	装備	容量
28	R	運転席側イージードアクローザー*	(20A)
29	L	助手席側イージードアクローザー*	(20A)
30		ドアロックモーター1(アンロック)	15A
31	—	—	—
32		ドアロックモーター2(アンロック)	15A
33		ドアロックモーター2(ロック)	15A
34		ドアロックモーター1(ロック)	15A
35		メーター(VST)	7.5A
36		ACC(VST)	5A
37		フューエルポンプ	15A
38		スターターカットコイル	5A
39		FI(EM)	10A
40		フロントワイパー	5A
41		メーター	7.5A
42		VSA CNTL(VST)	5A
43		バックアップ 2	10A
44	—	—	—※1
		リヤアクセサリーソケット	20A※2
45	—	—	—※1
		W/CHAIR VMP 3	10A※2
46	—	—	—※1
		W/CHAIR VMP 4	7.5A※2
47	—	—	—

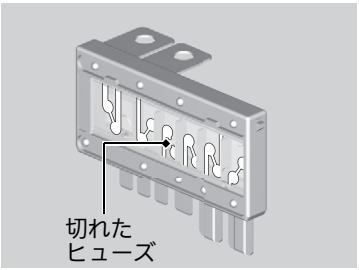
※1: スロープ非装備車
※2: スロープ装備車

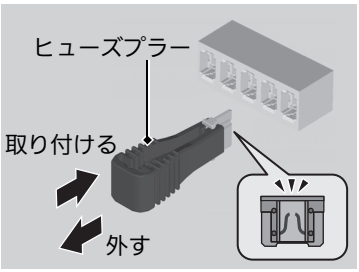
コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ヒューズの点検と交換





1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. エンジンルーム内のヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

各ヒューズの装備と容量 P.279, 281

けん引

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げてけん引してください。

パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。
パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.212

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
車体が破損、変形する場合があります。

アドバイス

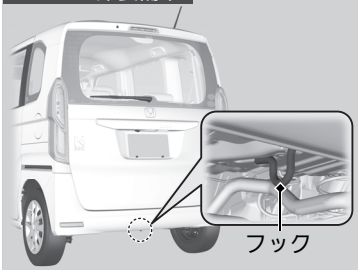
エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ハンドルがロックしていないか確認する
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- 無段変速オートマチック車は、トランスミッションが破損するおそれがある

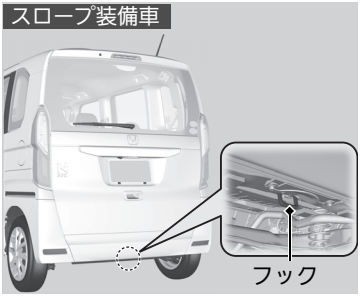
長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

スロープ非装備車



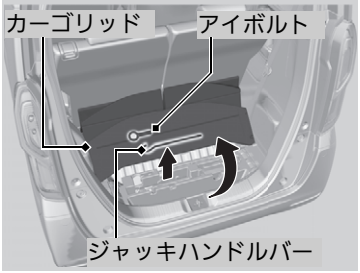
スロープ装備車



■ やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。

スロープ非装備車

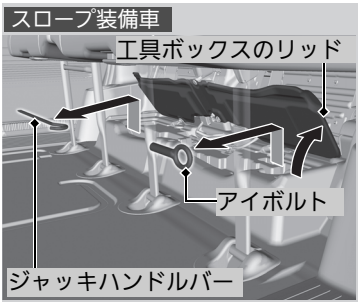


1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード（オイル）などが漏れていないことを確認する。
   ▶ 異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。

スロープ非装備車

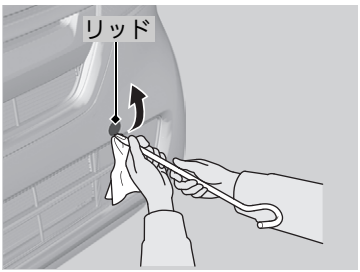
2. カーゴリッドを開けて、ジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。

スロープ装備車



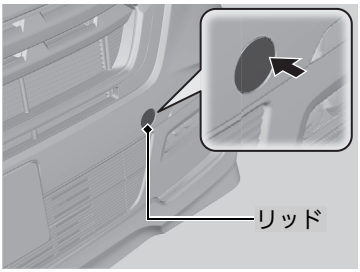
スロープ装備車

2. 工具ボックスのリッドを持ち上げて、ジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。



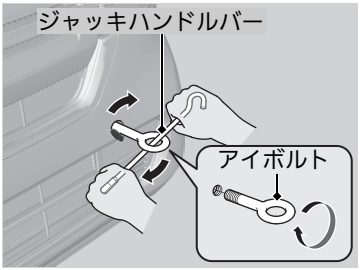
N-BOX

3. ジャッキハンドルバーの先でリッドを開ける。
   ▶ バンパーが傷つかないよう、ジャッキハンドルバーの先に布などを巻き付けてください。



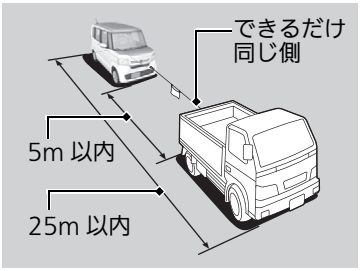
N-BOX Custom

3. リッドの右側を押し込んで外す。



共通

4. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。
5. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。
6. エンジンをかけてシフトレバーを D にし、約 5 秒間保持する。
   ▶ エンジンが始動しないときは、パワーモードをアクセサリーモードまたは ON モードにします。
7. シフトレバーを N にする。
8. パーキングブレーキを解除する。
9. 速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引する。
   ▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。



フューエルリッドが解錠できないとき

■ 解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。

1. テールゲートを開ける。

スロープ非装備車

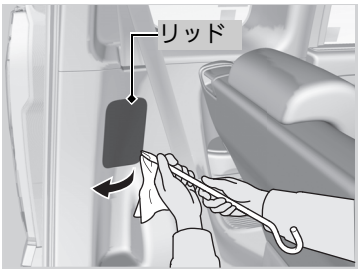
2. 助手席側のリヤシートを前方いっぱいに動かす。

➡ **リヤシートの調節** P.119

スロープ装備車

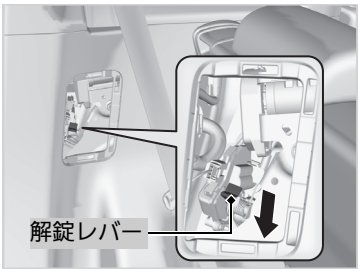
2. 助手席側のハンドレールを回転させる。

➡ **車いすの乗せかた** P.140



共通

3. ジャッキハンドルバーの先でカーゴスペース助手席側にあるリッドを開ける。
   ▶ リッドが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーの先に布などを巻き付けてください。



4. 解錠レバーを下げる。
   ▶ 解錠レバーを下げるとフューエルリッドが解錠されます。
5. フューエルリッドを開ける。

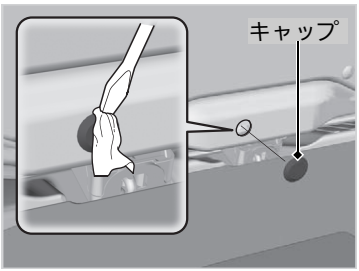
➡ **給油のしかた** P.224

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

テールゲートが開かないとき

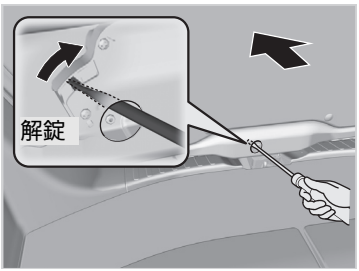
■ 開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。

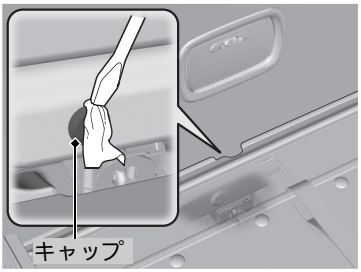


スロープ非装備車

1. テールゲートのキャップに、マイナスドライバーの先端を差し込み、取り外す。
   ▶ キャップが傷付かないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。

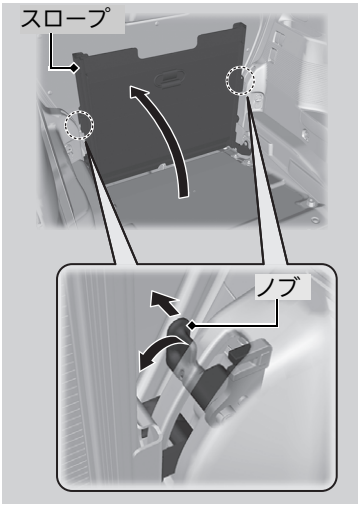


2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

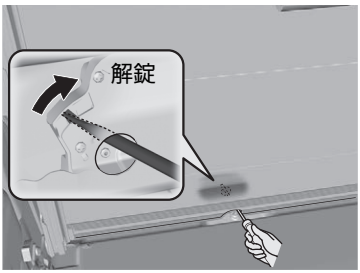


スロープ装備車

1. スロープが室内側に格納された状態で、テールゲートのキャップに、細長いマイナスドライバーの先端を差し込み、取り外す。
   ▶ キャップが傷付かないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。



2. スロープをゆっくりと持ち上げて、ノブを引き、左右のスロープロックを回転させて固定する。
   ▶ スロープは確実に固定してください。
   ▶ ノブの穴が赤くなっていないことを確認してください。
   ➔ **スロープの扱いかた** P.135



3. スロープの切欠きから、マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

スロープ装備車

⚠注意

スロープは確実にスロープロックで固定する。
スロープロックが確実に固定されていない状態でテールゲートを開けると、スロープが車外に倒れて人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

ウインチベルトが作動しないとき

スロープ装備車

ウインチベルトが作動しないときは、車のバッテリーを点検してください。
バッテリーがあがっていないときは、パワーモードをOFFモードにして、ヒューズが切れていないか確認します。

➔ **ヒューズの設置場所** P.278

ウインチベルトが作動しないときは以下のことが考えられます。

ブザー	表示灯		状態	確認内容
	主電源	ベルトフリー		
ピーピーピー(3 回吹鳴)	交互に点滅		ウインチの部品が故障しているとき	販売店で点検してください。
ピーピーピー(3 回吹鳴)	点滅	消灯	車両のバッテリー電圧が低下しているとき	バッテリーを点検してください。バッテリーに問題が無い場合は、販売店で点検してください。
			ウインチ動作中にエンジンを掛けたとき	リモコンの電源を再度 ON してください。その後、入 または 出 スイッチを押してください。
ピーピーピー(3 回吹鳴)	点灯	消灯	リモコンの通信状況が悪かったとき	• リモコンの電源を再度 ON してください。 その後、入 または 出 スイッチを押してください。 • 何度も同様な事象が発生する場合は、リモコンの電池が消耗している可能性があります。 • 電池を交換しても改善しない場合は、販売店で点検してください。
			ウインチベルトにかかる負荷が大きいとき	• 傾斜地であれば、平坦な路面で使用してください。 • ウインチベルト、車いす付近に引掛りが無いか確認し、異物がある場合は取り除いてください。 • 被介護者と車いす合わせて 120kg を超えている場合はウインチ性能を満足できません。 上記以外で何度も同様な事象が発生する場合は、販売店で点検を受けてください。

車のバッテリーを再接続したときやヒューズを交換したときに ベルトフリー スイッチが使えないことがあります。

➡ **ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき** P.293

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換した後、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量の予備ヒューズと交換してください。

リモコンの電波状態、車両のバッテリーの状態やウインチに異常があると作動が停止することがあります。

■ リモコンの操作途中でウインチが止まったとき

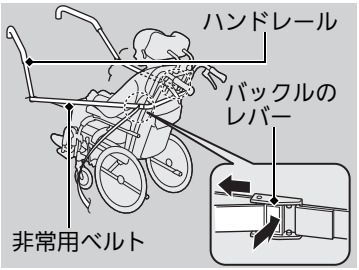
「ピーピーピー」と 3 回音がしてウインチが停止したときは、以下の手順に従って操作してください。

1. リモコンの 電源 スイッチを押し直す。
   ▶ リモコンのインジケーターが赤く点灯していても押してください。
2. 再度 出 または 入 スイッチを押す。
   ▶ ウインチが作動しない場合は、装置の故障が考えられます。
   非常用ベルトを使って車いすを車外に降ろしてください。

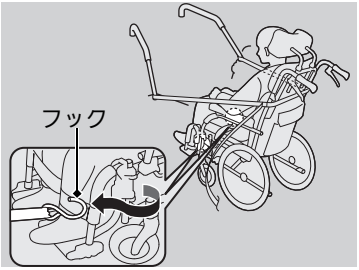
➡ **乗降の途中で停止したとき** P.292

■ 乗降の途中で停止したとき

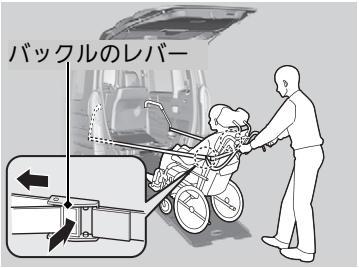
リモコンを紛失した場合や電池が切れた場合、乗降の途中で停止した場合は、非常用ベルトを使って車いすを車外へ降ろしてください。Honda 販売店にご連絡ください。



1. 車いすのブレーキをかける。
2. 主電源 スイッチを押して OFF にする。
3. 非常用ベルトをハンドレールに通し、車いすの背もたれ付近にかける。
4. 非常用ベルトの左右のバックルのレバーを押してベルトを調整し車いすを固定する。
5. 車いすのブレーキを解除する。
6. 左右交互にバックルのレバーを押し、ベルトを少しゆるめる。



7. 車いすを少し前に動かしてウインチベルトのフックを車いすから取り外し、車いすを支える。
   ▶ ウインチベルトを取り外した後は、速やかに車いすを支えてください。



8. 車いすを支えながら、非常用ベルトの左右のバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめながら車いすを降ろす。
   ▶ ベルトの開け閉めを繰り返し行い、ゆっくりと降車させてください。
9. 車いすがスロープから完全に降りていることを確認し、車いすのブレーキを両輪ともかける。
10. 非常用ベルトを取り外す。

⚠注意

装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

車いすのかたを降車させることができなくなった場合は、備え付けの非常用ベルトで車いすを固定後、ウインチのフックを外し、十分に注意しながら降車させる。

■ ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき

■ベルトフリースイッチの表示灯が点灯し、「ピッピッ･･･ピッピッ･･･」と音が続いているとき

以下の手順にしたがって操作してください。

1. リモコンの 電源 スイッチを押しインジケーターが点灯後、出 スイッチを押しながらウインチベルトを少し引き出す。
2. ベルトフリー スイッチを押してベルトを引き出す。

■ベルトフリースイッチの表示灯が点滅し、「ピッピッ･･･ピッピッ･･･」と音が続かないとき

以下の手順にしたがって操作してください。

1. ウインチベルトを一度収納する。
2. リモコンの 電源 スイッチを押しインジケーターが点灯後、出 スイッチを押しながらベルトをすべて引き出す。
3. リモコンを使わずに、ゆっくりとベルトを巻き取らせる。
   ▶ ベルトフリー スイッチを押してベルトが引き出せるようになります。

上記の操作を行ってもベルトを引き出すことができない場合は、装置の故障が考えられますので、Honda 販売店にご連絡ください。

⚠注意

装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

ウインチベルトを収納するときは、リモコンを使わずに収納してください。

リモコンを使うと、電動ウインチシステムが、車いすが乗っていると認識し、
ベルトフリー スイッチを押してもベルトが引き出せなくなります。

ベルトフリー スイッチの表示灯が点滅するのは以下の場合です。

- リモコンを使ってウインチベルトを収納したとき
- リモコンを使用せずに車いすを降ろしたとき

■ 車内に固定された状態で停止したとき

すみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対に車いすを乗せないでください。

■車いす乗車の方のみ車外に降ろすときには

万が一、車いすが固定された状態で停止し、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方のみ降ろしてください。

1. スライドドアを全開にする。
   ▶車いす乗車の方を車外へ降ろすときは、車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にします。
   ➔ **スライドドア** P.94
2. 車いす乗車の方を降ろす。

⚠注意

装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない**

A
- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。

Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードにならない**

A
- シフトレバーが P 以外の位置になっていませんか？

Q **ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した**

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➡ ABS（アンチロックブレーキシステム）（P. 218）

Q **後席ドアが車内から開けられない**

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのツマミを解錠の位置にしてください。

Q **ドアを解錠したはずなのに施錠されている**

A
- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

- パワーモードを OFF モード以外にしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けていませんか？

ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

- ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

➡ **施錠するには（降車時オートドアロック機能）**（P. 90）

走行するとブザーが鳴る

- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

- ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない

- 運転席シートベルトを着用していますか？
- シフトポジションが P 、N 以外になっていますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A

- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか?

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

9 資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様:N-BOX

■仕様

名称	N-BOX
排気量	658cm^3
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	スロープ非装備車 4名 スロープ装備車 3名※1 4名※2

※1： 車いすご利用の方が乗車される場合(車いすご利用の方も含む)
※2： 車いすご利用の方が乗車されない場合

■点火プラグ

NGK	DILMAR7A11S※1 ILMAR8D8S※2

※1： ターボ非装備車
※2： ターボ装備車

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	3.5-10.2mm
	床板とのすき間	139mm以上 { 約196N(20kgf)の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	128.6mm以上 { 約196N(20kgf)の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	27L※1 25L※2

※1： 2WD車
※2： 4WD車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量/タイプ	32AH(5), 40AH(20)/M-42R※1

※1： アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5L

■電球

ヘッドライト(ハイ/ロービーム)	LED
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯/尾灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯/マップランプ	12V-8W
カーゴスペース照明灯	12V-8W
スロープライト*	12V-8W

■デファレンシャルオイル

4WD車のみ

指定液	Honda純正ウルトラHGO-μ
規定量	0.33L(交換時)

■トランスファーフルード

4WD車のみ

指定液	Honda純正ウルトラDPSF-II
規定量	0.43L(交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda純正ブレーキフルード DOT3またはDOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda純正ウルトラHCF-2	2.5L※1(交換時) 2.55L※2(交換時)

※1： 2WD車
※2： 4WD車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■エンジンオイル

ターボ非装備車

推奨	ULTRA NEXT※1 ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN 以上 SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

ターボ装備車

推奨	ULTRA LEO※1	API SN 以上 SAE 0W-20
	ULTRA LTD	API SN 以上 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.81L（交換時：リザーブタンク 0.31L 含む）

■タイヤ

サイズ	155/65R14 75S	
空気圧 kPa（kgf/cm²）	前輪	240（2.4）
	後輪	230（2.3）
リムサイズ	14×4 1/2J	

■スロープ スロープ装備車

耐荷重 200kg

■ウインチ スロープ装備車

最大引上げ重量 120kg

■最大積載時の車輌重量（車輌重量＋乗車定員＋荷物） スロープ装備車

2WD 車：1234kg
4WD 車：1304kg

■最大積載量 スロープ装備車

140kg（2 名乗車時）

目安ですので、最大積載時の車輌重量を超えないでください。

仕様:N-BOX Custom

■仕様

名称	N-BOX Custom
排気量	658cm³
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	スロープ非装備車 4名 スロープ装備車 3名※1 4名※2

※1： 車いすご利用の方が乗車される場合(車いすご利用の方も含む)
※2： 車いすご利用の方が乗車されない場合

■点火プラグ

NGK	DILMAR7A11S※1 ILMAR8D8S※2

※1： ターボ非装備車
※2： ターボ装備車

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	3.5-10.2mm
	床板とのすき間	139mm以上 { 約196N(20kgf)の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	128.6mm以上 { 約196N(20kgf)の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	27L※1 25L※2

※1： 2WD車
※2： 4WD車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量/タイプ	32AH(5), 40AH(20)/M-42R※1

※1： アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5L

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	LED
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯	LED
フォグライト	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯/尾灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯/マップランプ	LED
カーゴスペース照明灯	LED
ドリンクホルダーランプ	LED
前席フットランプ	LED
フロントトレイライト	LED
スロープライト*	LED

■デファレンシャルオイル

4WD車のみ

指定液	Honda純正ウルトラHGO-μ
規定量	0.33L(交換時)

■トランスファーフルード

4WD車のみ

指定液	Honda純正ウルトラDPSF-II
規定量	0.43L(交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda純正ブレーキフルード DOT3またはDOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda純正ウルトラHCF-2	2.5L※1(交換時) 2.55L※2(交換時)

※1： 2WD車
※2： 4WD車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■エンジンオイル

ターボ非装備車

推奨	ULTRA NEXT※1 ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN 以上 SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

ターボ装備車

推奨	ULTRA LEO※1	API SN 以上 SAE 0W-20
	ULTRA LTD	API SN 以上 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.81L（交換時：リザーブタンク 0.31L 含む）

■タイヤ

サイズ※1	155/65R14 75S	
	165/55R15 75V	
空気圧 kPa（kgf/cm²）	前輪	240（2.4）※2
		220（2.2）※3
	後輪	230（2.3）※2
		220（2.2）※3
リムサイズ	14×4 1/2J※2 15×4 1/2J※3	

※1： タイヤの指定サイズは、運転席横の車体に貼ってあるラベルをご覧ください。
※2： 155/65R14 75S タイヤ装備車
※3： 165/55R15 75V タイヤ装備車

■スロープ スロープ装備車

耐荷重 200kg

■ウインチ スロープ装備車

最大引上げ重量 120kg

■最大積載時の車輌重量（車輌重量＋乗車定員＋荷物） スロープ装備車

2WD 車：1234kg
4WD 車：1304kg

■最大積載量 スロープ装備車

140kg（2 名乗車時）

目安ですので、最大積載時の車輌重量を超えないでください。

索引

数字

4WD(四輪駆動機構) 162
7 速マニュアルシフトモード 158
シフトインジケーター/M
(7 速マニュアルシフトモード)
表示灯 65, 157

A

ABS
(アンチロックブレーキシステム) ... 218
ABS(アンチロックブレーキシステム)
ABS 警告灯 58
A/C(エアコン) 148

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 165
衝突軽減ブレーキ(CMBS)
警告灯 59

E

ECON スイッチ 159
ECON モード表示灯 65
ENGINE START/STOP
スイッチ 5, 102
EPS(電動パワーステアリング)システム
警告灯 60

H

Honda スマートキー 87
ENGINE START/STOP
スイッチ 5, 102
緊急時のエンジン停止方法 272
電池交換のしかた 245

I

ISOFIX/i-Size 41

L

LKAS(車線維持支援システム) 192
車線維持支援システム(LKAS)
警告灯 57
車線維持支援システム(LKAS)
表示灯 65

M

M(7 速マニュアルシフトモード)
表示灯 65, 157

P

PGM-FI 警告灯 55

S

SRS エアバッグ 23
エアバッグシステム警告灯 28, 58

T

TRIP スイッチ 82

U

USB ジャック 131

V

VSA
(ビークルスタビリティアシスト) 160
VSA OFF 警告灯 58, 161
VSA 警告灯 58, 161

W

W(ワット数) 298, 300

あ

アームレスト 127
アイドリングストップシステム 159
　アイドリングストップシステム
　　警告灯 60
　アイドリングストップ表示灯
　　（グリーン） 65, 159
アイボルト 286
アクセサリー 247
アクセサリー
　ソケット 131, 255, 261, 266
安全なドライブのために 14
安全に関する表示 2
安全のための確認事項 14
アンチロックブレーキシステム
　（ABS） 218
　ABS 警告灯 58
アンテナ
　マイクロアンテナ 150
アンビエントメーター 83

い

イージードアクローザー 97
一酸化炭素の危険性 47
イモビライザーシステム 98
　表示灯 64
イルミネーションコントロール 110
インフォメーションスイッチ 81
インフォメーション表示灯 63

う

ウィンカースイッチ(方向指示器)
　方向指示器表示灯 62
ウインチベルト 141
ウィンドウォッシャー
　ウィンドウォッシャー液の補給 233
ウィンドーの開閉 100
運転
　エンジンの始動 153
　シフト操作 156
　ブレーキ操作 212
運転席アッパーボックス 128

え

エアクリーナーエレメント 298, 300
エアコン 148
　エアコンの使いかた 149
　モード切り換えスイッチ 149
エアバッグ 23
　SRS エアバッグ 23
　エアバッグシステム警告灯 28, 58
　エアバッグのお手入れ 29
　サイドエアバッグ 25
　サイドカーテンエアバッグ 27
エコアシストシステム 83
　アンビエントメーター 83
エマージェンシーストップシグナル 219
エンジンオイル 233
　推奨エンジンオイル 233, 299, 301
エンジンスイッチ 102
エンジンの始動 153
　エンジンが始動しない 271
　バッテリーがあがったとき 273
エンジンルーム内のメンテナンス 231
　ウィンドウォッシャー液の補給 233
　エンジンルーム内の
　　メンテナンス項目 231
　推奨エンジンオイル 233, 299, 301
　ボンネットを開ける 232
　冷却水の点検と補給 277
エンジン冷却水 277, 299, 301

お

オイルメンテナンス表示 229
応急修理剤(タイヤパンク) 251, 259
オーディオ装置 150
オートエアコン 149
オートドアロック /
　オートドアアンロック 92
オートハイビーム 105
　オートハイビーム表示灯 66
オートマチックブレーキホールド 215
　オートマチックブレーキホールド
　システム表示灯 66
　オートマチックブレーキホールド
　表示灯 66
オーバーヒート 277

か

鍵(かぎ) 86
ガソリン 224, 298, 300
下部取付金具 41

き

キー
　Honda スマートキー 86, 87
　Honda スマートキーの電池が
　切れたとき 272
　キーレスエントリー 91
　キーレスエントリーでドアが
　開かない 295
　後席ドアが開かない 295
　電池交換のしかた 245
　内蔵キー 86
キーレスエントリー 91
　電池交換のしかた 245
給油 224
　給油のしかた 224
　指定燃料 224, 298, 300
　燃料計 80
　燃料残量警告灯 57

く

空気圧 299, 301
空気圧測定器による点検 241
グラブレール 7
車いす固定装置の点検 248
車いすの降ろしかた 145
車いすの乗せかた 140
車の改造 247
グローブボックス 128

け

計器 52
警告灯 53
　ABS(アンチロックブレーキシステム)
　警告灯 58
　EPS(電動パワーステアリング)
　システム警告灯 60
　PGM-FI 警告灯 55
　VSA OFF 警告灯 58, 161
　VSA(ビークルスタビリティアシスト)
　警告灯 58, 161
　アイドリングストップシステム警告灯
　(オレンジ) 60
　エアバッグシステム警告灯 28, 58
　シートベルト非着用警告灯 56
　車線維持支援システム(LKAS)警告灯
　(オレンジ) 57
　渋滞追従機能付アダプティブクルーズ
　コントロール(ACC)警告灯
　(オレンジ) 57
　充電警告灯 55
　衝突軽減ブレーキ(CMBS)
　警告灯 59
　トランスミッション警告灯 56
　燃料残量警告灯 57
　ブレーキ警告灯(レッド) 53
　ブレーキシステム警告灯
　(オレンジ) 54
　リヤシートベルト非着用警告灯 56

路外逸脱抑制機能警告灯 61
けん引 283

こ

交換
後退灯電球 235
後面方向指示器 /
後面非常点滅表示灯電球 235
車幅灯電球 234
制動灯 / 尾灯電球 234
前面方向指示器 /
前面非常点滅表示灯電球 234
側面方向指示器 /
側面非常点滅表示灯電球 234
ハイマウントストップランプ
電球 236
番号灯電球 236
フォグライト電球 234
ヘッドライト電球 234
ワイパーブレードラバー 237, 239
後退灯 235
後方誤発進抑制機能 173
後方視角支援ミラー 115
後面方向指示器 /
後面非常点滅表示灯 235
固定ベルト 135
誤発進抑制機能 171
コンビニフック 130

さ

サイドアンダーミラー 114
サイドエアバッグ 25
サイドカーテンエアバッグ 27
サイドビューサポートミラー 113
サンバイザー 7

し

シートの調節 116
アームレスト 127
フロントシート 116
ヘッドレスト 125
リヤシート 119
シートヒーター 132
シートベルト 15
シートベルトのアンカーポイント 21
シートベルトの着用 17, 48
シートベルトの点検 20
シートベルト非着用警告灯 56
シートベルトプリテンショナー 16
シートベルトリマインダー 16
妊娠中のかたの
シートベルトの着用のしかた 19
リヤシートベルト非着用警告灯 56
リヤシートベルトリマインダー 16
室内灯 128
シフトインジケーター/M(7 速マニュアル
シフトモード)表示灯 65, 157
シフトスイッチ 158
シフト操作 156
シフトポジション
シフトポジション表示灯 65, 157
シフトレバー
シフトレバーが動かない 276
シフトレバーの操作 157
車線維持支援システム(LKAS) 192
車線維持支援システム(LKAS)
警告灯 57
車線維持支援システム(LKAS)
表示灯 65
ジャッキ 268
ジャッキハンドル
(ホイールナットレンチ) 269
ジャッキハンドルバー 269
車幅灯 234
車両データの記録について 2

ジャンプスタート 273
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) 180
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ) 57
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(グリーン) 64
充電警告灯 55
仕様 298, 300
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 165

す

スイッチ操作
ECON スイッチ 159
ENGINE START/STOP スイッチ 102
イルミネーションコントロール 110
ステアリング 111
パーキングブレーキスイッチ 213
ヘッドライトレベリングダイヤル 104
リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラースイッチ 110
ワイパー/ ウォッシャー 108
スイッチと表示 164
ステアリング 111
ステアリングスイッチ 164
スノータイヤ 244
スパークプラグ 298, 300
スライドドアウィンドウサンシェード 132
スライドドアの開閉 94
スライドボード 119

せ

清掃 246
制動灯 234
セキュリティシステム 98
イモビライザーシステム 98
セキュリティアラームシステム 98
先行車発進お知らせ機能 202
センターボックス 128
前面方向指示器 /前面非常点滅表示灯 234

そ

側面方向指示器 /側面非常点滅表示灯 234
ソナーセンサー 210

た

ターボ車 226
タイダウンフック 131
タイヤ 241
指定空気圧 299, 301
タイヤの点検 241
タイヤのローテーション 243
タイヤパンク応急修理キット 251, 259
冬期のタイヤ 244
パンク 251, 259
タイヤ角度モニター 83
タイヤチェーン 244
タコメーター 80

ち

チェーン 244
チャイルドシート 30
ジュニアシート 45
乳児のチャイルドシート 31
幼児のチャイルドシート 32
チャイルドプルーフ 92

駐停車操作 220

て

低水温表示灯 62
データの取り扱いについて 3
テールゲートの開閉 93
　テールゲートが開かないとき 288
デフロスター
　リヤデフロスタースイッチ 110
点火プラグ 298, 300
電子制御パーキングブレーキ 212
電子制御ブレーキアシスト 218
電池交換 245, 249
電動ウインチリモコン 133, 249

と

ドアの施錠と解錠 86
　Honda スマートキー 86, 87
　解錠してもドアが開かない 295
　キーの種類と機能 86
　キーレスエントリーシステム 91
　後席ドアが開かない 295
　車外でのドアの施錠 / 解錠 88
　車内でのドアの施錠 / 解錠 91
　チャイルドプルーフ 92
　マスタードアロックスイッチでの
　施錠 / 解錠 92
ドアミラー 112
冬期のタイヤ 244
　スノータイヤ 244
　タイヤチェーン 244
トップテザーストラップ 43
トップテザー取付金具 43
トラブルシューティング
　ENGINE START/STOP スイッチの
　パワーモードが OFF モードからアク
　セサリーモードにならない 295
　ENGINE START/STOP スイッチの
　パワーモードが OFF モードに
　ならない 295
　アクセルペダルを踏んでもパーキング
　ブレーキが自動で解除できない 296
　ウインチベルトが作動しない 290
　運転席ドアを開けるとブザーが
　鳴る 296
　エンジンが始動しない 271
　オーバーヒートした 277
　解錠してもドアが開かない 295
　けん引してもらいたい 283
　後席ドアが開かない 295
　シフトレバーが動かない 276
　走行するとブザーが鳴る 296
　パーキングブレーキスイッチを
　押してもパーキングブレーキが
　解除できない 296
　ハイオクガソリンは使える？ 297
　バッテリーがあがったとき 273
　パンクした 251, 259
　ヒューズが切れた 278
　フューエルリッドが
　解錠できない 287
　ブレーキを踏むと音がする 297
　ブレーキを踏むと振動する 295
トランスミッション警告灯 56
トランスミッションフルード 298, 300
トリップメーター 82
ドリンクホルダー 129

な

内蔵キー 86

ね

燃料 298, 300
燃料計 80
燃料残量警告灯 57

は

パーキングセンサーシステム 221
排気ガスの危険性 47
ハイビーム 103
ハイビーム表示灯 62
ハイマウントストップランプ 236
ハザードスイッチ 4
発炎筒 6, 250
バッテリー
充電警告灯 55
バッテリーがあがったとき 273
容量 / タイプ 298, 300
バニティミラー 7
パワーウィンドーの開閉 100
パワースライドドアの開閉 95
自動で開閉するときの条件 97
パンク 251, 259
番号灯 236
ハンドル 111
ハンドル位置調節レバー 111

ひ

ヒーテッドドアミラー 110
非常点滅表示灯スイッチ 4
非常用ベルト 292
尾灯 234
ヒューズ
各ヒューズの装備と容量 279, 281
ヒューズの設置場所 278
ヒューズの点検と交換 282
標識認識機能 204
表示灯 62
ECON モード表示灯 65
アイドリングストップ表示灯
（グリーン） 65, 159
イモビライザーシステム表示灯 64
インフォメーション表示灯 63
オートハイビーム表示灯 66
オートマチックブレーキホールド
システム表示灯 66
オートマチックブレーキホールド
表示灯 66
シフトインジケーター/M
（7 速マニュアルシフトモード）
表示灯 65, 157
シフトポジション表示灯 65, 157
車線維持支援システム(LKAS)表示灯
（グリーン） 65
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ
コントロール(ACC)表示灯
（グリーン） 64
セキュリティアラームシステム
作動表示灯 64
低水温表示灯 62
ハイビーム表示灯 62
方向指示器 / 非常点滅表示灯 62
ライト点灯表示灯 62

ふ

ブースターケーブル 273
フォグライト 104
電球の交換 234
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが
鳴る 296
走行するとブザーが鳴る 296
フューエルリッド
フューエルリッドが
解錠できないとき 287
フューエルリッドの開けかた 224
フューエルリッドの開けかた 224

ブレーキ警告灯(レッド) 53
ブレーキシステム 212
ABS(アンチロック
ブレーキシステム) 218
アクセルペダルを踏んでもパーキング
ブレーキが自動で解除できない ... 296
エマージェンシーストップ
シグナル 219
オートマチックブレーキ
ホールド 215
電子制御パーキングブレーキ 212
電子制御ブレーキアシスト 218
パーキングブレーキスイッチを
押してもパーキングブレーキが
解除できない 296
フットブレーキ 214
ブレーキ警告灯(レッド) 53
ブレーキシステム警告灯
(オレンジ) 54
ブレーキを踏むと音がする 297
ブレーキを踏むと振動する 295
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 54
ブレーキフルード 298, 300
ブレーキ警告灯(レッド) 53
ブレーキシステム警告灯
(オレンジ) 54
フロントシート 116
フロントシート
ヘッドレスト 116, 125
フロントセンサーカメラ 208

へ

ヘッドライト
オートハイビーム 105
ハイビーム表示灯 62
ライト点灯表示灯 62
ヘッドライトレベリングダイヤル 104
ヘッドレスト
フロントシート 116, 125
リヤシート 126

ほ

ホイールカバー 242
ホイールサイズ 299, 301
ホイールナットレンチ
(ジャッキハンドル) 269
方向指示器(ウィンカースイッチ)
方向指示器表示灯 62
ホーンスイッチ 5
歩行者事故低減ステアリング 175
ホンダセンシング 163

ま

マイクロアンテナ 150
マスタードアロックスイッチ 92
マルチインフォメーション
ディスプレイ 81
マルチインフォメーションディスプレイ
メッセージ 67

み

ミラー 112
後方視角支援ミラー 115
サイドアンダーミラー 114
サイドビューサポートミラー 113
ドアミラー 112
バニティミラー 7
ルームミラー 112

む

無段変速オートマチックトランス
ミッション 155

め

メーター
タコメーター 80
燃料計 80
マルチインフォメーション
ディスプレイ 81

メンテナンス 227
Honda スマートキー 245
エンジンルーム内の
メンテナンス項目 231
オイルメンテナンス表示 229
車いす固定装置の点検 248
清掃 246
タイヤの点検と整備 241
メンテナンスを安全に
行うために 228
ライト類の点検と整備 234
ワイパーブレードラバーの
点検と整備 237

も

モード切り換え（エアコン） 149

よ

四輪駆動機構（4WD） 162

ら

ライトスイッチ 103
オートハイビーム 105
ハイビーム表示灯 62
ライト点灯表示灯 62
ライト類の点検と整備 234
後退灯電球 235
後面方向指示器 /
後面非常点滅表示灯電球 235
車幅灯電球 234
制動灯 / 尾灯電球 234
前面方向指示器 /
前面非常点滅表示灯電球 234
側面方向指示器 /
側面非常点滅表示灯電球 234
ハイマウントストップランプ
電球 236
番号灯電球 236
フォグライト電球 234
ヘッドライト電球 234
ラジエーター 277

り

リアシートリマインダー 123
リザーブタンク 231, 277
リフレッシュモード 124
リムサイズ 299, 301
リヤシート 119
リヤシートヘッドレスト 126
リヤシートベルトリマインダー 16
リヤデフロスタースイッチ /
ヒーテッドドアミラースイッチ 110

る

ルームミラー 112

れ

冷却水 277, 299, 301
オーバーヒート 277
低水温表示灯 62
補給 277
レーダーセンサー 209

ろ

路外逸脱抑制機能 198

わ

ワイパー/ ウォッシャー 108
ワイパーブレードラバー 237

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　https://www.honda.co.jp
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/
※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、車両番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名